

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
全 体 に つ い て	「8つのビジョンと基盤整備」の順序について、「子育て」よりも「介護・福祉」が先頭にくるのは違和感がある。少子化が人口問題の根本原因であるのだから、「子育て」「少子化対策」を先頭に持ってくるべき。	今回の基本計画は、「安心」を土台として、その上で人と人との絆を大切にし、未来に希望を持てる日々を送るために大切な「温もり」と「ゆめ実現」の視点から構成しており、施策の優先度を示すものではありません。「温もり」を実現するための「子育て環境日本一・京都の実現」の取組については、京都府の最重要課題の一つであり、計画の内容を府民の皆様にはしっかりと伝えるため、分かりやすい広報冊子や動画を作成するなどの工夫を行います。
	「8つのビジョンと基盤整備」の1つ目が「医療・福祉」であるのは、高齢者向けの施策が最優先であるという印象を受ける。子育て支援の優先度を高めてほしい。	
	「8つのビジョンと基盤整備」について、9ページの表で、3つの視点との対比でまとめられている点は分かりやすいと思うが、「5共生による環境先進地・京都の実現」について、環境問題はすでにナショナルセキュリティレベルの課題になっており、温暖化や廃棄物などあらゆる問題がリスクになっているので、「温もり」ではなく「安心」の視点で考えるべきではないか。	環境分野については、様々な視点からのアプローチがあると考えています。京都府では、「安心」の視点からも環境問題は重要であると考えており、気候変動への対策等に取り組んでおりますが、環境配慮活動が地域経済の活性化につながり、人々の暮らしにもやさしい好循環を生み出す社会、暮らしと自然が共生する地域社会の実現を目指しており、「共生」をキーワードとしたビジョンに位置付けております。
	中間案は、2019年策定の総合計画の到達点と課題が不明確である。もともとの「5つのエリア」において具体的に明記されていた計画は、この3年でどのような進捗状況にあるのか。評価も総括も明確でないままに、新たな計画を掲げても必要性も根拠も乏しいものと言わざるを得ない。	「5つのエリア構想」については、エリア毎に地域の個性ある魅力づくりや更なる成長・発展につなげる構想としてそのコンセプトを示していましたが、少子高齢化や人口減少の進展等により、それぞれの地域だけでは地域の魅力と活力の創造に取り組むことが困難になっています。こうした地域振興を進めていく上での前提条件の変化に対応し、歴史的、地理的に、また文化面、産業面における各市町村間の強い連携を土台として、エリアをまたがる相互連携について京都府が市町村や関係機関と協議しながら施策展開し、相乗効果を図っていくこととし、今回その取組の方向性として「8つの広域連携プロジェクト」を発展的に改めております。

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
① 安心できる健康、医療、福祉の実現	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」について、新型コロナウイルスの感染拡大により、小学生や保育所等に通う幼児の感染が確認された。新型コロナウイルスからの感染を防ぐ為には、うがい、手洗いの励行など、厚生労働省によるガイドラインに沿って注意してほしいが、マスク着用やワクチン接種は、幼児にとって身体的負担があると思うので、周りの大人が気をつけ、見守る必要がある。新型コロナウイルス感染対策も日々変わっていき、感染状況も変化するので厚生労働省や放送局などの報道機関はもちろん、京都府も新型コロナウイルスに関する最新情報の発表が必要。</p> <p>また、静岡県の保育所で幼児が通園バスの車内に取り残され、熱中症で亡くなる痛ましい事故があったことを踏まえ、府内の多くの保育所、幼稚園で幼児が安心、安全に生活できる体制づくりの情報共有をし、保育実践に役立てる事や、保育所職員が1人の幼児に対して多く関わられるよう、保育職員の配置基準の引き上げが必要だと思う。</p>	<p>保育所等における新型コロナウイルス感染症対策に関する国からの情報を共有する等、取り組んできたところです。今後も、子どもが安心・安全に生活できるよう、国のガイドライン等に沿って感染症対策が行われるよう取り組みます。また、国により、バス送迎に当たっての安全管理の徹底に関する緊急対策が示されており、京都府においても、安全装置の義務化に加え、安全管理の徹底に関するマニュアルについて運用の徹底を図っています。</p> <p>職員の配置基準の引き上げについては、子どもが安心して安全に生活できる体制づくりができるよう、国にも要望してまいります。</p>
	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」について、2022年10月から75歳以上の高齢者が利用する後期高齢者医療制度の窓口負担が変わることで生活への不安が残る。高齢者の意見を聞き、制度の問題点や今後の対策・制度の改善点を考えてほしい。</p>	<p>国の制度である後期高齢者医療制度について、高齢者が必要な医療を受けられないといったことがないよう、国に対し、財政支援の一層の強化を求めています。</p> <p>また、国の医療保険制度を補完する制度としての老人医療助成制度については、制度のあり方について、事業実施主体である市町村の意見を聞いてまいります。</p>
	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」について、2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症を発症するとの推計がある。認知症の早期発見、早期受診により認知症の診断ができれば症状や要介護度にあった介護、福祉サービスの利用や投薬治療により、症状の進行を遅らせることはできるかもしれないが、認知症や軽度認知症状(MCI)の方も人それぞれで、受診を拒んだり、症状の自覚がなかったりする方もいると思う。無理強いせず、当事者のペースに合わせてあせらずゆっくり早期受診を促してほしい。そのためには多くの府民に認知症サポーター、講習会の受講をすすめるとともに、オンラインも活用した形で、講習会を開講してほしい。</p>	<p>京都府では、高齢者が日頃から受診する診療所等のかかりつけ医や地域の歯科医師、薬剤師等が適切な認知症の知識や本人・家族の支援の方法を学ぶ認知症対応力向上研修を実施するとともに、認知症医療や介護サービスにつながない方を適切な医療や介護につなげる「認知症初期集中支援チーム」を全市町村に設置して、府民の認知症の早期発見・早期診断・早期対応への支援を行っているところです。御意見のとおり、府民自身が早期発見・早期診断・早期対応の重要性を正しく理解することが大切であり、広く認知症サポーター講座等を受講いただくため、既にオンラインで開催している地域の事例や方法を他地域にも情報提供することで、オンラインで開催できる地域を増やしてまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
① 安心できる健康、医療、福祉の実現	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」について、京都市左京区には「高齢者にやさしい店」事業があるように、働く方々がどれだけ高齢者や認知症の方に対して理解や関心があり、対応できるかが大切だと思ふ。雇用のあり方が変化し、パート、アルバイトも増加、中途採用者がいる事も考え、従業員教育がどれだけできるかが必要。</p>	<p>京都府では、銀行、コンビニ、スーパー等地域の企業・事業所への認知症サポーター講座と高齢者や認知症の方への傾聴・接遇講座をセットにした研修を受講していただくことで「京都高齢者あんしんサポート企業」として、高齢者や認知症の方へのやさしい声かけや見守り等の取組を行っていただいています。同サポート企業は、令和4年9月末現在で3,578企業・事業所を養成しており、各サポート企業が従業員全体に広がるよう、全従業員のサポーター講座受講などの従業員教育を促してまいります。</p>
	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」について、要介護認定を受けた被介護者への介護度や症状、どのような問題を抱えているかによってケアプランを立て、介護サービスを提供する事はもちろん、家族である介護者への家事支援サービスなどの提供が必要。また、小・中学生や高校生が、介護が必要な家族を支える「ヤングケアラー」が社会問題になっており、家族を介護する事で遅刻や欠席など通学が困難になり、学校生活や教育を受ける権利や友達や教員、地域社会との交流を失い、孤立を深めている。ヤングケアラーや介護離職者の調査を行い、個々が必要とする支援を行う事が必要。</p>	<p>要介護4・5の在宅高齢者の家族を中心に、家族・介護者の負担が大きくなっているところであり、市町村とも十分調整し、家事援助サービスの導入検討などレスパイトの充実に努めています。</p> <p>また、高齢者への総合的な相談窓口である地域包括支援センターにおいては、介護者に対する相談も行っており、介護離職防止に向けた休暇制度の紹介等もできるよう、京都府からも情報提供を行っているところです。</p> <p>また、ヤングケアラーへの支援に向けた課題を把握するため、令和3年度に介護支援専門員等への調査を実施したところ、困った時に相談できる窓口を知ることや、ヤングケアラーの認知度向上が必要との御意見を多くいただきました。このような課題を踏まえ、令和4年度に「京都府ヤングケアラー総合支援センター」を開設したところであり、同センターが中心となって、認知度向上の取組や、相談から必要な支援につなげる仕組みづくりを進めてまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
① 安心できる健康、医療、福祉の実現	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」の「定年退職者や子育てを終えた層など多様な人材を～(略)」について、厚生労働省所管の「介護労働安定センター」によると、65歳以上の方の事業所で働く割合は13.7%で、ホームヘルパーとして働く65歳以上の方は25.4%とのこと。加齢に伴う疾病、けが、一斉退職などにより事業が成り立たなくなる不安もあることから、訪問介護を職業として魅力的なものにするために、若い世代に伝えていくことが必要。</p>	<p>京都府では、若者に福祉業界に興味を持ってもらい就職の選択肢のひとつとしてもらえるよう、「きょうと福祉人材育成認証制度」を創設し、福祉業界の人材育成に取り組む事業所を認証、公表しており、今後も介護や福祉の仕事の魅力発信に取り組みます。</p> <p>また、職員の業務負担を軽減するなど働きやすい職場環境を整備するため、訪問介護事業所等へICT機器の導入等を支援しています。</p> <p>また、介護事業者の中でも、特にホームヘルパーは高齢化や担い手不足が顕著である一方、訪問介護は高齢者の在宅生活を支える大切なサービスであると考えております。</p> <p>京都府においても、ホームヘルパーの資質向上や広報活動に取り組む「京都府ホームヘルパー連絡協議会」とも連携し、ホームヘルパー業務の魅力発信に取り組んでまいります。</p>
	<p>「①安心できる健康・医療・福祉の実現」について、保健所を減らすのではなく、人員、内容を充実させ、日頃から地域の住民の健康を守る予防医学体制をつくるのが危機事態に地域を把握でき、対応がきちんとできるのではないかと。</p>	<p>保健所の体制については、保健所が公衆衛生の要としての役割を果たせるよう専門性の向上を図るとともに、より質の高いサービスの提供や地域課題に迅速に対応できるよう集約化しており、新型コロナウイルス感染症拡大期においても、そのメリットが発揮できていたものと考えています。引き続き、新興感染症発生等の健康危機管理事象に対して機動的に対応できるよう、人員体制を強化してまいります。</p>
	<p>「1安心できる健康、医療、福祉の実現」の「医療や福祉・介護・保育分野向けの新製品サービス～(略)」について、食事の際に必要な自助具などの介護、保育分野向けの新製品、在宅で使える医療機器の販路拡大支援として、介護者や保育者、医療従事者だけでなく、家族の方や当事者らの意見も参考に、機能性とデザインの良さが両立した製品開発に取り組んでほしい。</p>	<p>府内中小企業が製造する新たな福祉・医療関連商品・サービスの導入や販路拡大を推進するため、「チャレンジ・バイ(京都府新商品・サービス販売促進支援制度)」を設けています。</p> <p>また、福祉・医療分野製品の開発企業と医療現場のニーズを把握するサポーターによる相互ネットワーク「京MED」を構築し交流を重ねているところです。これらの仕組みを活用し、デザインや機能性等、ユーザーの方の御意見を反映した共同開発や、販路開拓をさらに推進していきたいと考えております。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
② 災害・犯罪等からの安心・安全の実現	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「被災地域からの安全避難のための～(略)」について、ハザードマップが作成され、公共施設で配布されていても、いつどこに避難すればいいかわからない人が多く、高齢者や認知症の方などがどこにお住まいか把握できていないことがある。</p> <p>町内会や自主防災会任せにせず、避難に援助が必要な方を把握し、地域住民や関係機関と連携する為にどのような支援、避難方式が必要か、あらかじめ考えておくとよいと思う。「個人情報～」との意見もあるかもしれないが、人命を助けるために、必要最小限の情報を集めることが必要。</p>	<p>災害発生時には、要配慮者の避難、救助等を迅速に行う必要があり、平時から関係機関が要配慮者情報を共有することが重要であるため、府内全ての市町村において避難行動要支援者名簿を作成し、地域で情報共有を進めているところ。</p> <p>市町村では、要支援者毎の状況を踏まえた適切な避難を支援するため、ハザードリスクや心身の状態、社会的孤立度等をもとに優先度の高い方から順次「個別避難計画」の作成が進められています。</p> <p>京都府ではこの取組を促進するため、防災部局と福祉部局等が連携し、市町村への適切な指導や、研修会の開催などの支援を行ってまいります。</p>
	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「過疎化、高齢化等による地域防災力の～(略)」について、阪神淡路大震災の時、地元企業の協力の必要性は高まったが、地元企業が被災する可能性もあるため、自衛隊による被災地支援活動、特にインフラ復旧、陸上自衛隊需品課職員による温かいご飯、みそ汁などの食事提供や入浴サービス、警察による行方不明者捜索は必要。また、民間企業や個人事業主で、キッチンカーで飲食物を提供する事業者を募り、災害時に協力してくれる方との協定制度を早期に使ってほしい。</p>	<p>災害時において地元企業等と連携して被災地を支援する取組は重要と考えており、様々な企業等と物資供給などの応援協定を締結しております。</p> <p>今後も、災害時の被災地支援が円滑に行われるよう、民間企業や消防・警察・自衛隊等の関係機関、災害ボランティア等と連携を強化し、取組を進めてまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
② 災害・ 犯罪等 からの 安心・ 安全 の実現	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「あらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水プロジェクト」の充実」について、流域治水が周知され、水害ハザードマップを持っている方も多いと思うが、高齢者世帯など災害弱者となりうる世帯や個人、河川周辺にある老人ホームの入居者等の避難行動を考える必要がある。また、豪雨災害や水害が発生した時に救助活動等を行う防災組織、水防団があるが、仕事と活動の両立や新人団員の募集に苦勞するなど、地域防災力の低下が懸念される。消防団と同様、団員の募集の継続とともに、若い団員に技術、知識をどう継承するかが課題である。</p>	<p>災害発生時には、要配慮者の避難、救助等を迅速に行う必要があり、平時から関係機関が要配慮者情報を共有することが重要であるため、府内全ての市町村において避難行動要支援者名簿を作成し、地域で情報共有を進めているところです。</p> <p>市町村では、要支援者毎の状況を踏まえた適切な避難を支援するため、ハザードリスクや心身の状態、社会的孤立度等をもとに優先度の高い方から順次「個別避難計画」の作成が進められています。</p> <p>京都府ではこの取組を促進するため、防災部局と福祉部局等が連携し、市町村への適切な指導や、研修会の開催などの支援を行ってまいります。</p> <p>水防団について、市町村等の水防管理団体の水防活動が十分行われるよう、京都府では激励費補助金の交付や功労者表彰に関する事務により支援しています。引き続き、献身的に活動を行っていただいている水防団の維持や、水防技術・知識の継承に向けた支援を続けてまいります。</p>
	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「京都府市町村災害復旧サポーターによる市町村への技術的支援の強化」について、災害発生時や今後のインフラ整備に関わる技術系の都道府県職員が足りていない。魅力について先輩職員からの声で発信する事や、土木、建築の技術系女性職員が働きやすい職場にする為の更衣室の設置など、職場環境の改善、出産、育児、家庭生活と仕事の両立ができるような職場づくりにより、技術系職員を確保することが必要。</p>	<p>技術職の魅力伝えるため、先輩職員のインタビュー記事や動画を京都府ホームページに掲載しているほか、仕事体験やガイダンスにおいて先輩職員が業務紹介を行っています。また、御指摘のような職場環境の整備を進める中で、多くの女性技術職員が出産・育児と両立しながら活躍しているところであり、今後とも技術職員の確保に取り組んでまいりたいと考えております。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>② 災害・犯罪等からの安心・安全の実現</p>	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「学校等の関係機関と連携した、～防犯教育」について、子どもが被害者となる犯罪が後をたたないため、子どもの発達や学年に応じて、誰と、何をするかを連絡することを伝える習慣をつけることや、警視庁がすすめる「ついて「いか」ない。車に「の」らない。「お」お声を出す。「す」ぐにげる。おとなの人に「し」らせる。」の合い言葉である「いかのおすし」を覚えてもらうこともいいと思う。</p> <p>また、女子中高校生がスマートフォンを通して、性被害に巻き込まれないよう親としっかり話し合う機会を設け、販売店で従業員からも説明を受けてほしい。小学校下校後の安全のため、放課後児童クラブ、児童館職員との連携も必要。</p>	<p>子どもたちの防犯や安全対策については、子どもたちが実際にまち歩きを行い、どのような場所で犯罪が起こりやすいかを理解し犯罪被害を回避する能力を身に付ける「地域安全マップづくり講習会」を小学校等で実施している他、地域の実情に応じた防犯活動を横断的に取り組む府民協働防犯ステーションの推進、子どもの登下校時の見守り活動を行うボランティアに対する活動資機材の交付など、学校や児童館等の関係機関と連携し様々な取組を推進しており、子どもたちの発達段階に応じた安全対策指導等を引き続き進めてまいります。</p> <p>さらに、これらの取組に加え、日常生活の中でも防犯活動を行うことができる「ながら防犯」の活動を促進することにより、より多くの方に地域の安心・安全に関わる取組を推進することで、府内全域で地域の防犯力を高めてまいります。</p> <p>また、SNS等のインターネット上における青少年の性被害防止対策につきましても、被害の未然防止のため、PTAや青少年関係団体、事業者等と連携して、メディアリテラシーや情報モラルの向上のための取組を実施するなど、青少年が自らを守る意識を醸成するとともに、保護者へ向けた啓発活動を進めてまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>② 災害・ 犯罪等 からの 安心・ 安全の 実現</p>	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」について、福井の原子力発電所があれば、京都の農業漁業、飲料水の水源の琵琶湖、地下水が汚染され、産業は壊滅。府民も住めない京都になる。府として関西電力や福井県に廃炉とするようきちんと行ってほしい。また、想定外の水害等が起こっていることを踏まえ、現在の避難所の再チェックを行ってほしい。</p>	<p>原子力発電所については、国が進めるエネルギー政策の根幹であり、国が安全性の確保に責任を持って対応していますが、京都府として、府民の安心・安全を確保する観点から、府と関係市町で構成する地域協議会の場で、審査において安全とされた根拠等を国や関西電力に追究するとともに、国に対して原子力発電所の安全性向上のための、不断の取組を求めているところです。今後も万一の原子力災害発生時における避難計画の実行性を高めるため、避難道路や必要な資機材等の整備を進めてまいります。また、避難所については、近年、激甚化・頻発化する自然災害やコロナ禍を踏まえ、京都府では令和2年度に府内全ての避難所で「避難所緊急実態調査」を行い、現状や課題を確認したところです。調査を踏まえ、避難所の収容人数の確保や生活環境の改善に向けた取組として、分散避難や感染症対策のための資機材の整備などを進めており、今後も安心して避難していただけるよう、多角的な取り組みを進めてまいります。</p>
	<p>「2災害・犯罪等からの安心・安全の実現」の「先進的な危機管理体制の構築と災害発生時の対応力の強化」について、避難の際、避難所ではペットをケージに入れることができるよう飼い主は準備し、行政職員はケージを置く安全な場所への誘導をしてほしい。また、避難が長期化した場合を想定し、ペットフードの備蓄や内服薬の用意、ペットが疾患・負傷した場合の獣医師との協力体制等が大事。</p>	<p>京都府では、令和2年度に府内全ての避難所を対象として、ハザード情報を含めた調査を実施し、「避難施設カルテ」としてホームページで公表しており、ペット同行避難や災害時における対応については、府内各市町村防災計画において定め、市町村防災計画におけるペット同行避難が円滑に進むよう、災害時の受入に係るマニュアルを京都府が作成し、指導・助言を行うこととしています。また、京都府では(公社)京都府獣医師会と災害協定を締結しており、災害時には協力して被災動物への対応にあたることとしています。なお、飼い主への周知については、京都動物愛護センターにおいて災害対策講座を開催するなどしており、今後も引き続き啓発に努めてまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
③ 子育て環境日本一・京都の実現	<p>「3子育て環境日本一・京都の実現」の「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」「赤ちゃん運動会」の開催について、赤ちゃんが参加できる催し物に赤ちゃんの親や家族だけでなく多くの府民が参加することで「泣いてもかましまへん」の寛容な気持ちを持ってほしい。</p>	<p>コロナ禍で子育てに不安や孤立を感じている人が増えている中、地域で「赤ちゃん運動会」を開催することにより、親同士、地域住民、高齢者などあらゆる世代の人が応援し交流することで、地域で子育てをあたたく見守る風土づくりを進めます。</p> <p>また、子育てをみんなで支え合う風土を築くため、WEラブ赤ちゃんプロジェクトの普及啓発を進めているところであり、府民交流フェスタや京都サンガ戦等のイベントでのステッカー配布や身近な店舗での配架等、広く府民が参加するイベントや訪れる場所での普及啓発を引き続き進めてまいります。</p>
	<p>「子育て環境日本一・京都の実現」の「第1子を持つとする方の不安等を解消し～(略)」について、府内の保健所が減り、公的な相談窓口が不足しているので、子育てを終え、子どもが社会人、大学生になった方、中学生、高校生になり、親の手を離れた方の体験や、府内で保育士や幼稚園教諭の育成に取り組む大学教授などを講師に招いた講演会の開催を検討してほしい。</p>	<p>育児や子育ての経験者、高齢者等を対象に、経験等を生かして活動していただく「産前・産後訪問支援員」や「子育ての達人」等を養成しており、市町村とも連携しながら、地域の人が協力し合い、子育てを見守り支える仕組みの構築を進めてまいります。</p>
	<p>「3子育て環境日本一・京都の実現」の「全国トップの不妊治療助成の更なる拡充～(略)」について、今年4月から不妊治療の健康保険の適用範囲が拡大され、多くの府民が治療を受けられることが期待されるが、不妊治療は診察、治療する必要があり、職場はもちろん多くの府民が、不妊治療を受けている夫婦、カップルがいる事を理解し、啓発していくことが大切である。</p>	<p>全国トップの不妊治療助成をさらに拡充するとともに、不妊治療と仕事の両立について職場で相談しやすい環境づくりや企業等における不妊治療休暇制度の導入を促進してまいります。</p>
	<p>「3子育て環境日本一・京都の実現」の「京都府外の方の府内への定着を図る「移住婚」～(略)」について、スポーツ観戦をきっかけに立場や年齢の異なる様々な府民が出会い、交流するのはいいことだと思うが、スポーツ観戦を最初から「スポーツ婚」の取組にすることは無理があると思う。結婚に対する考えは多様化しているので、最初から「スポーツ婚」は出さず、スポーツ観戦を通じて府民の交流が図られることを願う。</p>	<p>平成26年度に実施した「京都府少子化要因実態調査」において、男女とも20歳から40歳の未婚者の8割以上が結婚を望んでいること、また、「有配偶出生率」は全国平均並み(平成29年:対千人78.2(全国数値78.5))であるものの、特に25～39歳の女性の未婚率は41.0%と高い水準にあること(令和2年:全国平均37.6%)も踏まえ、婚活支援センターは結婚を希望する独身男女の婚活を支援し、出会いの場を提供する目的で運営しています。</p> <p>御指摘のとおり、結婚に対する考えは多様化しておりますので、この取組は結婚を望む方の希望が叶えられるよう自然な出会いの場を提供するものとして取組を進めていきたいと考えております。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
③ 子育て環境日本一・京都の実現	<p>「3子育て環境日本一・京都の実現」の「子どもたちが地域行事の伝承～(略)」について、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、様々な地域で行われてきた神社の祭礼行事や地蔵盆が中止になったが、行動規制の緩和もあり、今後の社会状況によっては再開される地域もあると思う。地域行事に参加するとクラスの友達だけでなく、地域の大人や自分より年下の小さな子どもなど、いろいろな人と出会い、何らかの役目を担い、人の役に立つという思いと自覚が芽生えるかもしれない。地域行事は地域住民を結束させ、力を合わせて行事を成功させ、協力していくことを小学生たちに学んでほしい。</p>	<p>地域の行事は、地域の文化への理解や人とのつながり、社会への参画意識の醸成につながるものと考えております。 小学校においては、自分の住んでいる地域を理解する学習や、祭りなど身近な文化財をとらえて地域社会への参画意識をはぐくむ取組を実施しております。</p>
	<p>「3子育て環境日本一・京都の実現」の「子どもが安心して教育を受け成長できる環境づくり」について、京都府立京都学・歴彩館の1階には実習室があり、夕方になると近所にある府立高等学校などの高校生が自習に来ている姿を見て感心している。その一方で、不登校、進路変更等様々な事情から夜間定時制のある学校に通っている生徒に対して、府と市が一体となった教育施策の支援、夜間定時制高等学校、夜間中学校の存続、環境整備が必要である。</p>	<p>夜間中学校については、京都市と連携して、府内在住で京都市内に勤務される方は、京都市立洛友中学校で学ぶことができるようになりました。 また、府立高校の今後10年間の基本的な方向性や目指すべき将来像等を示した「府立高校の在り方ビジョン(令和4年3月策定)」においても、多様な生徒の学習ニーズに対応できる教育環境の充実・強化を図ることとしております。多様な学びの場を確保していくことが重要であると考えており、これからも取組を進めていきます。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
④ 誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現	<p>「4誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現」の「人権教育・啓発の推進、相談体制の充実等を図ることで～(略)」について、京都府人権教育・啓発推進計画(第2次:決定版)では、女性に対する人権問題が取り上げられていた。女性を性別だけで見下したり、劣っていると決めつける考えや行為を改め、社会全体で差別をなくすために、男性が「もし自分の母や姉、妹、妻が様々な差別に苦しむような事があれば」という思いを持ち、傍観者ではなく当事者の立場に立って、共に考えていくことが必要であり、府内企業の管理職や経営者等へのハラスメント対策の研修の実施、相談や被害者支援の取組の推進、アウトリーチの防止に取り組むことも大事。</p>	<p>ハラスメント対策等については、京都ウィメンズベースアカデミーにおいてハラスメントの研修を実施し、京都府男女共同参画センターにおいて女性相談や女性向け労働相談の窓口を設けております。今後もこうした取組を続け、ハラスメントの防止と被害者の支援に取り組んでまいります。</p> <p>また、性的少数者の方々に対する差別等への取組については、分野別基本施策⑤-5で、性の多様性などを含む観点から府民の理解を深めるための啓発に取り組む旨を記載しているところです。</p>
	<p>「4誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現」の「京都ウィメンズベース」、「マザーズジョブカフェ」、「京都府男女共同参画センター(らら京都)」、「京都府生涯現役クリエイティブセンター」が連携した～(略)」について、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による女性の雇い止め等が問題視される中、女性が安心して働いたり起業したりするためには「京都ウィメンズベース」の役割は大きい。同じ施設内にある「マザーズジョブカフェ」「京都男女共同参画センター(らら京都)」とも連携し、業務継続してほしい。</p>	<p>御指摘のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大により女性の労働環境は厳しい状況が続いておりますので、企業で働く女性や女性起業家を支援する「京都ウィメンズベース」と女性の就労支援窓口である「マザーズジョブカフェ」や女性相談窓口を持つ「京都府男女共同参画センター」とが連携しながら、困難・課題を抱える女性を支援してまいります。</p>
	<p>「4誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現」の「障害のある人もない人も一緒に～(略)」について、視覚障がい者がスポーツ競技に参加し、自身の可能性を広げてもらうためにも、視覚障がい者の選手と晴眼者の伴走者二人一組の参加が増えることが大事。そのためには多くの府民が視覚障がい者や障がい者福祉に関心を持ち、できれば視覚障がい者ガイドヘルパー講習を受講してほしいと思うが、お互いが信頼し、楽しく参加することが一番である。</p>	<p>各種スポーツ大会やイベント等において、分野別基本施策⑦-25に記載のとおり、障害のある人もない人も一緒に挑戦しあう、楽しむ大会・イベント等の機会創出を図っていきたくと考えています。</p> <p>スポーツ活動をきっかけとして障害に関心を持っていただける方が増加していくよう、取組を進めてまいりたいと考えております。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
④ 誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現	<p>「4誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現」の「障害のある人もない人も一緒～(略)」について、シッティングバレーは健常者の選手もコートの床に座れば、身体障がい者の選手と条件は同じになり、障がいがある人もない人も一緒に挑戦、楽しみ、参加できる。バレーボール部に所属している中学生、高校生もシッティングバレーに挑戦することで、下肢に障がいのある身体障がい者の立場を理解でき、学習の場になると思う。また、小、中高と特別支援学校や小、中学校の特別支援教室の児童、生徒の交流やインクルーシブ教育を推進する為に、シッティングバレーのような障がい者スポーツを役立ててほしい。</p>	<p>インクルーシブ教育の構築を進めると共に、障害者スポーツを通じて交流活動を実施する等、共生社会の形成に向けて、障害者の立場を理解できる取組に取り組んでまいります。</p>
	<p>「④誰もが活躍できる生涯現役・共生京都の実現」の「シニアボランティアバンク(仮称)開設による～(略)」について、高齢者の方が、生涯教育講座、ボランティア活動に楽しく参加するためには生活のゆとり、余裕が必要である。</p>	<p>いただいた御意見は大切な視点であり、今後の施策検討の際の参考とさせていただきます。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
⑤ 共生による環境先進地・京都の実現	「5共生による環境先進地京都の実現」の「多様な主体の連携による～生物多様性保全に取り組みたい民間企業～(略)」について、生物多様性センターの開設、基金の創設、パートナーシップ制度の創設はいいことだが、アユモドキやチマキザサの生息地保全など、自然環境保全について(自分も含め)多くの府民が感心を持ち、生息地の環境破壊がないよう慎重に検討する必要がある。	「京都府絶滅のおそれのある野生生物の保全に関する条例」に基づき、特に保全を図る必要がある種を指定し、捕獲や所持、譲渡し等を規制するとともに、地域住民、保全団体、関係団体などが行う保全活動の支援をするなど多様な主体が協働して保全活動に一体的に取り組んでおります。また、指定希少野生生物の保全のため重要と認める区域を生息地等保全地区に指定し、工作物の新築、土地の開墾等の行為を規制しております。
	「5環境先進地・京都の実現」の「運輸部門からの温室効果ガス排出量削減に向けた～(略)」について、トラックのみの荷物輸送に頼らず、トラックと鉄道を併用した貨物輸送、モーダルシフトを多用する輸送手段を進めることが必要。	運送事業者の温室効果ガス排出量の削減については、京都府地球温暖化対策条例に基づいて一定規模以上の事業者には削減計画・報告書を御提出いただくなど、削減に向けた取組を推進しております。事業者の皆さまの御努力により排出量は削減傾向にあります。さらなる削減に向けて、車両の電動化やモーダルシフトの推進等、一層取組を進める必要があると考えており、いただいた御意見は今後の施策検討の際に参考とさせていただきます。
	「5共生による環境先進地・京都の実現」の「規格外の農産物も有効活用～(略)」について、規格外の野菜は売り場に出せなくても加工し、消費者も積極的に購入することで食品ロス削減に関わり、社会の役に立てるのではないかと。多くの府民がエコバックを持参し脱プラスチック化も進んでいるが、さらに継続が必要。	京都府ではSDGsへの関心の高まりや多様化する食のニーズに対応するため、オープンイノベーションを促進する「京都食ビジネスプラットフォーム」の活動等を通じて、「生産」から「加工」「販売」の各業種の戦略やアイデアを組み合わせることで、新たな商品やサービス等の開発を推進することとしており、その中で規格外の農産物を有効活用していくことも考えております。また、脱プラスチック化に向けた取組については、いただきました御意見のとおり、エコバッグの取組継続も含め、プラスチックごみの発生抑制等の取組促進によるゼロエミッションな社会の構築に取り組んでまいります。
	「5共生による環境先進地・京都の実現」の「山陰海岸ジオパークや自然公園等の自然岡景地を保全」について、山陰海岸ジオパークや京丹後市の自然環境保全に取り組むためには、経ヶ岬にある在日アメリカ軍の防衛施設、経ヶ岬通信所の地域と地域住民の暮らしを抜きに考えることはできない。軍人が外出した後の地域で交通事故が発生していることなどを踏まえ、地域住民が安心して過ごせるようにすることや、人権を守ることが必要。	いただいた御意見は、今後の施策検討の際の参考とさせていただきます。

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
⑥ 未来を拓く京都産業の実現	<p>「6未来を拓く京都産業の実現」の「女性の健康や子育ての悩み、課題等をテクノロジー～(略)」について、男性の立場で考えても、理解し手助けをすぐに行うことは難しいかも知れないが、フェムテックについて少しでも知っていたら、落ち着いて行動し、妻や母親、姉妹の訴えを冷静な態度で聞き、家族を支える力になれると思う。フェムテックに関する製品も色々あり、知識として覚えておくことが大事で、男性もわかったことを妻や母親、姉妹などの家族と話し合ってみるのも良いと思う。ピンクリボンセミナー2022が10月に開催されるが、今後もフェムテックに関する会が開催されることが大事。</p>	<p>女性の健康や子育ての悩み・課題等をテクノロジーで解決するフェムテック分野について、医療・福祉分野の新製品サービスの販路拡大や産業化に向けた開発を支援してまいります。</p> <p>また、乳がん・子宮頸がんなど女性特有の疾患等、女性の健康について、引き続き普及啓発を行っていくとともに、乳がんに関する啓発活動であるピンクリボン運動についても、ピンクリボン京都実行委員会と協働し活動を継続してまいります。</p>
	<p>「6未来を拓く京都産業の実現」の「関西文化学術研究都市において～(略)」について、「けいはんなオープンイノベーションセンター」では、研究開発を行う施設として、作物栽培技術の開発、機能性食品の応用など農業と健康寿命社会の形成に資する研究が行われているとのこと。日本の食料自給率は38%と先進国の中ではきわめて低く、今後国内で消費する食料の確保に不安を感じている。耕作放棄地など農業に関する問題や食物アレルギーなどの食と健康問題にどう向き合っていくのかを聞きたいし、木津川市にある京都大学院農学研究科附属農場との共同研究や研究発表を推進してほしい。</p>	<p>農業に関する問題や食と健康問題に関する大学等との共同研究や研究発表については、今後、けいはんな学研都市の南田辺西地区に「食」に関する研究機関やスタートアップ企業の集積の促進を目指しているところであり、オープンイノベーションの場を創出することで、大学等との共同研究や研究発表にも取り組んでまいります。</p> <p>なお、耕作放棄地については、農地の規模拡大を目指す農家もあることから、そうした農家へ農地を引き継ぐことにより解消を図ってまいります。</p>
	<p>「6未来を拓く京都産業の実現」の「京の食」ブランド価値をさらに高めて～(略)」について、食の地産地消に取り組む消費者が企業が増え、地元で生産された京野菜などの農作物を積極的に購入することで地元の経済効果が上がり、生産者の収入になる。また、京野菜、地元で生産された農作物の輸送距離を減らすことで輸送コストの削減、トラックからの温室効果ガス削減にもなるので、今後京野菜を食材としてどう活かすか、調理方法の研究が必要。</p>	<p>京都府ではSDGsへの関心の高まりや多様化する食のニーズに対応するため、オープンイノベーションを促進する「京都食ビジネスプラットフォーム」の活動等を通じて、「生産」から「加工」「販売」の各業種の戦略やアイデアを組み合わせることで「京の食」のブランド価値を更に高め、新たな商品・サービス等の開発を推進することとしており、その中で御意見いただきました新しい調理方法の研究などについても支援してまいります。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>⑥ 未来を拓く京都産業の実現</p>	<p>アセットマネジメントの方針として地域振興、人材活用を掲げる必要があると考える。 IoT、ロボットを活用して公共設備を一括管理することは地域産業と公共施設・サービスの切り離しにつながりかねない。人材不足をIT化によって解決していく必要はあるが、根本として賃金を上げる必要はないのか、言及されていない。地域公共施設を地域福祉と一体となって地域産業で活用していくことが地方行政の自立とあらゆる都市問題の解決に寄与できると考える。人材マッチングサービスは人口流出などの問題としても推進して欲しい。</p>	<p>道路や河川などのインフラ施設に関するアセットマネジメントについては、持続的に安心安全な利用を提供することを目的に、AI、IoT、ロボット等、新技術の活用により効果的にメンテナンスを行うこととしており、新技術の活用により一括管理するものではありません。 賃金引上げについては、労働者の生活の安定と向上が経済の好循環をもたらす、地域経済の活性化につながることから重要である一方で、賃上げの原資となる収益の拡大が求められる中小企業の事業継続とのバランスを図りながら引き上げていくことが大切であると考えています。京都府においては、分野別基本施策⑫に記載のとおり、中小企業の安定した経営と成長を支援し、また、分野別基本施策⑭に記載のとおり、就労環境の改善・整備により、多様な人々が柔軟で働きやすい環境づくりに取り組み、総合的に最低賃金の引き上げに取り組んでまいります。 人口流出などの問題については、高校卒業時や大学低回生からのキャリア教育の推進や学生の中長期の有償型職場体験(就職トライアル)等の実施を支援することで、魅力ある府内企業への就職につなげてまいりたいと考えております。</p>

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
⑧ 交流と連携による活力ある京都の実現	地域の交流を活性化していくためには、府民が気軽に集まれる「場所の提供」が必要だと思う。例えば、都城市立図書館のような、小さな子どもが遊べ、学生が勉強ができ、お年寄りが集まってお喋りができる場所があれば、地域の交流はどんどん深まるのではないか。	地域の絆と交流を通じた活力ある地域づくりについては、基本計画の「8つのビジョン」に掲げており、大学・学生の力を生かした地域活力の創造、移住者が活躍できる地域づくり、観光を通じた交流機会の創出、スポーツや健康づくりを通じた地域社会の活性化について、市町村と連携しながら進める予定であり、様々なかたちで地域の交流機会を創出してまいります。
	8つのビジョン「8交流と連携による活力ある京都の実現」の「2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)開催時のMICEの誘致強化～」について、今後の国内の新型コロナウイルス感染症に対する行動規制の緩和、外国人渡航者の受入、国内の人流の移動に注視し、国際会議、例えば世界文化遺産と都市の共存や山陰海岸ジオパーク(海岸線の事前環境にどう取り組むか)等、京都府だからできることはある。	御意見のとおり、京都府だからこそ開催できる国際会議のテーマが多くあると考えます。そのような国際会議の誘致を進めるとともに、地域資源を活用した多様なMICEを府域へ誘致する取組を進めてまいります。
	8つのビジョン「8交流と連携による活力ある京都の実現」で、「全国から京都に集う16万人の「学生の力」を生かした」などと、大学生を「活用」するような施策が種々取り上げられているが、続くコロナ禍そして物価高騰の最中において、学業生活もままならない学生たちも少なからず存在し、様々な支援・サポートなくしては退学・休学を余儀なくされるケースが増している。大学生そのものがどんどん減少していく状況になりつつある今、全国から若者を引き寄せるための積極的な学生支援策、学生生活支援策、大学支援策を打ち出すべきではないか。	全国から若者を引き寄せるための方策の一つとして、大学での学びの魅力向上が必要と考えており、分野別基本施策⑨-2に記載のとおり、「学生とともにのぼす京都プロジェクト」において、多様な学生を受け入れる魅力的なプログラムの開発や学生が地域や企業をフィールドとして学ぶことができる環境づくりのための大学への支援を実施することとしております。また、学生への支援に関しては、コロナ禍において実施した自宅学習のための環境整備に関する支援や、「学生インターン・バイト応援センター」によるアルバイト求人紹介など、その時々状況に応じた生活支援等を実施してきております。
	「8交流と連携による活力ある京都の実現」のなかの「交流機会の創出と地域の新たな価値を創造する観光」「スポーツや健康づくりを通じた地域社会の活性化」において、人口減社会において「府立京都スタジアムや府内各地域の施設を活用したニュースポーツやeスポーツの大会開催や練習環境の整備によるスポーツの裾野の拡大」のために必要なのは、予約や分散開催を容易にするマッチングシステムの構築、すなわち既存施設の改修とソフトの開発であって、新たに巨大なハコモノをつくる理由にはならない。特に府立大学敷地内への巨大アリーナの建設は不要。ここは普通に大学教育やクラブ活動のために適正な規模の体育館を整備すべきだ。あわせて、「プロスポーツをテレビやインターネットではなく、会場で観戦したいと思う人の割合」を70.0%に上昇させるのは無理だと思う。コロナ禍以前の発想は転換が必要。	府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

8つのビジョンと基盤整備

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>●</p> <p>「8つのビジョン・日々の生活の基盤づくり・物・情報」</p>	<p>「8つのビジョン」を支える人・物・情報・日々の生活の基盤づくりにおける「府立公園における手洗い場やトイレ等の衛生環境の改善や、芝生広場等のオープンスペースの整備の推進」について、芝生広場などのオープンスペースは開かれている空間であることにこそ意味がある。何もないからこそ思い思いの過ごし方ができるのであって、商業的なサービスを受けたいならばはじめからそういった場所に行くものだ。たまに地域のお店の出店があるくらいがちょうど良い。整備、整備といって店舗を建てたりするのではなく、開放的な伸びやかな空間であることを大事にするべきだ。</p>	<p>府立公園においては、自由に運動をしたり休憩するなど様々な利用ができるように、芝生広場等のオープンスペースの整備を進めることとしております。</p>

8つの広域連携プロジェクト

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
全体について	「広域連携プロジェクト」において、それぞれのエリア・地域における施設・設備・人的体制等が整ってこそ、「連携」が可能になると思うが、明確に示されていない。	広域連携プロジェクトについては、現時点の情勢を踏まえた取組の方向性として示しています。具体的な展開については、分野別基本施策に掲載している個別方策や市町村における取組等との相互連携を図りながら進めてまいります。
	キーワードとして用いている「広域連携」の実態がよく分からない。それぞれの施設等における具体的な機能が明らかにされておらず、「連携」の中身が見えない。	
①産業・物流広域連携プロジェクト	新名神高速道路の延伸作業が進んでいるが、物流拠点の整備が喫緊の課題であると思う。強靱なサプライチェーンを構築する上でも、近畿圏は物流拠点が不足しており、既存物流拠点のe-commerce対応を含め、物流拠点の整備は重要だと思う。	城陽市東部丘陵地における基幹物流施設の整備は、府南部地域の交流・産業拠点構築はもとより、リダンダンシーや豊かな国土軸形成に大きく貢献するものです。新名神高速道路やアクセス道路の整備を着実に進めるとともに、人流・物流の核として各地域の取組との連携も強化してまいります。
	「1産業・物流広域連携プロジェクト」において、環日本海物流拠点に関連する「インランドデポ(府南部地域でも可)」の追記や、ヘルス・スポーツ産業に関連する大学として「京都医療科学大学(南丹市)」の追記があっても良いのではないかと。	産業創造リーディングゾーンの各ゾーンによっては、熟度や進捗状況が大きく異なることから、現在想定している主な拠点を記載しています。今後、各ゾーンの取組を進めていく中で、どのような施設と連携していくことができるか検討してまいります。
	「1産業・物流広域連携プロジェクト」について、各工業団地や学校、企業、研究機関の集積の中で、再生可能エネルギーの活用や、物流の具体的なイメージなどを、けいはんなオープンイノベーションセンターやZet-valley構想、アート&テクノロジーなどの具体的な施設との関連性含めて未来に向けた発信をすることが重要だと記載のうえで、アイデアとして京都府の北部工業団地でZet-valleyで研究した循環型製造を実証実験する仕組みなどを具体的に京都府総合計画で示すのが良いのではないかと。	広域連携プロジェクトは、市町村域を越えた広域連携の取組が重要であることから、各ゾーン間で相互に連携し、相乗効果を波及させることで、府全体の発展につなげていくことを目的としております。脱炭素社会の実現に向けて、最先端技術等を用いた新事業の社会実装を進めることもZET-valleyの重要な機能の一つと考えておりますので、御提案いただいたようなことも含め、府内各地にゼロカーボン地域が創出できるよう取り組んでまいります。

8つの広域連携プロジェクト

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
② 環境 広域 連携 プロ ジェ クト	<p>「丹後半島における風力発電」という記載があるが、まだ正式に進めるかどうか判断されていないと思うので、削除してほしい。</p>	<p>風力発電事業などの再エネ事業の普及促進については、「京都府再生可能エネルギーの導入等促進プラン(第2期)」において、地域共生・環境調和を重んじ、地域活性化にも資する再エネ設備の導入を促進する旨を施策に掲げ、地域住民との信頼関係の構築や環境調和を促す取組を推進することとしております。総合計画には個別の事業計画の詳細までは記載しませんが、本記載は風力発電の導入ポテンシャルが高い丹後半島において、地域共生型の風力発電の導入をめざしていくことを意図したものです。個別の事業計画については、環境調和と住民理解を前提とした地域共生型の再エネ導入をめざし、事業者や地元自治体と連携して取り組んでまいります。</p>
⑤ 京 都 府 北 部 地 域 連 携 都 市 圏	<p>「5京都北部地域連携都市圏広域連携プロジェクト」において、「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会が、……と協働して、……を目指します。」となっているが、これは京都府の総合計画であることから、「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会が、……と協働して、……を目指せるよう、支援します。」となるのではないか。</p>	<p>御意見を踏まえ、協議会が実施している先駆的な取組の深化施策と協働して、オブザーバーである府としても取組を進める旨を記載しました。</p>
ニ⑥ ユ ー ラ イ 地 域 フ ス ポ ー ツ & ウ ェ ル ネ ス & エ ネ ジ エ ク ス &	<p>「6南丹地域スポーツ&ウェルネス&ニューライフ広域連携プロジェクト」において、スポーツ&ウェルネスに関連して、「京都医療科学大学」の追記があっても良いのではないか。</p>	<p>産業創造リーディングゾーンの各ゾーンによっては、熟度や進捗状況が大きく異なることから、現在想定している主な拠点を記載しています。今後、各ゾーンの取組を進めていく中で、どのような施設と連携していくことができるか検討してまいります。</p>

8つの広域連携プロジェクト

	パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
⑦ 京都府南部イノベーションベルト広域連携プロジェクト	<p>「7京都府南部イノベーションベルト広域連携プロジェクト」において、＜主要な方策＞の4つ目の●に「電池等」とあるが、乾電池のイメージが先行するので、ここでは「二次電池等」とするか、分野別基本施策12の記載に併せて、「バッテリー」とした方が誤解を招かないと思う。</p>	<p>電池には、御指摘のバッテリーを含む二次電池の他、燃料電池、太陽電池等の多様な種類があることから、特定の種類に限定されないよう、広く「電池」の表記としています。</p>
	<p>「7京都府南部イノベーションベルト広域連携プロジェクト」の京都市・文化庁との連携「大学・文化施設の集積を生かした文化の伝承等」にある「等」について、国内外を問わないステークホルダー(関係者)との連携のことを指しているのか。</p>	<p>大学、文化施設の集積を生かした文化の伝承等や活用などの取組を文化庁と連携して進めることを想定しています。</p>

①希望あふれる子育て

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「医療・福祉分野」については、具体的な内容が記載されていると感じるが、「子育て分野」については雰囲気づくりに留まるような印象を受ける。「子育てにやさしい」というふわっとした表現ではなく、「子育て世帯を優遇する」くらいの踏み込んだ内容を計画に記載するとともに、1人目の子どもを産んだ後、不安なく2人目、3人目を考えられるような施策を本気で考えてほしい。</p>	<p>子育て支援は、雰囲気づくりのみならず、子育てしやすいまちづくり、子育てにやさしい職場づくりにも取り組んでおり、京都の強みである「人と地域の絆」を生かし、「社会で子どもを育てる京都」の実現に向け、「子育て環境日本一」の取組を進化させるとともに、少子化対策を進めてまいります。</p>
<p>保育所の保育士の加配を行い、安心して子どもを預けられる環境を整備するなど、人口減少対策について、具体的に展開してほしい。</p>	<p>安心して子どもを預けられる環境の支援として、保育所・放課後児童クラブ等における待機児童を解消するとともに、保育の質が向上するよう、幼稚園の2歳児受け入れや保育人材マッチング支援センターと連携した人材の確保・定着支援、保育士等に対する資質向上などの取組を進めたいと考えております。</p>
<p>「子育て環境日本一」に大いに期待しているが、具体的に何をしているのか疑問。企業に対する子育て支援も大切だが、個人事業主は誰が支援するのか。また、子育て環境日本一をめざすのであれば、もっと子育てをしている親から気軽に意見を聞ける環境を整えるべきであり、そのための相談・意見ができる窓口を設置してほしい。</p>	<p>きょうと子育てピアサポートセンターが中心となって市町村と連携し、全ての子育て中の方を対象とした子育てに係る悩み相談の場の拡充等に取り組むとともに、きょうと子育て応援パスポートアプリ「まもっぷ」の機能拡充等により各種サービスへのアクセス向上による子育ての不安解消に取り組んでまいります。</p>
<p>福祉にはお金がかかると思うが、将来構想のとおり、ぜひとも充実させてほしい。結婚したい、子どもを持ちたいと考える人を支援したり、家族に負担をかけずに安心して老いていける環境を整えたりといった役割を期待している。</p>	<p>「結婚したい」と考えている方の希望を叶えられるよう、きょうと婚活応援センターにおいて出会いイベントの開催や婚活情報の発信などを通じて結婚を希望する独身男女の婚活を支援していきます。また、不妊治療に係る経済的負担の軽減や仕事との両立の支援により、治療に取り組みやすい環境の整備に取り組むとともに、市町村とも連携し、安心して子育てができるよう支援する体制の構築を進めていきます。さらに、高齢者が安心して暮らすことのできる環境整備に向け、生活の基礎となる生活支援サービスの充実や多様な住まいの整備を始めとする地域包括ケアシステムの構築を一層推進してまいります。</p>

①希望あふれる子育て

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>近年のホテルの建設ラッシュで住宅の数が減り、それにより家賃が高騰して京都市内に住む人々が減少している。そこでホテルの代わりにマンションを建て、京都市ならではの子育て援助の制度をしっかりと作れば京都市内に住む子育て世代も増えて、今後の京都市の人口も減らないと考える。</p>	<p>京都府では、子育て世帯に対する支援制度として、府営住宅への優先入居等や、全ての子育て家庭を対象とした子育て支援医療助成の更なる拡充、幼児教育・保育料の無償化、高校生のあんしん修学支援制度や通学費補助等の充実など、京都市内も含め、負担軽減のための取組を進めています。今後は、京都の強みである「人と地域の絆」を生かし、「社会で子どもを育てる京都」の実現に向け、「子育て環境日本一」の取組を進化させるとともに、少子化対策を進めてまいります。</p>
<p>乳幼児の定期健診は共働き夫婦にとって負担が大きすぎる(都度、会社を休む必要がある)ため、土日祝の受診や、保育園に通う園児は保育園で定期健診が受診できるよう医師を保育園に派遣する等、受診方法の改善を検討すべき。</p>	<p>京都府では、子育てしながら働き続けられる環境づくりを進めるため、「子育て環境日本一に向けた職場づくり行動宣言」の取組を更に拡大し、時間単位年休、短時間勤務等の柔軟な制度導入を促進しており、京都の強みである「人と地域の絆」を生かし、「社会で子どもを育てる京都」の実現に向け、「子育て環境日本一」の取組を進化させるとともに、少子化対策を進めてまいります。</p>
<p>「子育て環境日本一」を謳っているが、どこが?と思う。子どもが3歳にならないと幼稚園の無償化の対象にならず、ミルク代、オムツ代など、子育てにこんなにもお金がかかるとは思っていなかったため、経済的理由から2人目を諦めた。 少子化を止めるためにも、2人目以降の経済的支援をお願いしたい。</p>	<p>全ての子育て家庭を対象とした子育て支援医療助成の更なる拡充や幼児教育・保育料の無償化、高校生の「あんしん修学支援制度」や通学費補助等を充実させることにより、子育て世帯の経済的負担を軽減してまいります。</p>
<p>高齢化が進む中、高齢者は乳幼児を見ると嬉しそうに笑ってくれる。高齢者施設と保育施設を隣接して、お互いに関わり合うことで、子どもは高齢者の元気の種となり、高齢者は子どもの情緒を育む、互いに良い関係になり得るのではないか。</p>	<p>子育てしやすいまち、全ての世代にとっても暮らしやすいまちであり、子育てにやさしい風土づくりが重要です。分野別基本施策①-8にも記載のとおり、赤ちゃん運動会の開催など地域の人々が交流する機会の創出などにより、地域の人が協力し合い、子育てを見守り支える仕組みを構築してまいります。</p>

①希望あふれる子育て

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>子育てにやさしい地域・まちづくりについて、秋祭りの太鼓台などを通じた出会いの機会を創出する「祭り婚」(仮称)についても検討してほしい。</p>	<p>現在、共通の話題で自然に盛り上がることのできるスポーツ観戦を通じた婚活イベントである「スポーツ婚」等の取組を拡大していくこととしており、いただいた御意見も参考にしながら、今後は府内の文化や観光資源等を活用した婚活イベントの開催など取組を拡充してまいりたいと考えています。</p>
<p>分野別基本施策「①希望あふれる子育て」現状分析・課題の⑧について、「平成29年(2017)年」とあるが、他と合わせて「平成29(2017)年」とする方がいいと思う。</p>	<p>御意見を踏まえ、記載を修正します。</p>
<p>「子育て環境日本一」にふさわしい具体的施策を希望する。例えば、子どもの医療費無償化、中学校給食の実施および無償化、保育所の定員割れ対策(定員払い制の実施)、家賃補助など。</p>	<p>子育て支援助成医療制度については、事業実施主体である市町村の意見も聞きながら、具体的な拡充施策を検討するとともに、幼児教育・保育料の無償化、高校生の「あんしん修学支援制度」や通学費補助等を充実させることにより、子育て世帯の経済的負担を軽減してまいります。</p>
<p>「子育てにやさしい」などと抽象的な言葉で書くのではなく、2040年までに出生率をどのくらい上げたいのか、その為にはどのくらい府として投資していくのか、具体的に記載してほしい。「やさしい」「絆」などの言葉だけのものは求めていない。</p>	<p>本計画においては、2040年に全国平均並みの合計特殊出生率となることを目標としています。そのため、全ての子育て家庭を対象とした子育て支援医療助成の更なる拡充や、幼児教育・保育料の無償化、高校生の「あんしん修学支援制度」や通学費補助等の充実など、子育て世代の負担軽減のための取組を進めていきたいと考えております。</p>

①希望あふれる子育て

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>①-36「「育児休業」を「勤務する企業の一つの“子”会社」への出向と捉え」について、「出向」として位置づけると「子育てが楽しくなくなる」のではないか。①-4「子育てが楽しくなるような環境づくり」と根本的に矛盾する。育休等により両親にキャリア上の不利益が生じないようにするという意味であるなら、事業の中身や表現をゼロから再考すべき。</p>	<p>分野別基本施策①-36については、「子育てにやさしい職場づくりを進める」ため、子育てに関することや育児と仕事の両立に関して職場理解をさらに進め、子育てにやさしい職場づくりに取り組む中小企業等を支援することを目的としています。一方、分野別基本施策①-4については「子育てにやさしい風土づくりを進める」ための取組であり、総合的に子育てに関する施策を展開することで、社会で子どもを育てる気運を醸成することを目的としています。分野別基本施策①-36では、子育てや育児休業に関して職場理解を進める取組を行っていくことから、「子育てや育児休業に対する企業経営者の意識改革や職場理解の醸成に取り組む中小企業等を支援することで、育児と仕事の両立に向けた職場づくりに取り組みます」という表現に修正します。</p>
<p>①-8「赤ちゃん運動会」の意味と意図が分からない。文字通り「赤ちゃんを集めて運動させる会」だとすると、感染症や事故の危険性など安全上の問題がある上に、そのリスクを冒して、何の効果が見込めるのか分からない。もし、「地域の人々が交流する機会の創出」や「子育てを身近に感じるきっかけづくり」のためなど、赤ちゃん自身のためではないのであれば、「子育てにやさしい風土づくり」のために、赤ちゃんを「道具」「手段」として使う発想であり、それは「子育て環境日本一」にも子どもの権利条約やこども基本法の精神にも反する。「赤ちゃん運動会」は削除すべき。</p>	<p>コロナ禍で子育てに不安や孤立を感じている人が増えている中、親同士、地域住民、高齢者などあらゆる世代の人が応援し交流することで、地域で子育てをあたたく見守る風土づくりを進めることができるよう、地域での取組の例として「赤ちゃん運動会」の開催を記載しており、御意見の趣旨にも留意しながら、効果的な取組になるよう検討してまいります。</p>
<p>少子化の根本的な解決には、保育所、教育費への援助等の充実による、子育てしやすい環境の整備が必要だと思われ、学校給食も地元の農産水産物を使い、個々の学校で作ることで、給食を作る匂いや地元の作物の味等々、五感を育てることにつながる。</p>	<p>日本の構造的課題である少子化を止めるまでには至っていませんが、これまでの「風土づくり、地域・まちづくり、職場づくり」の取組により、子どもや子育て世代を社会全体であたたく見守り支える気運は高まってきました。引き続き、子育てしやすい環境づくりを推進するため、全ての子育て家庭を対象とした子育て支援医療助成の更なる拡充や幼児教育・保育料の無償化、高校生の「あんしん就学制度」や通学費補助等を充実させることにより、子育て世帯の経済的負担の軽減に取り組んでいきます。また、学校給食に京野菜や地場産物、郷土料理や和食を取り入れることは、地域の食文化への興味・関心の向上にもつながるものであり、「生きた教材」としての学校給食の活用や教科における食の学習等に取り組むたいと考えております。</p>

②夢を実現する教育

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「子どもたちが「包み込まれているという感覚」を実感でき、一人ひとりの能力や個性を伸ばして新たな時代に対応できる、魅力ある教育環境を実現します。」とある点について、学校に通うことができない、学校が合わない子ども達が増えているが、現行の制度では一条校(学校教育法の第1条に掲げられている教育施設の種類及びその教育施設の通称)に行けない子ども達は取り残されてしまっていると感じる。個性や多様性を理念に掲げるのであれば、一人ひとりにあった教育のあり方が認められるべきであり、具体的には一条校以外の学びについても単位認定されるように変えていくべき。</p>	<p>京都府では、市町村の教育支援センターへの専門家の配置や、府認定フリースクールとの連携・支援などを行っており、今後とも、一人ひとりに合った多様な学びの場が確保できるよう取り組んでいきたいと考えております。</p>

③安心できる健康・医療と人生100年時代

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>高齢者施設で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した際、「感染専門サポートチームの専門的な知識に基づく助言・指導が施設職員の安心につながって大変良かった」という話を聞いた。医療提供体制の可能性を広げるともよい取組だと思うので、ぜひ継続・発展させてほしい。</p>	<p>サポートチームの助言には、感染対策だけでなく、施設の業務継続を支援する一面もあります。 施設の状況に応じた対応を職員の方と一緒に考えていけるよう、今後も継続・発展できるよう取り組んでまいります。</p>
<p>京都市では11か所あった保健所が1か所に減らされ、コロナ対応が追いついていない状況があった。 保健所単位で地域課題を明確化し、医療体制を構築しようと思うと負担が大きく、その負担が現場に集中することが考えられるため、保健所単位ではなくもっと細かく単位を分けていただくか、保健所の数を元に戻してほしい。</p>	<p>京都市保健所の集約化については、市の判断と責任で行ったものであり、府として意見を述べる立場にありません。なお、京都府においては、専門性の向上を図るとともに、より質の高いサービスの提供や地域課題に迅速に対応できるよう、平成16年度に保健所を7箇所を集約化しており、新型コロナウイルス感染症拡大期においても、そのメリットが発揮できていたものと考えております。</p>

④安心できる介護・福祉の実現

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>地域包括ケアシステムの推進について、役所の職員体制的に、市町村による地域支援事業の実施が困難になっており、国からお金が出ているにも関わらず、地域包括ケアシステムを推進する事業所が評価されず、支援されていないという話を聞いた。それが本当だとすれば、市町村の職員体制が問題だと思うので、職員を増やして各学区ごとに地域包括ケアシステムの実践をする事業所をしっかりと評価できるような体制をつくってほしい。</p>	<p>地域包括支援センターの運営や生活支援体制整備事業など、地域支援事業を活用した地域包括ケアシステムの充実が図られるよう、各保健所の「地域包括ケア推進ネット」に配置した専任職員を活用した市町村への助言を行うとともに、市町村における地域包括ケアシステム構築等に向けた伴走支援を強化してまいります。</p>
<p>リハビリテーション専門職の給料は低く、貸与した修学資金を返していくのが大変だと思う。貸与ではなく給付としてほしい。</p>	<p>現行の修学資金は、府内病院等での5年勤務により全額返還免除されるものであり、既に(条件付)給付型修学資金となっております。</p>
<p>地域が希薄化していく中で、誰もが地域で安心して住み続けていくためには、行政だけでなく、社会福祉法人やNPO法人、社協やボランティア団体など、様々な団体と連携して福祉を提供していくことが重要であり、様々な団体と京都府が連携・協力して取り組んでほしい。</p>	<p>御指摘のように様々な主体との連携や、地域の様々な取組への支援を進めていくことは、互いに支え合い誰もが生きがいをもって暮らせる社会づくりのため今後いっそう幅広い施策で重要になると考えられることから、このことがより明確になるよう記載内容を修正しました。</p>
<p>高齢者や引きこもり者に対しては互助、共助の核となって支えるのは公助であるので、公助を充実させることが大事。</p>	<p>高齢者が住み慣れた地域で生活を継続することが出来るよう、介護保険制度やボランティアによる支援(共助、互助)だけでなく、配食サービスや見守り支援などの福祉施策(公助)の充実に取り組んでいきます。また、ひきこもりの方やその家族への支援については、「府脱ひきこもり支援センター」を中心に、市町村や民間支援団体等と地域支援ネットワークを構築し、連携を図りながら進めています。</p>
<p>男女の賃金格差が男女平等を進める上で一番の課題になることがわかった。ケアワーカーは女性の労働をかなり占めており、ケアワーカーの賃金は低いので、府の新しい方針の中でケアワーカーの賃金問題も触れてほしい。</p>	<p>介護・福祉人材の確保・定着を図るためには、引き続き全産業平均との給与差の解消を図るとともに、介護・福祉事業所において、職員の能力・資格・経験等に応じた適切な処遇改善が重要であり、他業種との賃金格差の解消に向けて、介護職員の給与を大幅に引き上げることができるよう、介護報酬とは別に措置を講じる必要があると考えており、国に要望しているところです。</p>

⑤人権が尊重される社会

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>ユニバーサルデザインによるまちづくりについて、鉄道駅へのエレベータの設置についても記載してほしい。</p>	<p>御意見を踏まえ、エレベーターだけでなくスロープの設置等も含めた「段差解消」として追記します。</p>
<p>「⑤人権が尊重される社会」4年間の対応方向・具体方策の1、2について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、看護職や感染者への偏見等、様々な差別的な行為等が見られたことを踏まえ、対策を追加されたのは大変有り難い。今後もおそらく新興感染症は様々な形で発生していくと思うので、非常に重要な文言を入れていただいたと感じている。</p>	<p>御賛同いただきありがとうございます。</p>
<p>分野別基本施策「⑤人権が尊重される社会」の4年間の対応方向・具体方策の3について、部落差別やヘイトスピーチ、障害者差別、LGBT等とあるが、日本社会には在日韓国人や朝鮮人、中国人などあらゆる国籍の人がおり、その人たちもこの社会で生きているという意味で記載した方がよい。</p>	<p>いただきました御意見は、社会に存在する様々な人権問題の例示に関するものですが、総合計画での記述については、近年の人権問題に係る法制化の状況等を踏まえたものとしたところです。 外国籍の方々に対する人権問題については、多文化共生社会の実現に向けた啓発を推進する中で、府民一人ひとりが異なる文化や考え方を理解し、相互の人権を尊重し合うとともに、ヘイトスピーチは許されないという人権意識の浸透を図るなどの取組を進めてまいります。</p>
<p>府に居住している在日朝鮮人など在外外国人に対するヘイトクライムをなくすための具体的な対策を講じてほしい。宇治市ウトロ住民に対する放火事件など、在日朝鮮人に対するヘイトクライムに、首長や議会として厳しく抗議する声明を出し、インターネット上での差別発言を含むヘイトスピーチを規制する法律を制定してほしい。</p>	<p>いわゆる「ヘイトクライム」は、偏見や差別意識に基づくヘイトスピーチなどの差別行為が、暴力にまでエスカレートしたものと認識しています。 京都府では、人を排斥し、誹謗中傷するようなヘイトスピーチは許されないという人権意識の浸透を図るため、効果的な啓発などの取組を進めてまいります。</p>

⑥男性も女性も誰もが活躍できる社会

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑥男性も女性も誰もが活躍できる社会」について、現状分析・課題に民間企業の女性正社員職階別の現状が記載されているが、公務員や議員の現状も記載してほしい。</p>	<p>京都府職員の現状については、数値目標「⑥男性も女性も活躍できる社会」の31に記載しているところですが、女性管理職の割合については、公務員や議員よりも民間企業の方が、特に低い状況であることから、民間企業の女性登用率の引き上げに焦点を当てて記載しております。</p>
<p>分野別基本施策「⑥男性も女性も誰もが活躍できる社会」について、「男性も女性も」とあるが、性別に悩んでいる方もいるので、その人たちにも配慮した記載とする方がよいのではないか。</p>	<p>男女共同参画の実現に向けた取組を進めつつ、性の多様性に寄り添った支援も進めてまいりたいと考えております。 なお、分野別基本施策⑤-5において、性の多様性などを含む観点から府民の理解を深めるための啓発に取り組む旨記載しているところです。</p>
<p>コロナ禍の一斉学校休校については、タブレット授業なども始まり、働いている母親が休暇をとらなければならないなど、女性が働きにくい実態が進んでいる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、女性に家事・育児の負担が偏っていたことが再認識されました。今後も、女性が子育てしながら働きやすい職場環境づくりや男性の家事・育児参画、ワーク・ライフ・バランスの推進を進めてまいります。</p>

⑧留学生・外国人が生き生きと暮らせる社会

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
⑧留学生「〇年前と比べ(平成〇年〇人)増加しており」の記載があるが、「〇年前(平成〇年〇人)と比べ増加しており」の方が分かりやすいと思う。	御指摘のとおり、修正します。

⑨コミュニティが大切にされる社会

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>京都市内と丹後地域ではいろんな意味で地域格差があると感じている。2023年から京丹後市にある峰山高校で大学共通テストが受けられるように調整されていることはとても嬉しいことだが、今まで行っていた、都会の学生を田舎に留学させる山村留学が終了する自治体もあると聞いた。田舎で育った子はとても生きていく力を持っていると思っており、知ってもらうためにもこの取組を推進してほしい。</p>	<p>府内のどの地域でも子どもたち一人ひとりの個性や能力を伸ばすことは重要であり、自然や文化など多様な体験活動等を通じて、豊かな人間性をはぐくんでいきたいと考えています。 また、学生が地域を知るための取組については、大学・学生と地域団体や企業・市町村との連携した取組への支援を分野別基本施策⑨-6において推進することを記載しております。</p>
<p>「公共交通空白地の住民の移動手段の確保のため、住民組織やNPO等が運営主体となる自家用有償旅客運送を支援します。」とあるが、まず、既存のバス事業者等を引き続き支援し、公共交通空白地を作らない、減らしていくことが先決だと思う。 また、自家用有償旅客運送による市町村営バス等もあるので、「自治体や住民組織、NPO等が運営主体となる」としてほしい。</p>	<p>バス事業者等への支援については、分野別基本施策⑱-27に記載しているとおり、担い手確保など地域事情に応じた人材マッチングを支援しています。 また、自家用有償旅客運送については、分野別基本施策⑨(コミュニティが大切にされる社会)の趣旨に鑑み、多様な主体と連携していくことが重要であるため、「住民組織、NPO」を代表事例として記載し、自治体は「等」に含める形で記載しており、公共交通空白地の移動手段の確保に向けて取り組んでまいります。</p>

⑩誰もが親しみ夢が広がるスポーツ

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「スポーツ施設の整備への支援とともに、企業・大学等のスポーツ施設が一般利用できる取組を進め、府民がスポーツに親しめる環境を充実させます」とあるが、大学のために税金を遣うのは構わない。しかし、民間企業のために不採算な商業アリーナを建設し、未来にわたって府民の税金や国民の税金を使うことには反対。京都府がサンガスタジアムの採算をきちんと検証することなく府立大学敷地内に巨大商業アリーナを建設することは許されない。純粋に大学生のための体育館を早急に整備すべき。</p>	<p>「企業・大学等のスポーツ施設が一般利用できる取組」については、府民が利用できるスポーツ施設の不足という課題の対応策のひとつとして、企業や大学が所有するスポーツ施設において、利用がない空き時間を活用し、府民のスポーツ活動の利用についてご協力をお願いしていくもので、新たな施設を建設するものではありません。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p>
<p>⑩-9「大学等のスポーツ施設が一般利用できる取組」とは具体的に何を指すのか。そもそもキャンパスとは、学び舎＝学生のための空間であって、スポーツ観戦客やコンサート客のための通路ではない。具体的な内容が不明である上、一般論としても大学の存在意義や学生の安全確保と対立するナンセンスな記述であり、削除すべきである。</p>	<p>「大学等のスポーツ施設が一般利用できる取組」につきましては、府民が利用できるスポーツ施設の不足という課題の対応策のひとつとして、大学等が所有するスポーツ施設において、学生利用のない空き時間を活用して、府民のスポーツ活動の利用について御協力をお願いしていくものです。</p>

⑪文化力による未来づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>多くの京都の企業では、芸術に対する深い理解に加え、若手作家支援、あるいはCSRとして、様々な美術工芸品を購入し、社内で展示されている。こうした美術工芸品を、京都市内の博物館や美術館、歴彩館、けいはんな、丹後王国などで巡回展示するような企画に関する記載があっても良いのではないか。また、明治時代の黎明期の様々な企業資産などの展示会なども、文化庁が来る京都ならではの取組となると思う。</p>	<p>誰もが、多様な文化に親しみ、参加できる環境を整備していくためにも、御指摘いただいた美術品等の巡回展示等の取組も効果的であると考えています。</p>
<p>文化芸術に関わりを持つ人の割合を上げることを目標とするのは大いに賛成だが、生活必需品ではないアートにお金を使いたくても使えない人が増えている現状では、アートフェアの販売額を上げる目標値に無理があるように思うので、まずは、可処分所得を底上げすることを実現してほしい。また、旧総合史料館跡地、植物園などの「整備促進」とあるが、文化的蓄積や長く育てられ守られてきた植物群を専門的知見に基づいて適切に「整備」されるのか不安を感じる。京都の魅力は多様性にあり、日本の様々な歴史的建造物や独自の自然を誇り高く守り続ける場であってほしい。</p>	<p>可処分所得を上げるための施策の一つとして、最低賃金の引き上げに取り組んでいきたいと考えています。最低賃金の引き上げは労働者の生活の安定と向上が経済の好循環をもたらし、地域経済の活性化につながることから重要である一方で、賃上げの原資となる収益の拡大が求められる中小企業の事業継続とのバランスを図りながら引き上げていくことが大切であると考えています。京都府においては、分野別基本施策⑫において中小企業の安定した経営と成長を支援し、分野別基本施策⑭において就労環境の改善・整備により、多様な人々が柔軟で働きやすい環境づくりに取り組み、総合的に最低賃金の引き上げに取り組んでいきます。</p> <p>また、京都には多くの芸術系大学があり、毎年約4000人も卒業生を輩出していることから、こうした人材が京都で創作活動を続けていくためには、産業としっかり融合して文化マーケットを拡大することが重要と考えており、引き続き、マーケットの拡大を進め、アートフェア等における販売額が増加するよう努めていきます。</p> <p>また、府立植物園の整備については、御意見いただいたとおり、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>北山整備計画に絶対反対。生徒数2000人の府立大学に一万人も入れるアリーナはいらない。それよりも学生の為の体育館を建て、老朽化した校舎を直す事が先決だ。 それから資料館の跡地にホテルや商業施設を建てないでほしい。 また、植物園は今のままで自然がいっぱいの植物を大事にするため、芝生ゾーンにイベント用の建物はいらない。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。 旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。 併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしております。 府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>京都はスポーツ施設が少ないと思う。子どもたちに「見る」スポーツの場を提供できたら、そこで得た感動は自ら「する」スポーツへと繋がっていくと思う。子どもたちの健全な育成のためにも、学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナの整備を是非とも進めてほしい。</p>	
<p>将来に向けて次の世代に夢のある京都を引き継ぐことが大切だと思う。そういう意味では、サンガスタジアムが作られてサンガが盛り上がっているように、アリーナを作ることでスポーツを通して京都が盛り上がるような取り組みに期待している。</p>	<p>スポーツの振興は、人々に勇気や感動を与え、青少年の健全育成や地域の活性化にも大きな力を発揮するものであると考えており、府域全体の状況を踏まえながら、スポーツ施設の充実など、府民のスポーツ環境の向上に取り組んでまいります。</p>
<p>「⑩スポーツ」具体方策7について、立派な京都府立体育館がすでにあり、新たに体育館を整備する必要がないことから、以下のように改めるべき。 「京都府立体育館を学生スポーツや国際大会にも活用するなど、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます。」</p>	

⑪文化力による未来づくり

旧総合資料館跡地整備について、宿泊・飲食施設を跡地内に整備するのではなく、近隣の同種施設との連携を図るべき。
地下鉄利用、市バス利用（公共交通機関も巻き込んで）を考えれば、「近隣」の「商圈」は広がる。例えば、植物園の新規利用客と近隣の宿泊・飲食施設のサービス券との相互活用など、近隣商店・施設とのタイアップを今まで以上に推進して共存・共栄を図ってはどうか。

多額の借金を、長年にわたって府民に押し付ける無駄な支出はやめてほしい。また、旧総合資料館跡地には、宿泊施設（ホテル）は不要。もともとホテルは立てられない地域ではないのか。

7文化の力で世界に貢献する京都の実現
「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能承継も踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備推進」について、1.「～など、～など」が重複し文意が不詳。a.舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）とb.旧総合資料館跡地、及びc.植物園は並列なのか？「どこに建てるのかもわからない施設」「跡地」「既存施設」を並列で表記することは適切でなく、文章を修正してほしい。植物園を一部（または全部）つぶして舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）を建設するようにも読めなくもなく、誤解を生まない明確な表現に改めるべき。
2.そもそも、「舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）」とは何か？定義が示されておらず、一体どんな機能を持つものなのか、なぜ必要なのか、どこに建てるのか、誰が運営主体なのか、周辺環境にどのような影響を与えるのか、将来にわたってどの程度の公費負担が想定され、それが想定される便益（特定団体・事業者への利益誘導ではなく府民全体の公益）と釣り合うものなのか、必要な情報が全く示されていない。ましてや、そこにホテル機能を有するものが想定されていることはまさかと思うが、そのようなものは一切読み取れない。総合計画に記載するに足る熟度を満たしていないので、以下のとおり修正すべきである。
「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設については、改修や現在地での建て替えなどにより、舞台芸術の表現の場の確保を図る整備を推進」

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。
併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>資料館の跡地にホテルは要らない。地域の人も利用できるような会館の建設を望む。植物園は公園に整備するのではなく、よく言われる「生きた植物の博物館」としての植物園として今後も残してほしい。アジアでは府立植物園でしか見られない植物もあり、種の保存や育成を任せられていると聞く。世界の宝である。</p>	
<p>京都府立総合資料館が老朽化したということで早々に閉鎖したが、まだまだ使えるのにもったいない。現在の建物を生かした計画にする方が良い。そこで、現在の府立文化芸術会館も閉鎖せず、まだまだ使い切る努力をするべきだと思う。また、植物園のバックヤードも現在より広くし、植物を育てる、研究する機能を広げてほしい。</p>	<p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p>
<p>京都府総合計画によって立案された本計画のうち、老朽化の進む施設の改修自体には反対していないが、改修に盛り込まれた資料・改定案に記載されたシアター・コンプレックスやデジタルアートといった文化的価値創出を見込んだ計画内容については反対である。府立植物園付近に在住して8年になるが、あのエリアで行われている自然環境保護に関する研究と普及活動の維持を優先すべきであることは変わらず、舞台芸術や「アート・ツーリズム」を行う場所としては歴史的な蓄積と意義を踏まえた観点からすれば組み合わせとして不向きだ。一般の人が自然環境や植物に触れ、季節の移ろう中で多様な姿を見せる植物園の役割を鑑賞する施設の重要性を説くのであれば、予算の見直しや入園料の値上げを検討するべきであると考えている。アミューズメントパーク施設としての文化活動に関心がある前に、自然環境を楽しむために余暇を過ごす人もいのではないか。そもそもそうした大型の施設自体この場所で運営するのは不向きだと思われる。今回の計画に関して、もう一度検討のほどをお願いする。</p>	<p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>舞台芸術、視覚芸術拠点施設(シアターコンプレックス)としての提案があるが、以前京都コンサートホール大ホールにて全国高校生伝統文化フェスティバルが開催され、他にも京都学・歴彩館や鴨川を渡った北区小山にある京都市文化会館、左京区下鴨には小劇場、アトリエ劇場があり、この地域とその周辺には舞台芸術、視覚芸術施設が多いので、そうした施設を活用することが大事である。ホテル建設という案があるが地下鉄烏丸線を利用すれば、国際会館駅近くに宝ヶ池グランドプリンスホテル、今出川駅からはブライトンホテルがある。植物園の近くにホテルを建設するより、少し離れたところに宿泊する方が、観光客の方も広い距離を歩き、散策や食事、買い物や上賀茂神社への参拝など、楽しんでいただき、多くの人と交流できるだろう。北山通りより北の北区上賀茂は農地と住宅地が混在した地域なので、地域住民がどのように思っているか、引き続き意見を聞くことがいいと思う。</p>	<p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるように検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府立植物園の再整備に反対。植物園は公園ではない。今の静かな環境を守り、賑わいづくりは撤回してほしい。世界でも希少な府立植物園を、今の姿のまま、次世代へ引き継いでほしい。</p>	
<p>子育て世帯や高齢者の憩いの場「府立植物園」を静かなまま現状維持してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園を今のままの方向性で保存してほしい。人間の賑わい、イベント、儲けのために「公園」にすることには反対。賑わいや儲けよりも、外界から遮断され、植物が主体となって、植物を展示し、人間が植物から自然を学べる【静かな】憩いの場所として保存される方が、100年後の京都にとって変えがたい宝物になると考える。</p>	

⑪文化力による未来づくり

植物園は季節の移ろいを感じる潤いの場所である。友と植物を愛でながらゆっくりおしゃべりを楽しむ場所である。
 大きな施設や賑わいは無用。京都の四条通りがむやみに巨大な経費をかけて手を入れた結果、悪評であるように、植物園の木々は手を入れたことにより…創造するだけで心が折れる。どうか公開してからではどうにもならない。そっとしておいてほしい。未来を担う子どもたちへのお土産として80路のお願いである。破綻寸前の京都市のように府もがんばって頭と知恵を出し京都を作ってほしい。

植物園の商業化には絶対反対。学術施設を蔑ろにすれば自己否定につながり、将来は陥落しかない。

貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。垣根がなくなると貴重な植物が守れなくなる。植物園を公園にするのではなく、今のままで残してほしい。静かな植物園を望む。

植物園は「生きた植物の博物館」として大切に守ってほしい。貴重な草花や樹木が多くあり毎年楽しみに訪れる方も多く、府民の財産ともいえる場所である。公園のようになれば、騒音や治安面でも心配。ホテル建設もあると聞くが、もともとここはホテルを建てられない地域ではないのか。行政は規則を守る事が大切なのは。多額の借金を府民に押しつけるような無駄づかいの行政はやめてほしい。

百年を迎えようとしている植物園がどのようにして守られ育ってきたかを知れば今計画されているような暴挙はありえないはず。(大広場のステージ等)。長きにわたって携わってこられたボランティア・職員の皆様、京都府民、市民の方があって今日の植物園の姿がある。
 全国から愛され誰もがオアシスとして集い、癒やされて、植物園でのひとときを赤ちゃんからお年寄りまでの人々が安心してゆだねられる場となっている。手を入れすぎない自然と人が調和しながら造りあげた今の植物園をそのまま守る事に力を注いでほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>知事は四季折々の美しい植物園を、園内にはどれだけの希少な植物が生息しているかご存知か。商業重視ではなく、価値あるものを残す努力を精一杯行ってほしい。破壊されたものは元には戻せない。よくよく、府民の声を聞いてほしい。</p>	
<p>静かな植物園のままに、これ以上の飲食店はいらない。持続可能な社会を築くのに、商業主義MICEの導入は京都にいない。</p>	
<p>府立植物園の整備について、商業化には絶対に反対。商業施設やイベントスペースなどはつくらず、植物園本来の機能を守ってください。100年近く育ててきた文化を壊さないでほしい。</p>	
<p>北山エリアは鴨川、高野川と第二疎水に囲まれた静かな緑の多い住宅地であり、この場所にある植物園及びその界隈に賑わいはまったく不必要。何の目的の為に植物園と外部との交流機能が必要なのか？9/29付の京都新聞の「緑なす日々・植物園で深呼吸」から一部抜粋すると『動植物や水族館なら展示された生き物を案ずる声上がるのに、なぜ植物はこんなにも軽んじられるのか』と疑問が湧いた。この疑問は、植物への影響が物議を醸している府立植物園の整備計画に当てはまる。…とある。京都100年の計画の為に、孫、子に緑豊かな、水清い静かな環境を残すためにも、この植物園整備計画に反対。もう何も足さない、緑豊かな環境を守るだけ、それだけ。周辺施設の住民との意見交換をやってほしい。10月・11月中に。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園に対して大事な植物や草木を守ってほしい。皆が安心できるように植物を守ってほしい。今の自然を守ってほしい。</p>	
<p>京都の植物園は100年の歴史があり、植物という生き物の100年がわかるとても貴重な場所だ。バックヤードで守られながら、長年繋がっている生き物。それらを時を感じながらゆっくりと体感できる場所。新しい音はいらない。静かに時を過ごせる場所として大切にしてほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園にコンクリート、アスファルト、駐車場など緑を減らす工事は不必要、樹木の拡大、土の維持こそ重大なことである。 木を切り、人工構築物(原文:「工構築」)を作るとは生物多様性の破壊、気候変動の促進につながる。府立植物園の樹木を守ってほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園は公園ではない。 永年にわたる貴重な研究の蓄積を無にするようなことは止めてほしい。 植物園ひとつで博物館であり、博物館を旧くなったからといって娯楽施設にしないことと同じである。 植物園をより厚く保護、育成する方向を取るべきと思う。</p>	
<p>老朽化が進む既存の文化施設の機能継承のための整備は必要なことである。ただし、単なる機能継承のための整備にとどまらず大きな変更を加えるのであれば府民の思いと乖離しないように注意してほしい。特に府立植物園には、希少な植物の保存や、廉価で静かな憩いの場としての役割がある。安易な商業化でそうした役割を損なうようなことは決してないよう、広範な関係者や有識者の意見に耳を傾けることを求める。</p>	
<p>府立植物園を電飾だらけの植物園にしてほしくない。光は植物の生態に影響を及ぼす。もっと植物のことを考えた整備にしてほしい。</p>	
<p>北山エリア、今ある京都植物園の良いところを変えないで今のまま、そのまま残してほしい。</p>	
<p>府立植物園は今のまま残してほしい。商業施設の建設に反対。</p>	
<p>植物園の自然を壊さないでほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>商業施設に作り替える計画があるようだが、端的に言って反対。母の実家が京都にあり、府立植物園に子どもの頃に何度か訪れたことがあり、現在も親戚の子どもたちと楽しんだりしている。 思い出の場所でもあり、素晴らしい環境下にある京都府にとっても大切な植物園を損なうようなことはどうかしないでほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園を、生きた植物の博物館として存続させてほしい。アミューズメント化は不要。 貴重な植物園の植物を守ってほしい。そのために必要な設備等に予算を充ててほしい。</p>	
<p>今まで親しんできた植物園の形態が変わることには賛成できない。樹木、草花を守ることが植物園の大事な仕事。商業施設は必要ない。 どうぞこのままの姿を守ってほしい。</p>	
<p>植物園の樹木、草花を守ってほしい。 静かな環境で今のままで残してほしい。 ホテルや高層ビルはもう建てないで、京都らしい景観を守ってほしい。</p>	
<p>府立植物園は、山草花や樹木が素晴らしい。 公園化事業によって現状の管理・維持に支障をきたす懸念があり、「京都府総合計画」に反対。</p>	
<p>垣根を残して、植物園の樹木・草花を守ってほしい。人よりもずっと前から地球に生息、動くこともできず、与えられた過酷な中で生き抜いた植物。生命力・自己回復力。繊細な季節の移り変わり。人間である私たちは、その木・草・花にどれだけ、いろいろなことを教えてもらい、また、四季の移り変わりという楽しみもいただいた。そのような人間が、樹木・草花を苦しめるなんて。一度、壊した自然を元にするのは大変だということはわかっていると思う。お金だけでは戻せない。知事、考えてほしい。後では遅い。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園の役割を単なる緑地公園化することに反対。 以前、大阪から来た若いカップルも「にぎやかな所はどこにでもある。静かない環境だからこそ来た。この落ち着いた場所を守ってほしい」と言っていた。垣根があることで、鳥たちにとっても、ここからは安全なくつるげ場所と認識していたでしょう。植物にとって外界と切り離され、空気は流通しているけれど、自然の状態が保たれ、それによっていろいろな植物がうまく育つのだと思う。100年先を見すえ、市民や、植物学の専門家も交え、あるべき姿を話し合おうではないか。(去年歴彩館で、そういう場を持つと約束なされたではないか)アリーナのこと、そんなニーズが今もこれからもあるとは思えない。話し合い(何度も、市民を交えて)を重ね練っていくことが大事だと思う。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園を再開発の対象から外してほしい。 次世代が環境維持の大切さを学べるよう従来の自然環境を保全することに努力すべきで、行政の方向性が根本的に間違っていると思う。</p>	
<p>植物園を公園としないで、今のまま植物園として残してほしい。貴重な植物園の樹木、草花を必ず守ってほしい。</p>	
<p>府立植物園を整備するという文章だが、府知事は植物園のバックヤードの機能を充実させると約束していたのにどうしてそのことを書いていないのか。もう気が変わってしまったのか。ちゃんと書いておいてほしい。商業化もしないと書いてほしい。</p>	
<p>植物園の素晴らしい観覧温室をなくさないでほしい。</p>	
<p>植物園のまわりを、今のままにしておいてほしい。まわりに建物はいらぬ。自然のままの良さが、どんどん失われていて残念でならない。植物園を守ってほしい。</p>	
<p>植物園周辺を商業施設やイベント施設などに変えないでほしい。あの辺りの独特の落ち着いた雰囲気と長年受け継がれてきた植物園の貴重な生態系を、どうか壊さないでほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

植物園をこよなく愛している者である。長い歴史を持つ植物園を公園化し、植物園職員のリストラ、植物が傷つく事を懸念する。ドイツの公園に考え方を学んで欲しい。古き物を大切に後年に伝える。京都は古くて良い。ポロではダメだが…。観光客の皆さんは京都の歴史を見に来るのでは？今のままが良い。公園化しないでほしい。

京都を愛する一府民の声に耳を傾けてほしい。知事もご存じのとおり、北山には沢山の豊かな年を重ねた人々が住んでいて、府立植物園周辺はその皆様の文化の場所であり、いこいの場である。また、京都の青山と言われている程、コンサートホールや学校などもあり、若い方にもあこがれの地でもあることを知っている。新しい考えと、守るもの…どの時代も想いのちがいがあと思うが、皆がうれしくなる、又、府の財にもなり、豊かな緑も守り、若者も喜べる地にはならないものかと。正直、今の植物園は古く、美しくない。他県からいらした方、また、園を歩いた方の残念な声を知事はご存知か。私は、まずは、植物園をきれいに豊かにする”有”を生かし、財を生み、そして、時を待ち周囲を変えていってほしいと思う。そうすると財もたまる。最近では園プロが存在する(動物園、水族館を変え、収益、入園数を増やし、県、府が豊かになる)。私のおすすめは、植物園を生かした花鳥園をつくること！たくさん入園者が見込める。修学旅行、外国人も、入園料もUPできる。ふれあい、癒やし。緑はなくなるない。どうぞ、一度、知事の心に、豊かで人々の笑顔溢れる植物園を想像しながら歩いてみてほしい。反対者が多い北山地区で暮らす今はとても残念。

風致地区にふさわしい品格ある整備とし、間違っても安易な商業開発は行うべきではない。特に植物園は日本有数のコレクションを有し、また園内の生物多様性においても高く評価される文化施設であるから、安易な商業化、イベント会場化、公園化、テーマパーク化、観光化してはいけない。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

府立植物園は観光拠点でなく、府民の憩いの場所、生物多様性を守る場所だと思う。自然を壊して儲けようなど止めてほしい。府立植物園の多様性に満ちた環境を保全すると明記し、現在の植物の多様性を守ってほしい。そして、大学も植物園もイベントベースとして扱うことなく、デジタルアートは止めてほしい。環境を破壊したら取返しがつかない。どこにでもあるようなイベント施設などは一過性で、本来の魅力は自然にある。現在の府立植物園を壊すような計画は府民の願うものではない。

分野別基本施策「⑩脱炭素社会へのチャレンジ」の『次代を担う子どもたちが自然や生物多様性を大切に思う気持ちや地域への愛着を育てよう、～(略)』について考えると、「⑪文化力による未来づくり」の37『府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能継承も踏まえ～(略)』にある植物園の整備については、子どもたちのための環境教育促進の場としての役割を持たせる整備にすることが重要であると思う。気軽にアクセスできる街中にありながら多様な生物環境を保っている府立植物園ほど環境教育にふさわしい施設はない。京都府で初めて確認できた苔が発見されるなど植物園の豊かな環境をそのまま活かすことが重要。『植物園は園内の生物多様性に満ちた環境を手厚く保護し、子どもたちだけでなく全ての世代にとっての環境教育を促進する施設として整備する』という方向性にしてほしい。研究機関としてではなく、教育の場としての整備が最もふさわしいと考える。

府立植物園を商業化しないでほしい。
日本全体として見ても貴重な存在である。これだけ地球的規模で自然環境破壊と植物種が次々と失われている現実を鑑みれば、金銭に還元することのできない、失われる命はどんなにお金を積んでも買えないものである。
先祖代々の故郷である京都は自然環境や文化の大切さ、自然との共生の暮らしの智慧を最も大切にす土地であり、その伝統の精神を失わないでほしい。

植物園を学校教育や生涯教育に有効活用し、食事やアメニティの面でも拡充してほしい。
憩いの場や自然公園のような価値も維持しつつ、より教育施設としての側面を強く打ち出し、植物を学びたいと思う市民の声を積極的に拾ってほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園は、子どもの頃から利用し、府民が落ち着いて憩える場として、また世界に冠たる生物多様性の拠点として、現状で非常に優れていると誇れる施設だと思う。商業化しないで、いまの府民に親しみがあり、世界に誇れる施設を維持してほしい。</p>	
<p>植物園を商業化しないでほしい。 街全部が商業化した場所に何の魅力もない。 余裕を見せてほしい。</p>	
<p>植物園は本来の目的である植物の博物館及び研究のための植物園という基本をしっかり守ってほしい。 公園やイベントが出来るというような計画は絶対にたてないでほしい。 北山界隈は観光客の多い京都の中で、唯一静かな環境での散策や、植物を楽しむ地域である。 桜のシーズンでも、たくさんの方が来られていても植物園という性格上、皆さん静かに花を愛でておられる。 地球環境の悪化による温暖化があるが、これは何か他所事という捉え方ではなく、自分たちの問題という認識をしっかりとって、コンクリート工事とかは今後極力避ける、必要最小限にする等、行政が率先して考えていくべきと思う。 私は個人でも出来ることとして地域の公園の草刈りなど根際から刈り取らず緑を残す、刈った草や葉は焼却ゴミに出さず土に返すを心掛けている。理解してもらえないこともあるが、根気よく続けていくことで、少しでも子どもたちの今後を考えると、なんとかこれ以上酷い環境にならないようにしないと考えている。 箱モノを作ることで知事の業績を誇るのではなく、作らないことで評価されることを考えてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園について、文化、科学的財産として重要な植物園を商業化してはいけなし、長期的に保存して欲しい。 多少の値上げであれば受け入れる。</p>	
<p>何より学問のための機関である植物園や大学をイベントスペースや娯楽の場所として使おうとするのは誤った計画だと思う。植物園の多様性や環境、学問的価値を重視するような計画であることを望む。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園は貴重な施設である。私個人にとっても子どもの頃から親や友達と気軽に行くことができる大好きな場所である。どうか、商業施設にしないでほしい。市民の憩いの場を奪わないでほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園の木を伐採して商業施設を作る計画があると知って絶望的な気持ちになっている。植物園に植物と関係ない事は求めていない。やめてほしい。</p>	
<p>100年近くの歴史ある府立植物園は京都市民の貴重な財産であり憩いの場である。 かけがえの無い自然を破壊する商業施設化の計画に満身の怒りを持って抗議、反対する。</p>	
<p>府立植物園の商業化に反対する。 商業化による人の出入りの煩雑化は、希少な植物の害にしかならない。</p>	
<p>生物多様性、豊かな自然を破壊して商業施設を作ること自体が、時代から逆行していると思う。 府民の憩いの場であり貴重な財産を勝手に壊さないでほしい。</p>	
<p>府立植物園に商業施設を作る必要はないと思う。 今のままの生きた植物の姿を観察できる場所を無くさないで欲しいですし、今の植物園の貴重性や魅力を存分に伝えて行って欲しいと思う。</p>	
<p>分野別施策、11の文化力による未来づくりの府立植物園についての部分に府知事が発言した「バックヤードの機能を充実させる」という言葉を入れるべきではないか。「植物園としての本来の役割である植物の育成と展示が十分に果たせるよう、バックヤードの機能を充実させる整備を行う」という文章に変更してほしい。</p>	
<p>府立植物園の商業施設化に反対。大切な京都の歴史や文化、大事な自然やオアシスをどうか守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>幼い頃から学びの場、遊びの場として親しんできた植物園をどうか今のまま、生きた植物の博物館として残してほしい。目の前に比叡山が見え、広々とした自然体のバラ園があり、芝生の広場も草取りなど大変だなと思うが、自然と遊べて、話し合いもできて良い環境である。どうかこわさないで。垣根をなくさないで。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>分野別基本施策「⑩脱炭素社会へのチャレンジ」『多様な主体と連携した外来生物対策や里地里山の利活用によって生物多様性～(略)』について、この関連で、府立植物園は現状でも生物多様性の拠点であり、府民が環境について広く実地に学ぶ場としても非常にポテンシャルが高いと思われるので、安易な商業化や開発をせず、本施策を推進するために必要なソフトの整備と人材育成に力を入れてほしい。</p>	
<p>植物園は「生きた植物の博物館」であり、府民にとっての憩いの場である。老若男女が安心して季節の植物を楽しみながら学べる場所。月に2～3回は訪れて貴重な花々の変化を楽しんでいる。この雰囲気を変えないでほしい。公園化反対！</p>	
<p>コロナが流行したここ2-3年、京都植物園を散策するのが楽しみだった。生態園では日本では西表島と石垣島に自生している松村草やセツブンソウ、フクジュソウ、ミズバショウ、フジバカマなど日本各地に自生している植物が自然に近い状態で植樹されている。貴重な植物を今のまま残してほしい。四季折々、草木の可憐な姿に心豊かにすごさせてもらった。北山エリア開発で、植物園が公園のようになるのは反対。垣根がなくなったりするとシカ等が入ってきて木の芽や草花を食べてしまわないかと心配になる。植物園の樹木、草花を守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園の整備について、特に植物園の西側には、賀茂川が流れており、過去、昭和10年、水害で私たちは植物園が冠水した写真を見ている。堤防は右岸より左岸（植物園側）が低くつくられているらしく、その当時より気候は荒く、しかも雲ヶ畑あたり先の台風でも木が倒れ、川にも倒れ込む様子をびっくりして見た。</p> <p>賀茂川、鴨川の流域治水のプランを京都はまだ私たち住民に発表していないと思う！堤防の下は住宅がぎっしり建っていて遊水池もないようにさえ見える。植物園の西側や正面入口の再整備は反対。木を伐る建物を建てるは反対。芝生にステージなど反対！1980年代イギリスのキューガーデンに行った。気がつかないうちに道のはしっこを歩いていたら、真ん中を歩くように言われた。それくらい植物園を大事にしているのだと思った。植物園に余計なものはつくりたくないでほしい。</p>	
<p>京都が大好きで、特に植物園が大好きだ。観光場所としても最高だが、そこが商業施設になるのは反対。もっと植物園として充実する方が将来の観光都市として発展すると思う。</p>	
<p>植物の博物館としての植物園を望む。植物園を商業化したりイベントスペースにするのには反対。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>半木の道の紅枝垂れ桜は植物園の生け垣を背景にして映えている。もし生け垣をなくして商業施設を並べたりしたら美しい景観が台無しになる。植物園の開発に反対。</p>	
<p>植物園を商業施設化しないでほしい。</p>	
<p>植物園を観光スポット化する計画のようだが、ありふれた商業施設に魅力を感じない。それをわざわざ観光したいかは大いに疑問。植物園の価値を下げるだけではないか。京都の価値にも影響すると思うのでやめてほしい。</p>	
<p>植物園の再開発計画に反対。植物という生物展示とイベント開催は無理が大きすぎる。電力を多用する運営に将来的な不安も大きい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

車椅子でも園内をゆっくり回れる、素晴らしい府立植物園の環境を壊さないでほしい。

府立植物園の大規模改修、商業施設化に強く反対。植物の博物館として全国的に大変貴重な場所で、トイレや休憩所などの改修はある程度必要と思うが、バックヤードやバラ園を削るような大規模な改修には強く反対。いまの植物園の在り方を残すことが、府立植物園を京都が誇る施設とかるために最大限有益な方法のはず。維持の手間や費用はかかるだろうが、どうか願います。

府立植物園は府民だけでなく日本の宝で、貴重な種類の植物がたくさんある。また、植物園には鳥や昆虫などいろんな生き物が住んでいて、生きた博物館であり、素晴らしい癒しの場所である。それをアリーナや商業施設などコンクリートの建物に変えたり、人混みだらけのうるさい状態に変えるのはやめてほしい。一度失われた生態系のシステムは回復するのが不可能に近い。世界中の歴史のある文化的な都市には素晴らしい植物園が必ずあり、京都は世界に誇る歴史的な素晴らしい都市のはず。それなのに植物園を開発の犠牲にしてしまうとは。本当に情けないと思う。先人たちが残してくれた素晴らしい物なのに。また、海外の先進国では環境保護、自然保護に力を入れているのに、京都府と京都市の計画していることはそれらに逆行している。海外の人たちからも笑われると思う。このような計画はすぐに廃止してほしい。

府立植物園を商業化しないでほしい。
世界的にみても価値の高い、歴史ある希少な施設だと聞き及んでいる。商業化によって、単純な伐採以上のダメージ(夜間に光が当たったり、根が踏まれたりして弱る、枯れる)があるのではと危惧している。
京都は古いものを大事にするところだと思っていた。どうか今のままの形で残してほしい。

日本最古の豊かで京都が誇れる植物園に商業施設を入り込ませて損なわないでほしい。
学術的にもとても貴重な場で、希少で繊細な植物達はおいそれと簡単に移し替えができるようなものでもない。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

府立植物園の今の良さをこのまま保って欲しい。
商業化はしないでほしい。
老朽化した施設などは改修が必要になり、お金がかかることもわかるけれど、植物園が植物園としてあるべき姿を保つべきだと思う。最優先すべきは植物たちの生きやすさであり、それを眺めさせてもらっている人間は、優先事項として2番目であるべきだと思う。安易な目先の利益を取って、長年培われてきたものを壊すようなことは絶対にしないで欲しい。
人がもっと来園する必要があるのであれば、植物を愛でる機会を小学校教育などで取り入れていくなど、様々な長期的な取り組みを模索するべきで、先人が培ってきた貴重な場所を、今を生きる人たちの財政状況で決めていいことでは決してないと思う。
周辺施設のエンターテインメント化と一緒に、植物園の生態系を変えるような改変はしないでほしい。お金を生み出さないものは無意味だと思うような府政を、こどもたちに見せて欲しくない。

「5共生による環境先進地・京都の実現」の「多様な主体の連携による生物多様性の保全と継承、自然環境の保全と創出」について、「多様な主体の連携による生物多様性保全を進めるため、企業、研究機関、保全団体、府民等のオール京都でつくる京都府生物多様性センター（仮称）及びセンターや保全活動を支える生物多様性保全基金の創設」と書いてあるので、府立植物園を京都府生物多様性センター（仮称）の重要な施設として位置付け生物多様性保全基金を活用したバックアップ体制を作ることを書いてほしい。学習のためのスペースはあると良いが、そのために環境破壊はしないでほしい。いまある施設の場所での建て替えで十分いけるはず。今の魅力をそのまま使って学びの博物館にしてほしい。商業開発で破壊するなんてとんでもない間違いだ。イベントで踏み荒らしたりしたら植物は弱って騒々しさを鳥も寄り付かなくなってしまふ。
府立植物園は京都府民の税金で守られ100年近く育ってきた素晴らしい文化であり、これまでの先人たちの努力を無駄にするような開発には反対。

商業化により、府立植物園の落ち着いた環境が損なわれること、貴重な植物の生育に影響を及ぼし植物園本来の目的が達成できなくなることを危惧する。以上の理由から府立植物園の商業化に反対。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園を商業化しないでほしい。狭く、どこも観光地である京都において、数少ない、いつでも子どもを安心して連れて行ける場所として府立植物園はとても好きな場所である。子どもを連れて普段から利用している身としても、商業化や過度な利便性は望んでいない。植物園は、これまでの方向性のまま残してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園の大規模改修に反対。植物園の現職の職員、歴代館長も、改修案に強い懸念を示されていると聞いた。100年間、植物園を育ててきた方々の声に従い、これまでどおりの方向性で植物園を守っていくべき。利用者としてもあの場所はあるままで十分に魅力があり、とても重宝している。まして、10年、20年、その先を見れば、その魅力はもっと増すと思う。植物園の本来の機能を何より大切に考え、京都府民の資産である豊かで歴史ある植物園をこれまでどおり育ててほしい。</p>	
<p>植物園・府立大学を含む北山エリアの開発に反対。 賑わいの空間を作ることがコンセプトと聞いているが、植物園に賑わいが必要か。 私自身も子どもを連れて何度も植物園には行ったが、ゆっくり静かな空間で鳥の声や木が風に揺れる音を聞く方が、子どもにとっても何倍も豊かな時間になる。賑やか公園はいらない。</p>	
<p>北山エリアでのイベントの創出、府立植物園の観光拠点施設としての位置づけが盛り込まれているが、コロナ感染への対応によって明らかになったように、観光に依存することのリスクは高まっている。京都に引っ越してきた者だが、少し足を伸ばせば、植物園をはじめとする施設が毎日の暮らしを豊かに彩ってくれる京都が気に入り、終の棲家にしようと思えるようになった。観光への依存を強めるのではなく、そこに暮らす人々にとっての京都の魅力を高めることこそ、自治体として取り組むべきことだと考える。</p>	
<p>京都の癒しの場でもある植物園。子供からお年寄りまで憩いの場になっている。利益を目的とした計画ではなく人や自然を思いやる構想になりますように。</p>	

⑪文化力による未来づくり

今のままの植物園が大好きであり、満足である。日本でも1、2を争うその質の高い植物園であることを誇りに思う。商業施設など増やさないでほしい。全ての植物園内の植物の成長を守ってほしい。今回の総合計画は一度、全て白紙にしてほしい。

私は植物園が大好きで、最近も祖母と一緒にいった。植物園の中で絶滅が近づいている植物が気に入っており、一見似ている植物でも微妙に違うのが好きである。植物園は絶滅の恐れがあるものを保護し、未来につなげられる役割を果たしていると思う。それなのに、今の素晴らしい植物園の大切なところを壊されるなんて、それは嫌である。五年生の時に、ある種が絶滅するとどのようなことが起こるのかを知った。例えば、もしプランクトンがこの世にいなくなったら、プランクトンを食べていた魚は生きていけなくなり、絶滅してしまう。そうすると魚を食べていた人間や他の動物も魚を食べられなくなってしまう。カルシウムが足りなくなり、骨が折れやすくなる。だから、わたしはあらゆる種の絶滅を避けたいと考えている。わたしのような小さな力でも沢山集まれば、これを止めることができるはずだ。
わたしは植物園はこれからも変わらず今のままであって欲しいと思う。この気持ちをみんなで共に持ち、気候変動の問題も考えられる社会につなげたい。植物園は植物園だけでなく、地球全体に役立てると思う。

植物園は私達家族にとってかけがえのない憩いの場である。幼い娘をおんぶして姑が通い、舅が自慢のカメラで四季折々訪れたものである。休日にはみんなでピクニックのようにいそいそ出かけ、私達に孫が生まれたときにも芝生の上で思う存分転げ回って心ゆくまであそばせてもらった。想い出は数々感謝一杯ですが、いろいろ悩みにぶつかったときや、看病疲れ、PTAやご近所つきあい、時には夫婦げんかの時、一人になりたくて、園に来て日本の森を歩き……。又、父や母が兄が親友が逝った折など、こぼれる涙を”櫻並木”が”楠並木””もの大樹”が見守ってくれた。どうぞ豊かな静かな環境を守ってほしい。幼児から高齢者まで市民皆のための先人たちが築いた100年の誇りある植物園を大切に！

府立植物園は 府民(のみならず何人にとっても)の憩いの場であると同時に世界に誇れる自慢の施設だと思う。どうか今の生態系をこわさないで欲しい。商業化の構想があることを知りとても心配になった。商業化には反対。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

府立植物園の改悪に反対。
京都府は、あの植物園の価値を軽く観ている。日本の植物園をリードしてきた歴史と伝統ある植物園を100年先まで伝えなければならない。そもそも設立時に力を貸してくださった三井家に今回の改変は伝えられたのだろうか？人が集まれば良いというものではない。植物に関心のない人をいくら集めても、何の評価にもならない。
私どもは年に数回、札幌から京都を訪れており、そのたびに植物園へ行ってその景色や多種多様な植物の醸し出す雰囲気を楽しんでいる。あの植物園は京都の魅力のおおきな柱である。計画の中止を願っている。

府立植物園は、絶滅のおそれのある植物種の保全や、京都府民に対する環境学習の機能を果たしており、また園内は多様な環境が人工的に保持されており、野鳥、昆虫などについても生物多様性の維持増進の機能を果たしている。
今回の府の計画は、観光振興に重点を置きすぎており、特に研究機関としての根幹であるバックヤードを廃止することなどは論外である。
まずは府立植物園の動植物の生息状況を把握した上で、自然保護団体や環境団体の意見を十分に聞いて、計画を見直すべきである。

都市における緑地は、心身の健康のためだけでなく、生物多様性保全の観点からも、ますます重要性が増してきている。府立植物園は、京都市街地にまとまった面積を持つ貴重な緑地であり、紛れもなく、公共の資本である。そして、自然（緑地）以外に代替物がない、ということをしっかり認識する必要がある。どれだけお金を投じて、技術の粋を集めても、これに代わる施設・装置は実現できない。植物園を閉鎖しようとするのは、まさにこうしたかけがえのない公共の資本を、短期的な享楽や利益追求のために棄損する暴挙と言わざるを得ない。

府立植物園は現在そのまま、生きている植物を観察できる植物園として、静かな憩いの場所として、100年先も公立の植物園として残せるように、商業化、レジャーランド化・公園化・アリーナへの通路化をしないであらう。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>京都に4年住んで、最も好きだった場所が府立植物園だった。そこに続く並木道から園内まで、体調の悪い日も気分の良い日も通っていた。 園内に通う人々の顔までが素敵だった。 既に今の状態が貴重な生態系を作り出している。 他のどこにでも作れるようなもののために木々を切ったり縮小しないでほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>私は府立植物園の商業施設化に反対である。 現在の府立植物園は植物の生態系を観察・学習する場として豊富な資料を提供してくれる素晴らしい場所である。そこを安易に商業化すると運営の都合から集客率の良い植物だけが残され単なるテーマパークとなり、学びの場としての価値を減ずる可能性がある。</p>	
<p>博物館、植物園等において、各々の学術的、教育的意義を考慮した上での拡充が必要であると考え。安易に商業化等に進めない方が良い。</p>	
<p>生物多様性の拠点であり府民の憩いの場である府立植物園を商業化しないでほしい。</p>	
<p>なぜ府立植物園を商業化しようとするか。府民の憩いの場、生物多様性を守ってほしい。</p>	
<p>植物園を本来の植物園としてずっと残して行ってほしい。京都がずっと京都であるように。大切にすることを忘れないでほしい。(子どもがもう少し先にそこで暮らしたいと言っている。居心地のよい京都でいてほしい。)</p>	
<p>府立植物園は、貴重な植物を守るために商業施設を入れないでほしい。</p>	
<p>貴重な植物園の草木を守ってほしい。お店ができて垣根がなくなると人や動物が入り貴重な植物が守れなくなる。市外の府民も楽しみにしている。大事に守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園は植物園としての機能を維持するために、周囲を囲んで出入りができないようにしなければならない。そうでないとシカなどの動物が出入りしたり、植物が盗まれたり、治安が悪くなる恐れもある。貴重な植物が多品種育てられているのに公園のように出入り自由にするのは学術的にも生態系を守るためにも決して行ってはいけない。 門は現在の4つの門で十分。これ以上増やすと、維持管理に人件費、設備費などの経費も増加して非経済的。府立植物園の整備は植物園としての性格・機能を損なわないようにしてほしい。</p>	
<p>8つのビジョンと基盤整備のなかには生物多様性センターについての記述があるが、そちらと関連して分野別基本施策の「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能継承も踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設（シアターコンプレックス）など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備に取り組みます。」の植物園について、植物園の整備にあたっては、生物多様性の環境教育の場として園内の環境保全を最優先とすることを明記するべきだと考える。商業施設などを建てるために緑地環境を破壊すれば植物園の貴重な生物多様性は失われてしまう。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園を公園ではなく「生きた植物の博物館」として残してほしい。貴重な植物園の草木を守ってほしい。垣根がなくなると貴重な植物が守れなくなる。</p>	
<p>植物園は、生きた植物の博物館である。世界的にも貴重な府立植物園を商業施設にすることはダメ。企業の金儲けのための食べ物にしないでほしい。</p>	
<p>府立植物園を公園にする事に反対。公立施設の商業施設化は、市民サービスに反する。</p>	
<p>府立植物園は、京都の大切な宝、憩いの場であり、観光拠点として改悪するのではなく、環境保全・生物多様性を守ることに重きを置いてほしい。</p>	
<p>府立植物園の商業化に反対。人の園にするのではなく、植物の園として残してほしい。貴重な植物を守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>京都市内はどこでもホテルやマンションが乱立し、古都の面影は消えつつある。唯一植物園は自然のままの豊かさを、誰もが安心して楽しめる憩いの場所である。先人が100年近くかけて残した貴重な遺産を、このまま残すことが賢明な選択であり、府民との幅広い話し合いの場を持ち、納得できる結論が出るまで、一方的な押しつけをしないでほしい。府民はしっかり見ている。</p>	
<p>植物園に商業施設を呼び込む人よせ政策はやめてほしい。憩いの場と植物研究のために静かな植物園にしてほしい。</p>	
<p>府立植物園で「大規模イベントを行ったり、花や木の苗や種を植え、育てたり、いたんだ花や木の保護を行うバックヤードの敷地の縮小をすることが話題になった。府立植物園が担っている役割は純粋に生きた花や木などの植物を楽しむながら、観賞するほか、植物の研究、学習、講演会を行う教育活動、植物の中には希少種があり、種を絶やさず、保護、栽培し、園内でガイドを行い、植物園の運営にも関わる生涯学習ボランティア、なからぎの会のボランティア活動の場になっている。特にバックヤードの敷地の縮小は、今後植え替えをしたり、新しい芽を出してもらう為に栽培している花や木やいたんだ花や木の保護ができなくなり、植物園の展示、観賞ができなくなる。大規模イベント開催も園内改修工事を行うだけで費用がかかり、自然環境も一転する。来場者も今までのように静かに落ち着いて、花や木を観賞ができなくなり、散策しにくい。将来老朽化しつつある園内の南側にある売店、展示室、会議室、図書室のある建物の新築によりバリアフリー化、講習会もできるようになると思うが、余計な手を加えず、植物園を維持してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>現在の植物園は、市民の生活のすぐ近くに根付いており、自然に学術的豊かさや人間性を育てる礎になっている。その部分を削ぎ取り、どこにでもあるような商業施設にしてしまうのは、世界に冠たる京都の文化やそこで育つ人の豊かさを貶める行為だと思う。 また建設後の採算の見通しも立っておらず、維持に税金が投入されることは財政面からも無計画だとしか言いようがない。計画自体を中止すべきと考える。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園をそのままにしてほしい。 植物を優先してほしい。緑をこれ以上減らしてどうするのか。観光地としてだけでなく府民の場所を守る必要もある。 京都大学という優秀な学生も多く、学術的にも貴重な植物をそのまま維持できる場所が必要。 商業アリーナとかいらない。 ただでさえ観光地として人と店が多過ぎて、私の好きな京都が年々消えている。足が遠退く。 文化豊かな厳かな御所はどこにいったのか。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 スポーツの振興は、人々に勇気や感動を与え、青少年の健全育成や地域の活性化にも大きな力を発揮するものであると考えており、府域全体の状況を踏まえながら、スポーツ施設の充実など、府民のスポーツ環境の向上に取り組んでまいります。</p>
<p>北山エリア、植物園の周辺に巨大なスタジアムやシアターコンプレックスはいらない。鴨川→なからぎの道→植物園へと続く静かな環境と、植物園の研究機能を守り、さらに強化すべきだと思う。少子高齢化と人口減少が明らかな日本で、京都にはすでにシアターがいくつもあり、岡崎エリアはその機能をもっている。現在、京都市内にあるシアターの稼働率はどのぐらいか。本当に、シアターが足りないのか。大規模商業施設を北山につくる需要に関する調査はしたか。その結果は公表されているか。客観的な調査に基づかない無駄な、かつ環境に有害な計画には反対。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p>
<p>①植物園は公園ではない。できれば植物の博物館として残してほしい。 ②総合資料館跡地に宿泊施設を建設予定とか、そのようなものが建てられるのか？ ③貴重な植物園の樹木や草花を今まで通りに大切に守ってほしい。</p>	<p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしております。</p>
<p>植物園とその周辺の環境を守ってほしい。 鴨川、植物園は、すべての年代の府民の憩いの場所である。季節の移り変わりを体感し、自然に触れられる身近な大切な場所である。 専門家ではないが、植物園にある樹木や植物の種類も、日本国内でも誇れる多様なものであると認識している。すぐに収益がでる方向に持っていくことが果たして住んでいる府民のためなのか。インバウンド効果も計画にあるが、そもそも府民のための施設であることが大前提で、周辺には、府立大学もあり、学びの環境を考えても、計画している施設は不要と思う。近くにコンサートホールも既にあり、劇場は京都駅にもあり、これ以上必要はないと思う。今一度、府民の立場にたって、未来に残していくべき財産を見直し、今後100年後もっと先まで見据えて考えてほしい。新しい箱物をつくるのが果たして誰のためになるのかを考えてほしいと思う。</p>	<p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしております。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>100年かけて「生きた植物の博物館」になった。既在の府立植物園は日本の誇りである。貴重な樹木や草花を守ってほしい。生垣は切らないでほしい。植物園の広い芝生はみんなの憩いの場である。旧資料館跡地にはどこにでもある様なホテルやホールは立てないでほしい。府立大学の老朽校舎等をお願いする。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>植物園を公園化することなくもっと充実させる方策を考えてほしい。旧総合資料館跡にホテルは不要。植物園北側の垣根を壊すことなく緑の景観を残してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>最も注目している計画は、北山エリアの整備計画である。植物園を年間通じて利用している者としては、植物園の本来の姿から離れて商業的施設に変わることが危惧している。バックヤードは大切な場所であるために、半木の道からの出入り口が設置されると、必然的にその面積が奪われることとなる。また、出入り口は現状維持で、これ以上多くなると垣根の樹木が伐採され、植物だけでなく野鳥(植物園は様々な野鳥の宝庫です)も追われることとなる。今のまま静かな植物園を壊さないでほしい、と切に思う。</p> <p>「ビジターセンター、ショップ、カフェ等を備えた複合的な正門エントランスの整備」については、今の施設の充実を希望する。</p> <p>「ゾーン内に立地する各施設との垣根のない連携」はまさに植物園にとって改悪に思える。</p> <p>また、旧資料館の跡地が「シアターコンプレックス構想」ということだが、岡崎にあるロームシアター京都とどう違うのか。具体的なことを示してほしい。またその近辺にホテルの計画があると聞いたが、本当か。もしそうなら、ホテル計画などあってはならないと思う。</p> <p>府立大のアリーナということだが、大学の規模よりかなり大きいと聞いている。その必要性はあるか。府の施設としてのアリーナは西京極にあり、スタンドを必要とするアリーナはそこで十分なのではないか。</p> <p>また亀岡にもアリーナがあり、もともとこの場所での計画がダメになって亀岡のスタジアムが出来た経緯を最近聞いた。今更まだ北山エリアにアリーナが必要なのか。学生の学びの場、植物園の静かな環境の破壊はやめてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>植物園を「生きた植物の博物館」として存続させてほしい。貴重な植物園の樹木、草花を守ってほしい。垣根は減らすと貴重な植物が守れなくなる。栽培技術を伝えるために、植物園で働く府の職員を増やしてほしい。植物園を広く知らせるために、会館を充実させ、標本や図書を増やし、学習を深められる環境を整えてほしい。</p> <p>学生数2000人の府立大学に1万人収容のアリーナはいらない。アリーナのために植物園内に人が押し寄せ、植物が荒らされることがあってはならない。子どもさんのための遊具はあってよいと思うが、きのこ文庫は充実してほしい。旧総合資料館跡地にホテル建設はいらない。旧総合資料館のように使いやすい施設に歴史館をしてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>貴重な価値のある府立植物園を縮小してまで、アリーナや商業施設を作ること に反対。一度壊すと、回復させるのに膨大な時間や技術力が必要な植物園、 後世に残す価値のある植物園を守ることの方が大事だと思う。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上 と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を 目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、 研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、 さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門 家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の 解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おう とするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであ り、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してま いります。</p>
<p>現行計画で示されている植物園の整備計画に反対。今のまま自然を守ること を基本に植物園の老朽施設を整備することは必要だと考える。 府立大学の現場を見たが、老朽化が酷い状況である。商業優先のアリーナで はなく教育施設としての体育館をはじめ学舎の早急な建て替えが必要だと考 える。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上 と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を 目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、 研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、 さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門 家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の 解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おう とするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであ り、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してま いります。 学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリア整備について、2024年、100周年を迎える府立植物園を「生きた植物の博物館」として保つよう願う。大がかりな変更整備をしないでほしい。外周を囲う垣根は、今まで通り残してほしい。園内大芝生地に屋外ステージをつくらないでほしい。</p> <p>府立大学には学生が主役で使える大学規模に見あう体育館の建てかえをしてほしい。</p> <p>北山地域は静かで落ち着いたところで、商業的なにぎわいは不要。内外からの旅行者も京都ならではの静かで落ちついたところを「京都」に求めてやってくるのではないかと。それも昨今、失われつつあるが…。市電復活も望む。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>植物園を公園でなく今のままで「生きた植物の博物館」である植物園として残してほしい。学生数2000人の府立大学に一万人規模の商業アリーナはいらない。学びの大学内、それも敷地そのものが広くない学内に、商業アリーナなんて、あまりにもひどい計画。ぜったいやめるべき。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>北山整備計画の植物園を改変することに反対。現在の植物園は京都の宝だ。植物園の破壊に反対する。府立大学にアリーナは不要だ。大学の構想は周辺住民の意見を重視すべき。植物園や府立大学構内に商業施設を持ち込むことに反対する。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>府民の憩いの場であり、貴重な資料保存の博物館施設である植物園を縮小し、これからの未来を担う人材育成の場である大学に不要な機能を持たせることは、府民や学生の意見を一切無視したものである。長い歴史を守ってきた府がすることとは到底思えず、これまでの様々な人が積み上げた努力をも冒瀆しかねない。学生はそのような事よりも、耐震や空調などのもっと現実的で早急な対応が必要な設備に悩まされている事をご理解頂きたい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園を商業化することで環境が壊れ、植物に悪影響が及んだり、騒がしくなることを懸念する。アリーナではなく大学の体育館を、植物園は今の良さを活かした整備を希望する。 京都の良さは賑わいではないと思っている。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>府立植物園は府民にとって憩いの場として機能しているので、商業化させる必要を全く感じない。むしろそういった静かな空間を壊しかねない、アリーナやイベントスペースは必要ない。 また、府立植物園の植物環境は重要な生物多様性の拠点となっており、絶滅危惧種や植え替えの難しい品種も沢山あると聞く。周辺も含めて、今のままで手を加えないでほしい。</p>	<p>府立植物園の「生きた博物館」としての機能、役割を失くそうとする計画に反対。植物園を、儲けと集客目的だけのイベント会場への通路にしないほしい。半木の道も同様である。現状の高水準を保ちつつ、喫茶やアメニティーの充実は可能である。府立大学の教育施設であるべき体育館に、アリーナやイベント機能は必要ない。静かな環境の中で勉学と研究に集中できる環境を維持してほしい。</p>
<p>貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。 学生数2000人の府立大学に1万人規模の商業アリーナは不要。行政として京都府民の財産を大切に、次世代の若者へしっかり渡してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>府立植物園の商業化に反対。現状を変えないでほしい。アリーナ不要。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>京都が好きで観光に来られる方、京都の地元でこの土地を大切に思われている方は今の情緒、自然、静かさの中にある豊かな歴史を他の都市にはないものとして何度も訪れたり、この地に住み続けていたりしている。府立植物園も長きに渡り愛されてきた場所であり、大切に守られてきた場所である。世界にも誇れる唯一無二の植物園。北山エリアに街中にある賑わいもとい喧騒は求められていない。どうか守ってほしい。府立大学の体育館改修もアリーナではなく大学の施設として学生に必要なものとして行ってほしい。今だけの利益、目先だけのものを追い求めることは将来の損失につながる。多くの声を無視した再開発は禍根を残す。どうか地域に根ざした住民や人々に愛される街づくりを開発より守ることに重きをおいてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

北山エリア整備基本計画について、植物園は今のまま「生きた植物の博物館」として残し、貴重な植物を守ってほしい。商業施設を誘致して、植物園の機能が台なしになることを恐れている。また、2000人程の学生が在籍する府立大学に1万人も収容できる巨大なアリーナがなぜ必要なのか理解に苦しむ。

北山開発については基本的に反対。私は大学の関係で今年の春から北山に引っ越した。植物園の自然の多さや北山の落ち着いた雰囲気が好きである。また植物園は多くの貴重な植物も多く改造をしてしまっ植物に影響を与えるようなことがあってはならないと思う。また府立大学内のアリーナの建設予定の話だが、府立大学の規模を知っているのか。小さな大学で学生数も少ない。確かにいくつかの建物は耐久性がないため建て替えは必要だとは思いますが、必要以上の規模のアリーナを立てる理由が分からない。イベントを行うにしてもそこは大学内であり、本来学生が勉強する場所に外部から多くの人を集客して良いと思うか？府立大学に通っている人の多くは今の静かでこじんまりした大学が好きな人も多いし、昔ながらのコンクリートクラブボックスに愛情を持っている。それがどうなるかも分からずただ勝手に変えられそうになっていることに怒りを覚える。いま1度よく考えてほしい。少しでもこの気持ちが届くことを願っている。

「府立植物園」を、今のまま、そっとしておいてほしい。カネ、カネ、カネ…は京都らしくない。貴重な木々を伐採し、植物を破壊し、「賑わい」ばかりを求める価値観は京都に要らない。学術を尊重してこそその京都である。1万人規模のアリーナを建設して、稼働させていけるのか？貴重な植物を守る方が大事。誰でも受け入れる「公園」は、一見良いようだけど、どこにでもあるものでユニークさはない。唯一無二の今の植物園を大事にしてほしい。園長や職員の方々の声に耳を傾けてほしい。

府立植物園の商業化に強く反対する。現在の計画では、京都府が植物園を通じて蓄積してきた、生物・植物に関する財産をみすみす無にしてしまう。アカデミックなリソースを豊富にもつという京都の財産を投げ捨てるようなことはしないでほしい。安易な商業化によって、学術都市としての京都の価値を損ねては本末転倒である。京都府立大学に商業アリーナを作るという計画に、植物園を巻き込むことに強く強く反対する。ぜひ考え直してほしい。

府立植物園を公園ではなく「生きた植物の博物館」として残してほしい。貴重な植物園の草木を守ってほしい。垣根がなくなると貴重な植物が守れなくなる。学生数2000人の京都府立大学に1万人商業アリーナは要らない。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園は約100周年の歴史を持つ日本で一番古い公立の植物園と聞いている。戦火を潜り抜け、長い時間研究を重ね大切に育てられてきたいろいろな植物や樹木などを鑑賞できることはとても幸せなことで、京都府民の宝だと思う。そして植物園は大事な癒しの場ともなっている。この場に商業施設は今以上にはいらない。植物園を壊すことは反対。府立大学の耐震化は早く進めて学生が安心して学べる施設にしてほしい。学生がいつでも自由に使える体育館を作してほしい。1万人も収容するアリーナは必要ないと思う。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>植物園は今ままで「生きた植物の博物館」として残し、充実させてほしい。貴重な植物を守ってほしい。垣根をなくすなど論外。そもそも北山一帯に賑わい施設など不要。大学内に1万人のアリーナも不要。学生が安心して学べるように早く耐震工事などをしてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>百年の時をかけて今在る植物園、沢山の府民市民が守り育てた私達にとってのオアシスを何故今までのように、そしてこれからも必要な手助けをしたら植物の持っている力を育てていくだけではダメなのか。植物園に商業的・営利目的な発想を持ち込む事態こそナンセンスだ。植物からは十分にエネルギーをもらい心身の回復に貢献してもらっている。府立大学にアリーナは要らない。学生たちがのびやかに身心の育成に取り組む事ができる場としての機能を持っていればよい。周辺の環境をご存知か。府の考えていることはあまりにも暴力的である。即刻白紙にもどしてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>私は今の植物園が大好きだ。子どもが小さいときは遊び場、bookコーナーをよく利用した。四季の花が開花する時もすばらしい、園の中を歩いていると癒やされる。植物の多様性は世界的にトップクラス、絶滅危惧種を育てているコーナーもあり、少ない職員で頑張っていると聞いている。ところが、園の横に1万人が入るアリーナをつくと知りびっくりしている。園のとなりにそんな建物が建つと園の環境が大きく変わる。植物園を大事に守り、アリーナは再検討してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>「府立植物園」について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。ゾーン内の各施設との垣根のない連携により、現在の「生きた植物の博物館」の機能が喪失される危険がある。 ・植物園の樹木・草木の生育に不可欠なバックヤードの保持は不可欠。 ・北山、鴨川、上賀茂、等々、京都という都市と豊かな自然の共存が重要であり、その魅力を喪失する計画には反対。 <p>「府立大学体育館施設」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学に必要な施設としての在り方について、学生・教職員の意見・要望を最優先としたものとしていくことが重要。 ・学生数2,000人規模の府立大学に1万人規模の商業アリーナは不要。大学設置基準上も不適切。 <p>「旧総合資料館跡地活用」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・跡地には宿泊施設(ホテル)は不要。もともとホテルは立てられない地域だ。行政は規制を厳守してほしい。 ・府民・市民の文化・芸術分野での活動を支援するような機能を持った施設・機能整備を求める。 	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・植物園は、学問の都京都の奥深く豊かな叡知のひとつと私は思っている。絶滅危惧種などは公的な施設でこそ守らねばならないのに、はじめに計画ありきという(中間案)府の態度に違和感を覚える。 ・府立大学の施設などについては、学生、教職員など当事者の意見を十分に聞き、検討を加えて合意のなかで充実させてほしい。 <p>2千人の学生数の府立大学に1万人規模の商業アリーナを学生や教職員のみなさんは望んでいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合資料館跡地にホテルなど、歴史都市・古都京都に商業主義をひろげないでほしい。私たち府民の血税は、長い間培ってきた府民の歴史や文化を守るために使ってほしい。知事・府政にはその責任がある。儲ける京都府政は悲しい限りである。ローマやアテネなど歴史ある古都は歴史と文化の街並みを残して憧れとして存在している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・植物園を公園ではなく、「生きた植物の博物館」として残してほしい。 ・学生数2000人の府立大学には、1万人規模の商業アリーナは不要。 ・旧総合資料館跡地に宿泊施設を建設することは、住環境を破壊するので、認めることはできない。 	

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の貴重な樹木、草花を守ってほしい。垣根をなくしたり、野外ステージを作ったりは絶対しないでほしい。 ・学生2000人の府立大学に1万人規模のアリーナはいらない。それよりも耐震の教室、体育館を早く建ててほしい。 ・多額の借金を府民に押しつける無駄な支出・計画はやめてほしい。 	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>地域で開催された説明会に参加したり、配布されたニュースを読んだりしたが、抽象的な内容ばかりで京都府がどうしようとしているのか理解できない。整備計画の理念や現状の問題点が具体性に欠け、地域住民としては現在の時点では賛成しかねる。</p> <p>例えば、植物園はどうあるべきなのか、それを達成するには具体的に何が 필요한のか、それに伴う予算はどうかなど、なにも示さないまま意見を集めるだけでは意味がない。府が描いている構想をまず示すべきではないか。施設の老朽化の改善と整備だけなのか、商業施設やステージなどを導入するのかなど具体的な内容を示してほしい。</p> <p>それとももう一度白紙に戻して、専門家や府民の代表で構成する機関を設立して構想を作成するところからやり直してはどうか。</p> <p>植物園には賑わいは必要ない。商業施設も最小限で良いと思う。むしろ学術施設である本来の理念を貫いてほしい。利潤を追求すべき施設ではないのだから。又、この地域は静かな住宅地であるべき。それを壊してほしくない。府立大学にもアリーナはいらない。大学生のための体育館の整備が必要。公共施設には公共施設としての役割があるはずで、利潤追求や賑わいは必要ない。この計画の進め方も不明で分からない。手順を明らかにしてほしい。府民の声を聴く形式だけで終わらないでほしい。大事な税金を使うのだから、主権者を第一にしてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園、府立大学、旧総合資料館がある地域を対象に「北山エリア整備基本計画」を策定したということだが、同基本計画をもとに、1万人規模のアリーナやホテル・飲食店など、儲け優先の民間企業を利用した大規模開発が進められようとしていることは問題。集客や賑わいを優先したシアターコンプレックスや商業施設の設置により、植物園を縮小・改変するとともに、植物園を「研究拠点」にするとされている。歴代園長らは、「研究」中心の植物園になることで府民のための植物園でなくなってしまうと述べておられるのを新聞等で知った。</p> <p>また、府立大学の体育館を1万人規模の巨大アリーナにし、学生の授業・クラブ活動の使用以外に、音楽イベント、スポーツ観戦などで民間も利用できるようにすることが計画されているが、大学の体育館を企業の儲けの場として提供することとなり、公的財産の私物化だと思う。これを不安視する学生や教員の声を聞いてほしい。</p> <p>府の(委託したコンサル会社の)報告書では、北山エリア整備に要する建設費と30年間のランニングコストの総額が500億以上かかるのに対し、30年間の収入総額が176億円とされており、府民に大きな赤字を負担させる計画であると思う。東京発のコンサルに丸投げして出てきた案は、府民不在の無知・無責任の商業化案であり、まちづくりの進め方自体に根本的な問題があると思う。もういい加減、民を思わぬ、自分たちと一部のお友達の金儲けのためだけに政治を行うのをやめてほしい。私は最後まで抗い続ける。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府立植物園のバックヤードの破壊を前提にした計画の中止を求める。バックヤードは植物園の心臓部、レストランに例えるなら厨房である。喫茶店のような厨房で、サンドイッチとデザートだけを盛り付けるスペースで、レストランは運営できない。高級レストランなどは客席よりも厨房のスペースが広い所もある。舞台芸術などもバックステージの大きさが舞台の演出の規模に影響する。この伝統ある植物園では花、樹木の管理、研究施設として植物園以上にバックヤードが重要だ。ここに素人目線で金儲けの視点で手を入れるのは暴挙である。やめてほしい。</p> <p>あまりにも住民や今まで植物園を大切にしてきた人たちを馬鹿にしている。植物園をどうぞこのままの姿にしておくことを願います。世界中が樹冠率を上げる方向で動いている。環境に対する樹木の役割には色々あり、樹木が多いことで受ける恩恵は目に見える美しさや豊かさだけではなく、次世代、その先の世代の健康まで大きく影響する。植物園の破壊を伴う計画の中止をお願いします。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

世界に誇れる府立植物園の存在をもっと大切にしてほしい。時代を超えて育ててきた場所を知事はどのように思っているのか？大きなアリーナは不要。元々府立大学の体育館なのだから、体育館の耐震工事で良くないか？開発に税金使うなら京都捨てて滋賀に引っ越す。

小さな子供達が、安心してゆったり遊び過ごせる場所、犬や他の動物のフンが落ちていない、勝手に出入りできない他と仕切られた場所。ボールやバドミントンなどの遊具を使えば、職員がすぐ禁止と注意してくれる場所。ボールなどが飛んでこないかと親も子も注意する必要のない場所。家族が、友人どうしが緑の植物の中でゆったり過ごし、語り合える場所。そんな場所が府立植物園である。それは大きな価値であり大事に守っていく必要がある。屋外ステージとやらをつかって聴きたくもない音楽をドンチャンやられては、いい迷惑だ。また植物園が、プロバスケットボールやコンサートの客の待機所にされたら困る。植物園内の植物の管理や、静かな環境も吹き飛んでしまう。また、植物園は研究者の研究施設でもない。子どもを含めた市民が、植物を身近に感じる所である。府立植物園は今のままを前提に充実、発展させていくべきだ。京都ににぎわいというけれど、コロナ前世界一、二の観光地と言われ世界から人々がつめかけた京都市が財政再建団体になる危険というものを府はどう評価しているのか。亀岡のサッカー場は、サッカー以外のイベントをした実績はどのくらいあるのか？収益は黒字なのか？府立大アリーナも無関係ではない。

府立植物園に大規模な商業アリーナを隣接させることには反対である。

- ・計画どおりに毎週1万人もの人が訪れると、一般住宅で構成される周辺地域の騒音、交通渋滞、治安の悪化が懸念される。もし住みにくい地域になり、京都市が既にそうであるように、若い世代の他市他府県への流出が起こった時、税収は減る。
- ・長年に亘る府市の失策によって、税金は高く公的サービスは低くなっているのに、これ以後30年も高額税を府民に押し付けるのはやめてほしい。
- ・植物園の意義をご存知か。単なる公園ではない。また、空き地でもない。人類のための叡智を保存管理する大切な場所。商業アリーナのために、その生育保存環境に悪影響を及ぼすことは、文化社会のやることではない。ましてや来年からは文化庁が移動してくる。何を以て文化とするか、再度考えてほしい。
- ・賑わいのある商業アリーナは、隣接する府立大学生の学びの邪魔にしかない。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・府立植物園を今のままで「生きた植物の博物館」である大切な植物園として残してほしい。 ・貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。垣根がなくなると、貴重な植物が守れなくなる。 ・植物園や府立大学が多額の税金を使って商業化されることは反対。 ・貴重な税金のムダづかいはやめてほしい。 	
<p>植物園を公園扱いしないでほしい。植物園は都市の文化施設である。大切にしなければいけないと思う。</p> <p>一万人収容の大規模施設をつくって年に何回使用されるのか。それにそれだけの人数を運ぶ交通手段や空間をどうやって確保する見込みか具体的に示して説得してほしい。税金を使ってつくった施設を府の遺産になるような無駄使いはやめてほしい。北山通り界隈の個性を大切にすべき。</p>	
<p>府立植物園に建設予定のアリーナは再考が必要と強く思う。京都市民の人口だけで、150万人弱。何をするためのアリーナか。府立植物園になぜ多くの人が集まっているかといえば、そこにアリーナがあるからではなく、素晴らしい植生と環境があるからだ。すでにロームシアターやスポーツ施設もあり、大きなライブやスポーツイベントは大阪でまかなえていると思う(大阪ドーム等)。周辺大学の連携も目的とされている、とあるが、アリーナを建築されただけで学生の交流が生まれるのか？施設ではなくイベント開催がきっかけとなるのではないか。建築した結果、かけたお金を回収するのに躍起になるのが目に見えている。コンサル会社から提示された案は全てを飲まず、目先しか捉えていないものかそれとも本当に必要なものか・建設しないで目的を達成できる代替案は本当はないのか・かけた必要を回収できる価値のある施設かどうかはきちんと考えてほしい。また、あまりに二石三鳥を狙いすぎていて甘すぎる案も多い。それは本当に府民から求められている施設か？</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園にいろんなステージや商業施設等作らないでほしい。今の植物の保存が大切だ。子ども達もいっぱい来て遊んでいる。(芝生の中で) 府立大学のアリーナも中止してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・植物園をただの公園にしないでほしい。植物園は先人の努力に支えられ、世界に誇る「生きた植物の博物館」である。京都府の文化度が問われる。植物園として残してほしい。 ・植物を守るためには垣根が必要。温暖化で植物が危機の時代にアクセスの良さのために植物育成環境を壊すのはやめてほしい。持続可能な世界を造ろうとするSDGsの精神に反する。 ・大学に金儲けのアリーナはいらない。イベントのために大勢の人が押し寄せたら、静かな勉強環境が損なわれてしまう。大学には独立した勉強環境が必要だ。 ・植物園も大学も、それぞれの有り様が検討されるのではなく、イベント優先で本来の趣旨から外れた本末転倒の計画である。植物園や大学そのものを発展させる視点が必要だ。 ・資料館跡地にホテルはいらない。 	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。 併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

植物園を公園ではなく、今のままで「生きた植物の博物館」である植物園として残してほしい。

学生数2000人の府立大学に1万人規模の商業アリーナはいらない。もともとホテルは建てられない地域である。行政は規制を守ってほしい。30年にわたって多額の借金を府民に押しつける無駄な支出はしないで。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>現在、北山エリアに住んでいるが、「北山に住んでいるの？静かだし、植物園もあるし、良い所だよ」と、本当に多くの方に言われる。それ程、北山エリアの閑静さは魅力があるので、そういった場所に商業アリーナや宿泊施設等を建てることは、今ある北山の魅力をなくすことになりかねず、また、新しく整備するとされているそれらの施設の良さを活かさず、どちらの良さもなくなってしまう結果になると思う。</p> <p>また、植物園は公園として整備しなおすことなく、今のままで残していただきたい。京都市内にたくさんの公園があるが、豊かな生態系を学び、多くの植物に触れ、貴重な学びとなる植物園は他に変わることでないすばらしい施設である。植物園の再整備は植物の保護ができなくなるだけでなく、そこにいる動物の住処を奪い、子どもが自然環境に触れて学ぶ場を奪い、市民の憩いの場を奪い、北山地域の大きな魅力を奪うこととなる。計画の見直しをお願いする。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p>
<p>府立植物園に手を入れないでほしい。反対している人は多いと思うが、あまりにアウトプットが少なく何がどうなっているのか、府民に伝わってこない。勝手に決めて勝手に計画を進める気なのだろうか。知事は表に出てきて答えてほしい。</p>	<p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>植物園は博物館のひとつであり、園内の植物は「資料」である。100年続いてきた生物多様性の拠点である。植物園とその周辺の商業施設化に反対。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・植物園を公園ではなく、今のままで「生きた植物の博物館」として貴重な植物を守ってほしい。 ・府民のメリットは何か。豊かなくらしの保障である。30年にわたって多額の借金を府民に押し付ける無駄な支出はしないでいただきたい。 	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

北山エリアの植物園はそのままのかたちで残してほしい。植物が多く伐採される今の計画には反対。

植物園の環境を守ってほしい。京都という大都市のど真ん中に、加茂川の流
れに沿って大田神社―上賀茂神社―植物園―下賀茂神社―京都御苑と達なる
巨大な「グリーンベルト地帯」が存在することがどれほど京都市の風格(都市
格)を高めているか。この一帯は「京都の顔」であり、その顔に泥を塗るようなこ
の計画の意味を計画者たちはわかっているのか。私たち普通の市民は何を求
めて植物園を訪れるのか？四季折々草花が咲き乱れ、木々が芽吹き、繁り、
紅葉し、落葉する。野鳥が囀る。虫が集う。中央の大芝生では、親子が団らん
し、幼児が自由に駆け回り、学生が車座になって議論し、老人がベンチで静か
に語り合う・・・見ているだけで心和む「平和日本」の象徴である。私の母の少
女時代から100年近く、この清閑な環境が維持され、私たち親子は4代に
亘ってこの静寂な環境のお世話になってきた。これ以上付け加えるものは何も
ない。現状維持こそ最高最良の政策で、この清閑な憩いと安らぎの場に「賑わ
い」持ち込むのは愚かなことである。清閑の場に人の流れを引き込む「動線」
がなぜ必要なのか？すべては企業の金儲けのためではないのか？植物園や図
書館や美術館は、水や空気、海や川や森林や山と同じような市民の共有財産
(コモン)で、私的な企業の金儲けのためにあるのではない。府民のためにこれ
を守っていくのが行政の仕事ではないのか？植物園を含む北山エリア再整備
計画の白紙撤回を強く希望する。

静かで、落ちつきのある今の植物園(府立植物園)、多くの人に愛されてきた。
どこにでもあるテーマパークのようにならないか心配。計画の見直しをお願い
する。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上
と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を
目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、
研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えてお
り、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門
家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・植物園は現状維持で何も改装することはない。 ・特に園内に商店などは作る必要はない。 ・宿泊施設劇場など利用する人がいるのか。 <p>北大路周辺の商店も入れ替わり立ち替わり、テナントが変わり長続きしない。結局一時的に人は集まるが、流行はさびれ、廃墟となるのが目に見えている。</p>	
<p>植物園の見直しについて反対。</p> <p>住民が切磋琢磨して研究、おけいこ、行動する施設(お金もうけにならないエンゼルハウス、ウィングスetc)をなくして、植物園の周りにはぎわい施設をつくるのはお金もうけのためである。半木の道の風情があることやあかぬけていること、植物園、桜のきれいなこと、草むらがあつて走ったり寝転んだり、歩いてもよし、たたずんでもよし、とてもいいところである。</p>	
<p>私は今の府立植物園の「落ち着いた環境で心を静めて植物観賞を楽しむことができる」という部分に魅力を感じている。その機能は「府民の憩いの場」に欠かせない条件であるため、周辺に大規模な商業施設をつくり、周りでイベントを行うことは適切ではないと思う。北山エリア整備基本計画を考えた人たちが、現在の植物園のどのような所に魅力感じているのか、いくつか挙がる植物園の魅力の中からどの部分を伸ばしたいか、京都府の言う「憩い」とはどういうことかをもっと具体的に挙げ、府民に分かるように説明してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・何を考えているのか。今まで市民、区民が大切に守ってきた植物園を商業施設(府立大学も含む)にしてはならない。市民で考えてよい案を出し合ってもらいたい。急ぐことはない。誰もがこれでよかったと思える様なものに。でも今のままが一番いい。中央の芝生のところを縮小せず何か催し物がある時は仮の舞台(月の観月)を作ったり今4月～5月の花の観覧の様にトンネルを作ったりして市民の楽しみで十分である。 	

⑪文化力による未来づくり

北山「文化と憩い」の交流構想の中の、植物園の機能を無視した浅はかな商業施設化および改悪構想に反対する。

府立植物園を、公園ではなく、今のままで、「生きた植物の博物館」である植物園として残してほしい。貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。垣根がなくなると貴重な植物が守れなくなる。京都府の計画にも「環境との共生」と書かれているが、「今のままの自然をそのまま手を入れない」というのが本当の共生である。そこところが構想の第一義になっていないと思う。エッジ効果が考慮されていない。自然というのは、人間との距離がある程度ある状態であればこそ維持されるものであり、距離が近くなりすぎれば、目に見えなくても、すぐそばでなくても、「近くなった」ことで衰退する部分が多い。そのことが考慮されている計画とは思えない。そういった意味で自然の命を尊重することがないのに「環境との共生」をうたい文句にするのはやめてほしい。現時点で植物園を訪れる多くの人々は、この植物園に生息・生育する動植物が、緑地帯全体に一定の面積があり、「人間との距離が適切に保たれているからこそ見られる自然に魅了されている」、だからこそ、ここに来るのだと思う。ここには季節を通して移り変わる多くの植物種があるが、ちょっとしたことで彼らは大きく傷つく(例:カワセミソウ)。「移植」や「再生」というのは簡単には出来ない。計画のように改変すればまちがいなく種の多様性が失われる。それはすなわち、多くの人たちにとっての今のこの植物園の魅力が失われることにほかならない。絶対にこのままがいい。手を入れたらこの植物園のよさが大きく損なわれてしまう。考え直してほしい。いや、何もしないでほしい。「やらないこと」こそが大切だ。それが環境と共生する人間の文化だと思う。

府立植物園を変えないでほしい。娘とのんびり散歩できる最高の場所である。ずっとこのまま残してほしい。隣の空きビルは何か利用したらいいとは思う。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園及び京都府立大学・北山エリアの改革について、いったい何を考 えているのかわからないが、生きた博物館である植物園を賑わいの場にする など愚の骨頂である。 訪れる人が植物園に何を求めて期待しているか聞いた事はあるのか。こんな 計画はすぐにやめてほしい。</p>	
<p>植物園はそのまま残してほしい。その存在意義は植物優先なところである。 変わらないように守ってきたものである。</p>	
<p>植物園に足を運ぶのは静かに自然の中に身を置きたいからであって、いくら 多くの店舗があろうと飲食や買い物を中心に植物園に行くことはない。開発は 的外れで愚かとしか思えない。植物園は現状のままにしてもらいたい。</p>	
<p>府立植物園を植物園のまま残してほしい。 アミューズメント化に反対。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上 と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を 目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、 研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えてお り、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門 家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物中心のあるがままの、そのままの植物園がいい。職員を増やして、もっと もっと植物を生かさせてほしい。池も小川も水が少なく、これらこそ整備し てほしい。鴨川と高野川に囲まれた北山エリアは山紫水明の地である。この地 に開発は一切不要。整備するなら植木、草花が主役の整備がまず第一す。賑 わい施設はまったく不要。</p>	
<p>府立植物園の改修案には反対。</p>	
<p>府立植物園の開発反対。</p>	
<p>北山エリア開発について、近所の人間だけのためだけに府立植物園があるわ けではなく、近所のわずかな人間が植物園に入りやすくなるからと言って、入 り口を増やすなどありえない。近所でそのような要望は私の周りでは聞いたこ とがない。植物園としての機能が落ちるので入り口は増やさないでほしい。 また、賀茂川沿いの景観を壊してまで西側に入り口はいらない。北山通か北 大路から利用者は植物園にやってくるので、西側に入り口は必要ない。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>全体的に素敵な案だとは思いますが、植物園は今のままの形で残してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>もう既に植物園という素敵な施設があるのだから、新しく何かを作るのではなくそれを活かした計画にした方が良いと感じる。</p>	
<p>植物園の破壊に大反対である。 地域の憩いの場、静かで豊かな植物園を守ってほしい。地域住民を大切にしてほしい。 なんでも商業化しないで、目先の利益にとらわれなくて、長期的に将来を考えてほしい。日本一の歴史と植物数を誇る植物園は大きな財産である。 経済最優先でなく、植物にとって生きやすい植物園を。デジタルアートもゲートの増加も、植物からすると害でしかない。公務員なら市民の穏やかな暮らしを守ってほしい。</p>	
<p>植物園だけはそのまま残してほしい。</p>	
<p>北山エリアに植物園を残してほしい。</p>	
<p>府立植物園をそのまま残してほしい。京都へ寄る度に癒やされるスポットである上に、何事にも代え難い長き研究と育成の糸をどこにでもあるようなハコを建ててまで失わないでほしい。</p>	
<p>植物園を商業化しないでほしい。 半木の道は今のまま残して植物園への出入り口など作らないでほしい。</p>	
<p>植物園を利益優先の施設にしないでほしい。今の植物園を維持してほしい。そのことが、京都の文化を守り、結果的に京都の価値を高めることになると思う。</p>	
<p>植物園に手を加えず、現状を守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

⑪-37について、植物園の「整備の必要性」とは一体全体どこから出てきたのか。府民の意向を広く聴取した事実はあるのか。根拠がないのであれば、「植物園」を削除すべきだ。

なお、単に「利益が出ていない」ことは公共施設を改廃する理由には直ちにならず、もしそれを理由に挙げるのであれば、整備後の長期にわたる詳細な採算見通しを併せて明確に示すべき。

植物園の現在の形が壊されると、植物を管理維持していく上で不便になるばかりでなく、街頭の設置などにより植物の存続が難しくなり、負荷がかかるようだ。まずもって植物園は現在のまま維持し、開発しないようお願いする。学術的価値がなくなることは、数年後に悔やんでも取り返しがつかないことになる。中止されるようお願いする。

府立植物園の整備として、イルミネーション、ライトアップ、アリーナができた場合の通路になる等で夜間照明があてられると植物の生態系を乱し、大きな被害を受けることが考えられる。植物に光害を与える開発、イベント化をしないでほしい。また、大勢の人が通過し集まりイベントを行うことによって、土が踏み固められ、植物に対して悪い影響を与えてしまう。植物園は静かに植物を愛で、鑑賞し、憩う場所である。人間の賑わいはいらない。北山エリア整備基本計画は白紙に戻してほしい。

植物園に昆虫観察をしによく行くが、開発による植物園への影響や、植物以外の生物の多様性は考慮されているのか。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園の観覧温室は現在生育している植物を1本も枯らさないように現地で改修し、温室内にカフェなどを作らないで、植物の生育する土地面積を減らさないようにしてもらいたい。北山通り沿い、なからぎの道沿いにも商業施設を作って植物園への出入り口にすることをせずに、そのために樹木を伐採したり、植栽面積を減らすことのないようにしてもらいたい。植物園内に商業施設を作ることは周辺商店街のお店への圧迫になり、地域経済にとって何のメリットにもならない。温室の移転、通りからの通路確保などによって植物育成のためのバックヤードにも悪影響が考えられる。北山エリア整備基本計画は白紙に戻してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園は植物と植物を守る職員がいればそれで良い。 どこにでもある同じような商業施設やカフェやイベントスペースはもうこれ以上いらない。</p>	
<p>植物園の商業化に反対。 一時的な金儲けのために不可逆的な破壊を推進することは、長い目で見た場合、人類にとって大きな損失となる。 即時中止してほしい。</p>	
<p>府立植物園を商業化しないでほしい。</p>	
<p>府民の憩いの場である府立植物園、周辺施設を商業目的の施設にしないでほしい。 貴重な生物、植物の生育環境を壊して(減らして)お金を落とす客を呼び込むためだけのハコモノを作らないでほしい。</p>	
<p>府立植物園を商業土地に利用しないでほしい。小学校高学年でも、ノビノビと遊べる公園が欲しい。こども樂園だけじゃ足りない。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園の商業化に反対。京都の良さは自然と人の暮らしの近さにあると思う。豊かな自然が文化とともにあるのが京都の魅力だ。これらは金額に換算できないほどの財産で、開発された場所というのはどこに行っても同じになってしまっている。皮算用で開発をして自然も失い、施設の維持費ばかりが膨らむ可能性すらある。未来のためにも植物園はそのまま残してほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園の商業化絶対反対。</p>	
<p>北山の府立植物園を商業開発の計画を中止してほしい。市内の豊かな自然や景観をこれ以上壊さないでほしい。植物園の敷地を削ることは植物園内の植生にも大きく影響する。木を切ることは簡単だが、元にもどすのに100年単位かかる。 未来の子どもたちに豊かな自然を残してほしい。</p>	
<p>府立植物園は野鳥などの憩いの場でもあるので、開発ではなく、現状のまま集客を増やす方法を検討したほうがいいと思う。</p>	
<p>植物園は生き物も含め所蔵収集されている博物館である。 守るためにあるのが博物館の目的のはず。 賑わいが欲しければ入場料を倍額にしてもよいので世界各地、日本各地から植物を収集し今以上に世界で唯一無二にしてほしい。植物園の土地も、もっと拡大し植樹を増やしてほしい。</p>	
<p>京都のみならず海外の人も訪れる憩いの場、府立植物園をこのまま保存してほしい。外国人からも愛され親しまれている府立植物園を壊すようなまねはしないでほしい。</p>	
<p>生物多様性の宝庫である、府立植物園を壊さないでほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>京都府立大学、府立植物園の再開発について、環境アセスメントが不足していると感じる。京都の宝に手をつけるなら議会を掛けて特例を設けてでもアセスメントはしっかり実施すべきと感じる。議論やアセスメントの手抜きは論外だ。</p>	
<p>府立植物園について現在出ている計画を根本から見直してほしい。現計画は自然破壊につながるものと思えない。</p>	
<p>現在の府立植物園の姿をそのまま京都らしく大切に残してほしい。開発だけが良しとは限らない。 京都に伺う度に、落ち着ける場所である。</p>	
<p>府立植物園の「開発」について、賑わい創出という、アセスメントも疎にしている、無視しているようなよく分からない目的を口実に、希少種も含めた植物や鳥の宝庫、市民の憩いの場を踏み潰そう削り取ろうとしているのは甚だ腹立たしい限りである。今住んでいるこの土地の行政がこんな横暴を罷り通そうとしているのは許せない。絶対反対。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園内にイベントスペースを作ったり、入り口を増やしたりして、「賑わいの創出」をめざすのは、かえって植物園の価値を下げることになるので、止めてほしい。植物園の価値は入園者数ではなく、「植物目録」である。 イベントスペースや入り口を増やすことは害獣による食害、盗掘を増やすことと表裏一体で、「植物目録」植物園の植物のコレクションを毀損することに繋がる。植物園での賑わいの創出は止めてほしい。</p>	
<p>府立植物園を守ってほしい。府立植物園を例え一部でも壊さないでほしい。垣根をなくし公園化を図ったりしたら、貴重な植物が入場者に荒らされる恐れがある。 一部でも敷地を狭くしたら、貴重な植物の栽培、管理ができなくなる恐れがある。 今のままの植物園がいい。静かで、癒しの場所である。多くの人が入り出すようになると、癒しの場が無くなり、悲しい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園は今のままでいい。賑わいなどはいらない。</p>	
<p>府立植物園を訪れたが、ものすごく広く、学術的にもすばらしく、なんといっても楽しかった。市民の憩いの場として、また旅行者にも居心地良い府立植物園は今のまま残してほしい。一度失ったら戻すのに時間かかる。</p>	
<p>京都府立植物園には静かに時間を過ごすという価値が既に存在しており、商業化して利益を発生させる必要はないと思う。 公共政策として生み出すべき価値は何かを今一度検討してほしい。</p>	
<p>今のままの自然豊かな植物園を壊さないでほしい。今建物を作る必要があるのか。バブルの時とは違う。主婦目線庶民感覚の意見を汲んでほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園の今の状態を維持しつづける事が重要と考える。</p>	
<p>「北山エリアの大規模開発計画」はぜひとも考え直してほしい。北山エリアの3分の2を占める植物園には1万2千種12万本の植物を保有する日本有数の公立植物園で「生きた植物の博物館」としても国際的に高く評価されていると聞いている。神社の成り立ちを知って、かつて地域の防災会でハザードマップを学んだことを思い出した。地球規模で異常気象がおこり、気候危機が危惧されている今、巨大建造物をつくり、樹々や緑地を削減して植物園を公園化するなど絶対許されるべきことではない。植物園の樹々や花緑地のエネルギー、下賀茂神社から上賀茂神社に到る参道のエノキ、ムクノキ、ケヤキ、桜、松杉の木のエネルギー、鴨川の水のエネルギー等々素晴らしい自然の空間を絶対に無くさないでほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

府立植物園の魅力の1つは、緑に囲まれた環境である。夏は日差しを遮り、冬は風をふせいでくれて、歩いている来場者に心地よさを与えてくれる。花や木が人間にとって心身の健康と精神の安定に効果があるだけでなく、温室効果ガスの吸収量が増え、地球温暖化防止につながる。植物園とあわせて府内に花や木のある公園が増えれば、さらに温室効果ガス吸収量が増え、グリーンインフラの推進にもなる。植物園にはトビやカラスを中心に多くの野鳥が集まり、生き生きと暮らしているが、大規模イベントが行われれば、野鳥は安心して暮らせなくなる。野鳥の生態系を維持し、自然環境を守るためには大音量のマイクからの声、楽器の大きな音声は良くない。今まで通り、ガーデニングコンテストなどの自然に配慮したイベントにとどめてほしい。

植物園の木々と広い芝生は都会のオアシスであり、ただ、ゆっくりとすごすことができる都会では珍しい場所である。入園者の7割が無料入園者すなわち70歳以上だが、年をとると木立を散歩し、広い芝を眺め、ゆっくりした気持ちで過ごすことが心のリフレッシュになる。高齢者の健康増進には、心の憩いも大切。鴨川沿い及び北山通り沿いの木々を倒し、店舗などの建築が計画されているが木々に囲まれた別世界をそのまま維持してほしい。野外コンサート会場の設置は若者には有益と思うが、都会オアシスとの位置づけを維持してほしい。なお、植物園は年間4億円の赤字とも聞いている。老人がのどかに過ごせるひとときに200円は安価なので、値上げも考慮してほしい。北山エリア全体の賑わいの場とせず、植物園ののどかな現状を損なわないでほしい。

約100年前当時の三井家の多額なる寄付により植物園が誕生した植物園は、ボランティアや職員の人達、京都府民の人たちがあって今日の植物園がある。全国から愛され誰もが植物園でのひとときを老若男女赤ちゃんまで「いこいの森」として癒やされた場所。手を入れすぎない自然と人が調和しながら造り上げた今の植物園をそのまま守ることが重要と考える。

植物園では日常目にする事のない珍しい植物や野鳥の姿をゆっくりと楽しみたい。手作りのお弁当等をゆっくり野外で食べるタイムを楽しみにしている。税金の無駄遣いはやめてほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>今回の改定案(中間案)では、前回案の基本計画にあった”北山「文化と憩い」の交流”の項が消え、漠然とした言及にとどまっている。令和2年12月発表の「北山エリア整備基本計画」は白紙に戻されるとはっきり言及するのなら大いに歓迎する。</p> <p>府立植物園はこのエリアの整備を考える際の最重要要素として、その佇まい、背景にある比叡山、北山等の山々、西の半木の道、枝垂れ桜のトンネル、加茂川の流れをそっくり100年後に引き継ぎ、より多くの人々の財産となり得るもだと思わる。目先の利益に押されて園内に人流のための通路や正門の奥に広々と広がっている空間を遮る建物を建てては台無しである。枝垂れ桜の並木も先人の努力、毎年の手入れがあってこそ、あのようにすばらしいのだ。植物園は佇まいごとそっくり後生に残すべきだ。梢をわたる風の音も、小鳥たちのさえずりも、足元の虫が歩に驚き飛び立つ気配も、そして子ども達の声が響き渡る憩いの場が、そのまま引き継げるよう願っている。</p> <p>北大路橋、加茂街道、葵橋などから見渡す植物園一帯の風景がそのまま残るようにして、街の魅力を引き出していかれることを望む。</p>	
<p>今の植物園は絶対に守ってほしい。新たにいくつかの入口を作り、出入り自由にするようなことになれば、植物園の機能は大きく損なわれると思う。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>地球の温暖化は人間のせいであり「疑いの余地はない」と言われている。植物園の存在はCO2の削減に貢献しているのは間違いないことだ。植物園を壊さないでほしい。</p> <p>CO2ゼロ・温室効果ガスの大幅削減を目指すためにも現在のままの植物園が必要だ。</p>	
<p>植物園は生きた植物の博物館と言われており、公園ではなく今のまま植物園として残してほしい。府立大学の中に商業施設を持ち込まないでほしい。美しい草花、樹木に心が癒やされ、大阪や奈良の他、たくさんの人が楽しみにしている。静かな京都を商業化しないでほしい。今ある京都の財産を壊さないでほしい。</p>	
<p>植物園がどれほど私達府民を癒やし、励まし、慰めてくれたか。 どれほど子ども達の成長に力を注いでくれたか。 私達の大切な大切な植物園をこのままそっとしておいてほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園の商業化には反対。できうる限りの現状維持を希望する。</p>	
<p>府立植物園の整備について多くの部分で言及があるが、公表されている植物園の整備計画は、植物園に生息し、その環境を利用している生物についての配慮が全くされていない上、整備による影響の評価(事前調査)を行うことも全く含まれていない。 このような計画に基づいた「整備」は、生物の生息環境としての植物園改悪にもつながりかねないので、今回の基本計画から、植物園の整備は一旦、削除するのが妥当であると考える。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園は公園ではない。府の計画では、北山通り沿いのウバメガシの垣根を取り除き商業施設にし、にぎわいを創出しようとしている。植物園には、にぎわいは要らない。住民が植物園を守り、静かな「いこいの森」老若男女赤ちゃんまで安心していられる所だ。北山エリアは落ち着いた京都の良さを持ったかけがえのない宝物だ。神社仏閣だけが京都ではない。 観光客は、京都らしさ、静かにいこえる場所を求めて京都に来る。植物園、北山エリアは今の状態を維持し、続けることが重要と考える。</p>	
<p>今のままの植物園が大好きだ。子供達が小さかった頃には、ほぼ毎日のように植物園に連れて行った。植物園を変えないでほしい。</p>	
<p>府立植物園および府立資料館跡地について、「にぎわい」はいらない。コンサートの余韻をたのしむ時間が必要。京都会館を含む岡崎地区が、やはり「賑わい創出」の名のもとに、京都会館のいわば、中庭を「活用」して各種イベントを開催しているが、大ホールや中ホールで音楽や芝居などを楽しんだあとに、どうして無関係な音やにおいにさらされなければならないのか、本当に理解できないし不愉快。もっと離れた場所でやってほしい。北山も同じで植物園は植物を楽しむ場所。コンサートホールは音楽を楽しむ場所。ほかのものはいらない。 「にぎわいの創出」はまったく必要がない。都市にこそ静かな空間が必要。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p>
<p>府立植物園を単なる公園にしないでほしい。今のままでいいと思う。 資料館跡地がある地域はホテルが建てられない地域と聞いている。府は基準、定められている事は守るべきだ。 そもそも、府民の負担は困る。もっと大学の施設整備に使うなど、使い方を考え直してほしい。</p>	<p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

- ・植物園の公園化には反対。総合資料館跡地に自然史博物館などを建設してはどうか。
- ・総合資料館跡地に宿泊施設や商業施設はらない。
- ・府立文化芸術会館の存続と、耐震化及びバリアフリー化を求める。
- ・府立大学に「商業アリーナ」は必要ない。教育や部活動に使える体育館の耐震化又は建て替えを求める。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園については、園内部からの要望と京都府植物園条例の求めるところに従うのが、私達府民のために大切だと思う。踏み込み、切り込はしないでほしい。植物の求めるところに十分目や耳を傾けて働いている園職員、特に現場の方々は、百年後の人々につなげる仕事をされていると思う。総合資料館跡地については、記念寄贈された樹木が早くも切り払われてしまった、と近くに住む人から聞いて驚いている。府民の財産であり、公務の世界では立木も資産として登録されていると思っていただけに、残念だ。シアターについては、建物や装置、道具をそっくり変えてしまって、継承されずに潰されてしまう大切な要素がないか、これまで携わってきた人々と共に、以降について十分な検討がなされているのか？府立大前にあった文化芸術会館は交通の便に恵まれていたが、現状では北山は地下鉄駅のみが頼り、車の乗り入れは避けてほしいところだ。建物の高さは、北大路橋や葵橋から眺めた風景が変わらないよう、植物園の佇まいがそのまま生かされるエリアであってこそ、やすらぎ、憩いの言葉がふさわしい地域として将来にわたって人が訪れる街になるかと思う。いずれにしても、北山エリア基本計画はせっかく形成されてきた街に、無理やり切り込むものという印象を持っている。北山街の繁栄は京都市と強調して現状の問題点と原因を正確に把握し直し、改善が図られるべきだ。植物園でほぼ百年、住宅街でもかなりの年月をかけ形成されてきた。開発ありきの計画は一旦止めて、二枚舌の使い分けではなく議会へも住民へも、これまでに意見を尋ねたハンナリーズなどに対しても、同一の正確な説明をされるよう求める。民間資金部分も府に説明責任がある。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>疲れた心の癒しは何か。 京都府民の憩い癒しの場所であり自然に触れ合える場所は植物園である。毎日口にしてらっしゃる農作物は植物であり可愛いペットも自然の産物である。それを壊す様な商業アリーナは癒しではない。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>北山エリアの整備計画は中止してほしい。植物園は今のままでゆったりとすごせる場所が必要だ。ましてやアリーナなど必要ない。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p>
<p>府立植物園の敷地にアリーナを設置するのはデメリットが大きすぎて反対。現在の規模・質の府立植物園は府の大きな知的財産である。</p>	<p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>府立植物園の敷地にアリーナを建設することは、SDGsの陸の豊かさを守ろうに反する。京都議定書発行の地として、Do you Kyoto?とは環境にいいことをしているかという問いかけであるとまで言う京都市を擁する京都府が、環境配慮のカケラもない計画を、多くの反対の声、多数集まっている署名を無視して押し進めることに強く反対。</p>	
<p>①植物園の垣根を減らして出入口を増やし、周囲にカフェ・レストランを作る構想はやめてほしい。「生きた植物の博物館」を守って充実させる計画を住民・職員とともに作ってほしい。 ②府立大学キャンパス内に巨大アリーナを建設する構想を見直して、学生・教職員が要望している適正サイズの体育館を建ててほしい。 ③「公僕」たる姿勢や考え方を堅持してほしい。府民・市民・学生ファーストを貫いてほしい。その姿勢が見えないのが残念。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>植物園は、今のままで静かな囲まれた植物を楽しむ場所として変えないでほしい。園内に飲食店や野外ステージは作らないでほしい。 貴重な樹木・草花を守ってほしい。 府立大学内に1万人規模のアリーナは必要ない。</p>	
<p>貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。垣根がなくなると貴重な植物が守れなくなる。 毎週のように一万人の人が押し寄せたら、騒音・渋滞・治安などが心配だ。</p>	
<p>京都の世界に誇る文化芸術といこいに包まれた植物園を削減したり、にぎわいゾーンは必要ない。心静かにすごせる植物園こそ必要。 府立大学は1万人のアリーナは必要ない。学生が毎日生活される学舎、体育館の整備と建て替えこそ切実な問題ではないか。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>・歴史ある植物園を今のままの形で残してほしい。植物園は単なる公園ではなく、教育・研究機関である。府民の財産を破壊しないでほしい。</p> <p>・府立大学に一人万人規模のアリーナは要らない。</p> <p>・旧資料館跡地にホテルは不要かつ違法。</p> <p>北山エリアの『文化と憩い』を破壊する整備計画は要らない。時代遅れのハコモノ行政、拡大開発路線はだれのためのものなのか。商業施設を作り、人出が増えることを町の『整備』と考えるのは貧困な発想の典型である。文化庁が来れば文化都市、とは府民の文化度をバカにしている。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p>
<p>植物園周辺の環境を壊す、開発行為に反対。府立大学体育館を建て替えて1万人が入る大規模なアリーナはいらない。植物園の周囲の緑の垣根を取り壊すことに反対。今のままの自然がいつばいの植物園を残すべきだ。資料館の跡地にホテルはいらない。</p>	<p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

- ・植物園は静かで、今のままが良い。中央芝生にイベント施設は不要。北山通りや加茂川側の垣根も園内の植物の生態を守るためにこれ以上開かないでほしい。
- ・府大の体育館は耐震化を急ぐべき。2000人程の学生数に1万人規模のアリーナは不要。プロスポーツの観戦や大イベントで費用対効果を考えれば学生が主体でなくなり、又、開催時の交通渋滞も予想され、周辺住民への安心安全上の懸念される。アリーナを考えるなら公募も含め他地域にしたらよい。
- ・資料館跡地は地域住民や府民の声を聞いてほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

⑪文化力による未来づくり

歩いていける植物園は、鴨川公園と並び、安心して車いすの母を連れていけるほぼ唯一の憩いの場である。心身に障がいのある人に限らず、小さな子供連れの家族、静かに思索にふけりたい人などにとっても、植物に癒されながら、安心して静かに過ごすことのできるかけがえのない環境である。この環境を壊さないでほしい。

有識者懇話会は、「歴史文化都市 京都に位置する植物園として一層ふさわしいものとなるような施設整備の方向性」を議論するそうだが、大型アリーナや野外ステージ、北部及び鴨川沿いの商業施設、イベント活用スペースなどが、その方向性の実現にどう貢献するというのか。また、多くの面積を植物に無関係なこれらの施設に費やし、植物の維持管理に必要なバックヤードの機能をどのように確保するのか。京都市内に、アミューズメントパークのようなものは不要。それは歴史文化都市京都の目指すものではない。むしろ、文化都市京都にある歴史ある植物園として尊厳のあるあり方を守り、納税者たるすべての府市民が安心して利用できる憩いの場を死守すべき。

さらに、大学体育館が本来の趣旨であるなら、なぜ一万人規模の大型のアリーナが必要なのか。適正な税金の使用と言えるのか。同じく、シアター機能は、すでに岡崎エリアに立派なコンプレックスがある。なぜ二つ目を多額の税金を費やして北山にも作る必要があるのか。

府には、納税者に納得のいく説明をする責任があると思うが、これまでの説明でその責任が果たせていると考えているのか。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

京都府植物園を改変し、北山エリアに巨大アリーナを建設する計画に反対。具体的な反対箇所と理由は以下のとおり。1)北山通沿いの椿園などの樹木伐採をして、商業施設建設することに反対。理由1:現在、世界的な生物多様性危機の観点から都市においても植生を守ることは重要であり、特に植物の意義、生態を理解するために守られてきた植物園の植物を商業施設のために伐採することは、生物多様性の保存の観点に反している。理由2:現在、都市の気温上昇が懸念されており、都市内の樹木は、温暖化防止に役立っていると研究報告されている。北山通沿いの樹木の伐採は都市温暖化防止に反する行為であるから中止すべきだ。理由3:植物園の北山通沿い、鴨川沿いの垣根がなくなることにより、植物園の植物への鹿の食害増大が考えられる。理由4:現在ある北山通沿いの植栽は、北山通に自然と共生する街である京都らしい緑に道た落ち着きのある景観を与えている。これを無くして商業施設を立てることは景観の悪化につながる。理由5:工事による騒音、車両の増大により、北山通の環境が悪化する。

2)植物園内にデジタルアートを設置することに反対。理由1:植物園の目的は、観光よりも、植物展示する博物館という学術的目的にある。デジタルアート展示は、この目的にそぐわない。理由2:植物園の夜間利用は、桜の開花時期のライトアップなど、できるだけ少ない期間にしなければ、光の影響、夜間の人流により、植物そのものに悪影響を与える。理由3 デジタルアート展示で観光客が植物園に流入することで、植物盗難、ゴミの放置などの影響が大きくなる。植物園の意義を減じる危険性があるデジタルアート展示は中止すべきである。3)植物園の利用者の利便性を高めるために、現在の植生の改変したり、広場利用改変、バックヤードの縮小化は避けるべきである。

理由1:植物園活動は博物館であり観光施設ではない。

その目的を毀損する変更は中止すべきである。利用者の利便性より、バックヤードの充実、植物研究のための施設としての充実を図ることが、将来的に京都の学術的意識の高さを世界にアピールすることになる。府立植物園は、商業施設があることで有名になることより、アジアでも歴史の古い植物園として、イギリスのキューガーデンのような、研究展示を行う植物園施設を目指すべきである。利用者の利便性を図る観光拠点化はこれに反した短期的な商業的利益のみを考えている点で、視野の狭い計画である。〈続く〉

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行うとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

理由2:現状を改変する工事により、現在ある植物の廃棄、成長への悪影響が考えられる。

4)植物園利用者増大を図るための園路の新設、拡張、それに伴う研究バックヤード領域の縮小に反対。

理由1:利用者の増大は、植物成長環境に悪影響であり、そのために研究バックヤード面積が矮小化されれば、植物園の意義を損なう。

理由2:植物成長を阻害する行為を行う利用者が増大する可能性があり、人間の歩行により土壌が踏み締め固められるなど園内の植物生育環境の悪化が考えられるので、行うべきでない。

5)植物園の商業化計画全体に対して反対。

理由:府立植物園は、国内でも有数の100年にわたる歴史を持つ植物園であり、植物研究と保存活動が行われてきた。今回の改変計画で植物園の一部を商業化しデジタルアート拠点とすることは、植物園の歴史的意義と研究活動を損なうものなので行うべきでない。

6)北山エリアに巨大アリーナを建設することに反対。

理由1:現在ある体育館を改築すればよい。巨大アリーナは必要ない。

理由2:現在ある鴨川沿いの半木の道の景観は、自然と共生する京都らしく市民の憩いの場であり、観光客にも京都らしさを感じる場所である。それを改変すべきではない。

理由3:巨大アリーナ建設によって予想される人流、交通増大に対する説明が十分行われていない。

府立植物園を破壊する北山エリア再生計画に反対。なぜ園内の植物を守っている垣根をあちこち削って、人々の往来を激しくするのか理解できない。府立大学の体育館の建て替えの必要性は感じるが、2000人の学生数に見合う規模にすべき。1万人も出入りするアリーナは必要ない。もし1万人の人々が往来するために植物園を縮小するのであれば本末転倒である。また、閑静な環境の北山地域にホテルはいらない。植物園内のイベント施設などもっての外。植物の育成には長い年月がかかる。植物園をどうか守ってほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に関わりながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

北山エリア整備基本計画は、白紙にしてほしい。
私は、どう植物園がかわってしまうのか、実際に園内を見学した。この植物園は貴重なものである。日本の宝だと思う。まさに、生きた植物の博物館である。計画はさまざまな問題があり、特にウバメガシの垣根や大切なバックヤードの本質や重要性についてこの計画は、全くわかっていない様だ。現状の大切な植物を守って欲しい。

商業的アリーナは、府立大学には必要ない。大学の老朽化した建物をきれいにするの方が大切だ。京都にはこれ以上金もうけの箱物はいらぬ。もっと住民にとって生きた税金を使ってほしい。府がすることは、住民の思いと逆行していると思う。これを実行したらますます「日本」がダメになる。

府立植物園の木を切らないでほしい。植物園の学術的価値を下げるようなことは絶対にやめてほしい。

真面目な学問や研究は派手なものではないが、地道に知見や経験を重ねていくことに大きな意味がある。植物園は遊園地ではない。わざわざお金をかけてせっかく今ある価値を失うような開発は、市民府民にとって損害である。許せない。

どこにでもあるような陳腐な商業施設を作るために植物を失うことは、今あるオリジナリティを失い、京都らしさを失い、京都の認識の低さを世界中に露呈することになる。

今の大阪のようなチープで薄っぺらいやり方は恥ずかしい。京都には不要。アリーナなどできたら、ハンナリーズさえも嫌いになりそう。

どうか愛する植物園に手を出さないで。

高齢の母親も、母の友人たちも、今の植物園を愛していて、不要な開発の話が出ているときいて激怒している。

どうか植物園を守ってほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

今の植物園が大好きで、貴重だと思う。これを変えないでほしい。又、府立大学の体育館も1万人規模のアリーナに変えないでほしい。そもそもいずれも府民多数の要求から出たものではない。むしろ学生、近隣の住民他関係者の方々に迷惑であり、そのようなものに多額の税金を使わないでほしい。又、反対を押し切って強行して採算がとれなかったら誰が責任を取るのか、税金を使ったり、福祉を削るのか。

植物園を今のままで残してほしい。植物園は今のままで十分府民や市民の憩いの場になっている。近隣や市内の保育園や幼稚園の子どもたちが安心して遊べる貴重な場所である。また、高齢者にとってもよく手入れされた花や木、そこに集まる鳥などの観察など四季折々楽しめる本当に貴重な場所である。「公園化」や「賑わい」などで貴重な植物の環境を壊さないで。どうか今のままで残してほしい。また、隣接する府立大学に1万人規模のアリーナが建設されれば、地下鉄や市バスなど限られた交通機関がパンクし、あの狭いエリアが人で溢れ大変な事になるのは明らか。亀岡のサッカースタジアムでも1万人規模の観客が集まった時の道路やJRの混雑ぶりは、本当に大変で駅に向かうのにも線路の向こう側にわたるのも長時間の人の列が続いている。これが北山通りになると本当に危険で重大な事故につながる。今回の計画にも莫大な予算がかかることが想像される。私たちの大切な税金を府民の意見が十分反映されるように使ってほしい。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園ににぎわい機能は足りない。府民の財産である植物園は今のままの姿で残してほしい。植物園の人員が不足している場合は予算をつけてほしい。府立大学に必要なのは将来の維持費がかかるアリーナではなく、学生が優先して使用できる大学の規模にあった体育館である。閑静な北山エリアの再開発に反対。京都にこれ以上ホテルは足りない。むしろ観光公害をなんとかしてほしい。コロナ前は観光地を経由するバスが混みあっていたり、東山通の渋滞で、住民の移動に支障がでている。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行うとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>
<p>府立植物園の商業化を中止し、広く地域住民や府民の声を聞き、話し合いを行ってほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

府立植物園については現行で既に府民の憩いの場として大いに機能していると、一近隣に住まう府民として感じている。今計画に伴う開発によってむしろその機能が大いに失われるのではないかと懸念している。「観光公害」が昨今問題化される情勢の中で、またぞろ「賑わい」「交流」などのワードを持ち出して、閑静な地区に商業施設やイベントスペースを作ろうという短絡ぶりには疑問しかない。また、開発によって植物園の環境そのものが大いに改悪、破壊されてしまうのではないかという懸念もある。植物園は府民の憩いの場であるにとどまらず、世界に冠たる生きた植物の博物館であり、研究・教育に大きく寄与している施設であることは京都府行政に関わる方々であれば当然ご存じのことと思う。その植物園が現行と変わることなく完全に保全されることを明確にしないような計画が容認されるはずもない。もちろん「明確」にするというのは、「完全に努めます」のような内実の無い宣言のことではなく、植物園職員らとの対話を通じた科学的裏付けを打ち出すことである。

そもそも近隣住民等からこのような北山エリアの開発を望む声はきいたことがなく、むしろ開発が明らかになって以降、様々な懸念や明確に反対の意見を表明する方の声の方が良く耳にするように思う。一府民として、税金の使い道として、北山エリアの開発には何のメリットも感じないし、むしろ上記のような植物園の保全や生活環境の悪化に関する懸念しかない。北山エリアの開発自体が住民からしてみれば寝耳に水のようなものでしかないように思う。北山エリアの開発は中止にすべきと考える。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上を図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられ事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>全国的な人気の高い植物園を壊そうとしているようにしか思えない。北山エリアの整備計画案に失望する。そこに175億もの費用をかけてアリーナ建設の計画、この地域はそのような開発をしてはならない地域である。膨大な赤字だけが残るのが目に見えている。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立植物園整備計画の見直しを望む。宿泊施設やアリーナの整備、国際MIC E施設の整備などのために、現状の植物園に手を入れることはしないでほしい。垣根をなくすことも反対。貴重な植物園は京都市の財産であり、誇りである。子ども達にとっても貴重な場所である。生態系を守ることが、これまで育ててきた植物には必要である。また、多額な経費をかけて府の予算を圧迫するのではなく、他に必要なところに使ってほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に関わりながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府大にアリーナ機能を持った体育館を整備するとあるが、学生の勉学の場に全くふさわしくないと考える。真面目に学習に励みたい若者はそのような環境を敬遠し、府大のイメージを落とした挙句に偏差値の低下を招く。京都府の教育に対する姿勢も信頼をなくすだろう。全く馬鹿げた計画だと思う。</p>	
<p>分野別基本施策⑩-7について、学生スポーツと国際大会の両方で活用できるアリーナのビジョンが見えない。学生が日常的に楽しむスポーツと大勢の観客が見て楽しむ国際大会とでは役割や性質が全く異なり、一つのアリーナで実現した場合には学生の日常がないがしろになったり、国際大会には不便な設備になったりしてしまう可能性が否めないと考える。それぞれの関係者・有識者に広く丁寧な聴き取りを行って再考することを求める。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>学生スポーツはスポーツを「する」こと、国際大会はスポーツを「みる」ことに主眼が置かれているように感じる。普段学生が課外活動で日常的に使用する「体育館の機能」と「アリーナ機能」を両立させることは本当に可能なのか、疑問に思う。「アリーナ機能を備えた体育館」を建てる前に、運営方針のようなものを先に決め、両立が困難になった場合、どのようにしてその優先順位を決定するのかを明確にしてほしい。</p>	
<p>府立大学の体育館をアリーナ化するのはやめてほしい。外部の人が入らないようにし、学生専用の体育館として建て替えてほしい。賑わいは不要。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの賑わい創出計画に反対。 具体的には、 1 府立大学と府立植物園の敷地を利用したアリーナ建設計画を完全撤回 2 府立大学の体育館や老朽化して危険な施設の改築に方針転換してほしい。 歴史もあり学術的にも高い価値のある活動を続けてきた府立植物園や学生たちの学びの場である府立大学の施設は過去現在未来の府民全体にとっての共有財産である。 これ以上、無定見な土建屋行政で地元民の府政への信頼や京都府民としての誇りを破壊しないでほしい。</p>	
<p>現行の府の計画には反対。 特に「アリーナ」建設によって、静かな住環境が破壊されるのは耐えられない。 絶対に反対。</p>	
<p>学生数2000人の府立大学に一万人規模の商業アリーナは必要ない。毎週のように一万人の人が押し寄せたら、騒音・渋滞・治安等々で問題が起こりすぎる。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>大学生が使う体育館にイベント機能は必要ない。大学はイベントスペースではなく学びの場であり、体育館を立て替えるなら普通に体育館としての機能があれば充分だ。大学の敷地内でイベントを開催すると、学内に外部の人の流れができ、閑静な空気が失われ、学業に支障をきたすことは想像に固くない。また、植物園、府立大学付近の公共交通機関では、1万人のアリーナの収容観客を容易に輸送する事はできないと考えられ、構内及び付近の住宅街に人が滞留する事が考えられる。学生及び地元住民にとって非常に迷惑であると考ええる。 また、音楽系、創作系と言った部活動には、拠点となる居場所が必要。文化系の部活動の居場所を奪って何が文化都市なのか。学生の溜まり場であり、交流の場であるクラブボックスを、外部との行き来が可能なイベントスペースにするなど考えられない。クラブボックス街の存続と商業施設機能を持つアリーナの計画見直しを求める。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立大学に1万人のアリーナとは冗談なのか。一体何を考えているの、と言いたい。府立大学の建物こそボロボロじゃないか。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>府立大学周辺の環境を壊す商業アリーナ建設に反対。</p>	
<p>「⑩誰もが親しみ夢が広がるスポーツ」に「学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます」とあるが、既存の府立施設の充実をはじめ、広域的な分散開催を可能にする予約システムの開発に力を入れるべきで、採算のとれない巨大商業アリーナの建設はむしろ商業的なイベント開催に走り、学生スポーツやアマチュアスポーツの活動を疎外するので反対。</p>	
<p>「⑩誰もが親しみ夢が広がるスポーツ」の「学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます。」について、ここでのアリーナ機能とは商業的な性質が強い施設ということになる。府民が身近にスポーツを感じられる環境はむしろ商業的な方向性ではない体育施設ではないか。ある程度のお金を使わなければ楽しめない施設は一部の人たちのものであり、大勢にとって身近になりようがない。そういう意味で「府民が身近にスポーツを感じられる環境づくり」のために体育館に「アリーナ機能」を持たせるのは趣旨とは真逆の方向性だと思う。アリーナと体育館は分けて存在するべきと考える。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>府立大学に巨大商業アリーナは要らない。</p>	
<p>大学敷地内に多数の一般人が出入りできるような商業アリーナができるのは、防犯の面からとても不安だ。学生たちの安全が確保されるのか疑問。その点についての検討がされていないように見受けられる。</p>	

⑪文化力による未来づくり

スポーツを「する」「みる」「ささえる」機能の充実を進め、府民の夢や感動を創出し、地域が固い絆で結ばれる新たな地域づくりが求められている。スポーツは確かに、健康増進や体力づくり、楽しみに寄与するものではあるが、娯楽の少なかった時代とは変わり、今では決して万人にとってそういった存在ではなくなっている。スポーツに全く興味のない方々も少なくない。府民の夢や感動を、スポーツに結びつけるのはいささか安易なのではないか？地域が固い絆で結ばれる新たな地域づくり、というが、それはそのスポーツが地域の住民にとって愛される存在であることが不可欠であり、愛される条件とは、決してその地域に外から人々を呼び込んでくれるから、というようなことでもない。賑わい、などは一部の商売人の理論にすぎないからである。北山エリアの再開発では、これまで住民とともに歩んできた植物園が、スポーツのために理不尽な開発に晒され、学生は自分たちのものであるはずの体育館を乗っ取られ、脇に追いやられるかのような扱いを受けている。そんなものが地域の絆を得るのか。むしろ、地域の分断を引き起こしつつあるのではないか。地域づくり、というのであれば、よくよく考えることが肝要だ。ただスポーツを持ってきたところで、絆などは生まれない。

もともと、長期にわたり京都府立大学の施設の老朽化を放置して、耐震対策を怠り、大学の研究・教育施設の学内に巨大なアリーナを持ち込む発想そのものが、根本的に誤っていると考ええる。アリーナにおけるスポーツイベント開催時には、数千人規模の人の出入りと、競技は屋内と言え、サポーターやファンが建物廻りに集まり大声や歓声を上げるなどの行動が十分にありうることで、教育・研究環境が悪化し、大学施設には基本的になじまないものと考ええる。大学の体育施設が出发点でありながら、キャンパス・プランとは体育施設が全く切り離されて進められている事も極めて不自然であり、言葉では「大学の学生のための体育施設」としながら、最初から大学の全体の施設計画と“切り離し”て、“別々に計画を進めている”のは、大学・学生本位の施設の方向性を逸脱しており、極めて遺憾と考える。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>築60年にもなる耐震性の劣る老朽校舎が複数残っており、京都府の責任は重い。教育・研究のための安心・安全なキャンパスの1施設である体育館の建設に便乗した形で、プロスポーツや音楽イベント用のアリーナ建設が計画されており、何よりも大学のキャンパスの一部として、学生本位の施設が優先されるべきである。</p>	
<p>京都府立大学内の巨大アリーナ建設に反対。 公立大学内に巨大アリーナを作れば、イベントの度に過度な人手が流入し、キャンパス内の安全が保たれない上、何より優先すべき授業への影響も強く懸念される。また、近隣の住環境にも悪影響があるように思う。何より、学生も住民も望んでいない開発を、府が大学を私物のように扱って進めることに強い嫌悪感を抱く。府立大の体育館は、あくまで大学の体育館として、過不足のない、学生のためになるものを再建してほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p>
<p>京都府立大の新しい体育館が一万人規模の商業アリーナになるという案に反対する。イベントの度に大学校内に不特定多数、しかも最大一万人に上る人が出入りすることは、学生の安全、安心を脅かす。イベントは当日だけでなく、準備期間も必要なことを考えれば、大学内で落ち着いて学ぶ時間すら脅かされる。大学の体育館は誰よりもまず学生の為のものとして、学生、教職員が安心して柔軟に使えるものを用意すべきだ。</p>	<p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>京都府立大のアリーナ建設に反対。</p>	
<p>府立大体育館の商業使用に反対する。不特定多数が出入りすることで勉学の環境が確保できなくなり、大学生が痴漢などの被害に遭う可能性が高い。バスケットボールなどスポーツは西京極や京都駅の近くでやった方が観客の利便性もよく、近くに店がたくさんあるエリアの方が観光との金銭的相乗効果も出る。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>京都府立大の体育館を商業アリーナにしないでほしい。すでに京都市内には、京都市体育館、島津アリーナ(府立体育館)がある。特に島津アリーナは、8,000人以上の客席もあり、市内にこれ以上の大きなアリーナは必要ない。まして学生の利便性を第一に考えるべき大学構内に不特定多数の流入を招く施設はあってはいけないと思う。京都府立大の体育館の商業アリーナ化は絶対反対だ。</p>	
<p>最近の京都の在り方に疑問を感じている。 観光都市京都の側面ばかりに重点を置き、生活者にとって非常に窮屈である。 子育て環境日本一を謳いながら住民サービスは最低。若い世代の他県への流出に歯止めがかからず観光客や金持ちの非日常的な街になっている。京都は庶民の文化が超一流なのである。 北山エリア整備に非常に強く危機感を持っている。有識者会議なるものが開かれても閉鎖的で各施設に関連性がないと言いながら、お互いの施設が影響し合う多大なリスクについては語られず全く意味がないと怒りを感じている。何故、府立大学にスポーツ振興のアリーナなのか。学生の目線に立つべきだ。授業中に奨学金学生の意見や先生達が本音で話せる場を作ってほしい。学部再編は単なる脅しでしかない。1万人どころか5千人規模でも建てるべきではないと思う。アリーナが植物園に及ぼす影響や、周辺の道路状況にもオープンにして、住民の声を聞くべきだ。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>京都府立大に巨大アリーナは要らない。 自然に触れることこそ安らぐ。</p>	
<p>京都府立大学の体育館は、大学の体育館として2000人の大学生に対応する規模で建て直し、商業利用やプロスポーツのために使うアリーナにはしないでほしい。アリーナは大学の構内ではなく、他の場所に建てることにしてほしい。</p>	
<p>京都府立大学内に巨大アリーナを作るという話があると聞いたが、卒業生として静かなこじんまりとしたキャンパスで4年間過ごせたことは、とても良かった。賑わいが必要…という声もあるかもしれないが、賑わいが嫌いな人もいる、ということも考えてほしい。静かな場所は静かなままで。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立大学内には巨大アリーナでなく学生数に見合った体育館を早急に整備してほしい。世界大会など開くアリーナは、別途人口減少地域の活性化と併せて考えてはどうか。</p>	
<p>京都府立大学の敷地の中に、収容人数1万人のアリーナを建設する計画に反対。大学の教育研究に重大な弊害が生じると考えられる。KPMGの「北山エリア整備事業手法等検討業務報告書」を読んだが、47頁にわたる報告書の中で「大学」の文字が使われていたのは、たった1か所(34頁)だけである。大学の教育研究環境への影響を考慮して作成されたものとは、到底思われない。こうした報告書をベースにして事業を進めることは止めてほしい。耐震基準を満たしていない体育館の建て替えを急いでほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p>
<p>京都府立大学の静かで落ち着いた雰囲気、勉強や研究に集中できる環境はぜひ維持してほしい。 不特定多数の方が来るアリーナ・商業施設の併設は、もともとそういう想定で一から計画された大学ならセキュリティもきちんと申し分ないだろう。 のんびりした時代に建てられた旧式のキャンパス・学舎にアリーナ建設は、不向きと考える。</p>	<p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>北山エリア開発について、アリーナを狭い府立大学の真ん中につくるという愚行はやめてほしい。 わずか10ha程度の敷地にこんなものをつくる大学はどこにもない。</p>	
<p>京都府「北山エリア整備基本計画」(2020年12月)には、植物園やシアターコンプレックスと共に府立大学体育館位置にメインアリーナ、サブアリーナが示されているにもかかわらず、「京都府総合計画」改定案(中間案)には、植物園は出てくるが、アリーナ計画が全く示されていないのはなぜか。アリーナ計画は進めながら、目立たぬようにしているのではないか。 もともと、長期にわたり大学の施設の老朽化を放置して、耐震対策を怠り、大学の研究、教育施設の学内に巨大なアリーナを持ち込む発想そのものが、反対である。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>府立大学は、学生の学び舎であり、一万人構想のアリーナは必要ない。学び舎の耐震化、体育館改築が必要であり、アリーナは必要ではない。</p>	

⑪文化力による未来づくり

静かな環境の大学にアリーナを建てないでほしい。アリーナ建設の前に老朽化した他の校舎の改修、建て替えをしてほしい。人の流れを生み出すと言って植物園の色々な方向に出入り口を作るのはやめてほしい。閑静な住宅街に興行施設はいらない。アリーナはどうしても建てたいというならば、バスケ選手や市民よりも府大の大学生の利用を優先させてほしい。アリーナを建てるなら、大学の校舎へのセキュリティを強化し、第三者が無断で侵入できないようにしてほしい。

アリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めることは、スポーツ庁・政府のスポーツ産業化政策に支えられる部分が大いのではないか。一刻も早く、アリーナに相応しい土地を探し、その地域の振興策も併せて検討して行けるように願っている。なぜ、大学の中に検討されねばならないのか？落ち着いた雰囲気の中で将来を考え勉学の時期を過ごし、スポーツは主にクラブ活動の中で主体となって味わう。もちろん授業としてのスポーツは単なる体験ではなく、考察を伴うものである。なぜ府立大学生には非日常のメッカと共生する学生生活が“夢”として検討されることになったのか。一日も早く老朽化した体育館が建て替えられるよう希望する。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。
整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>もともとの府総合計画では、「基本計画」の2「エリア構想」の「③北山「文化と憩い」の交流構想」(48-49頁)において、「府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の共用体育館機能を有したアリーナの整備検討」(48頁)、「主要な取組」として「旧総合資料館跡地活用に伴う新たな文化芸術・交流発信拠点づくり」に並べて「アリーナの検討」(49頁)が掲げられていた。しかし、今回の見直し中間案では、こうした表記は見受けられない。ということは、3年前の府総合計画は「白紙」になったと理解するが、それでよいか。そうでないならば、なぜ3つの大学の「共用(共同)体育館」は今回の見直し中間案から削除されたのか、理由が明らかにされるべきである。今回の見直し中間案において、京都府立大学にかかわる施設整備にかかわっては、「基本計画」の「分野別基本施策」において「17 AIやIoT等を活用した超スマート社会の到来など社会経済情勢の変化を踏まえ、府立大学を「知(地)の拠点」にふさわしい新生府立大学として教育研究環境を更に充実・整備し、地域・産業界と連携して、地方創生を担う人材育成に取り組めます。」(100頁)と記載されているが、ここに大学の体育館の整備は含まれているのか。大学の体育館は学生教育にとって必須の施設であり、課外活動の重要な拠点でもある。もともとの計画に明記されていた内容が、今回の見直し中間案において、不明確な記載になっているのは、位置づけが変更された、後退したからだとしてしか受け取り様がない。耐震基準を満たさない体育館や学舎の整備は、災害のリスクが高まる今、待ったなしの課題であり、府の総合計画を見直すというのであれば、誰の目から見ても明瞭な内容を示すべきである。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>府立医科大学、府立大学、京都工芸繊維大学の共用体育館機能を有したアリーナの整備は不要。各大学それぞれに体育館があるので共同の物を作る必要がない。府立大学の体育館が老朽化しているのなら、学生のための設備を整えるべきである。大規模なアリーナ体育館にする必要もない。近隣の宝ヶ池や島津アリーナ、ハンナリーズの試合が良く行われる西京極の体育館など多数ある他の施設を活用し、それらの地域の活性化、観光客、学生の誘致に生かせばよい。体育館がないところに新しく作るのならば高速道路の京都南インター近隣に宿泊施設も併設した施設を作るのはどうか。高速道路だけでなく、京都市営地下鉄竹田駅からもアクセスが良い。駅前の川も清潔感がなく整備が不十分な印象を受け、全体的に寂しい雰囲気である。竹田駅周辺に施設ができれば地域の活性化につながるのではないか。北山周辺は静かながら整備が十分に行き届いている。これ以上開発して自然をはじめ環境を壊すべきではない。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・府立大学の中に1万人規模のアリーナはいらない。大学独自の体育館を改修してほしい。 ・資料館跡地にホテルは不要。ホテルを建てられない地域にホテル建設などやめてほしい。静かな環境をこわさないでほしい。 ・植物園は、今のままで貴重な樹木や草花を守ってほしい。 	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学生2000人の府立大学に、1万人規模のアリーナは要らない。 ・総合資料館跡地に宿泊施設は不要。もともとホテルは建てられない地域である。行政は規則を守ってほしい。 ・100年にわたって愛されてきた園を今のままで「生きた植物の博物館」である植物園として残してほしい。 	<p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・府立大学の学舎、体育館は、早急に耐震基準に満ちた建物に建て直してほしい。但し、商業施設とか、アリーナは絶対いらない。 ・植物園も今まで通り静かな、学究的な生きた植物の博物館として残してほしい。 ・すでに樹木が切られているが、絶対これ以上樹木を切らないでほしい。 	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・府立大学老朽化で建てかえは必要。特に体育館で、1万人のアリーナ建設と聞いたが学生を中心に、体育授業、活動ができるよう考えてほしい。1万人のアリーナはいらない。 ・植物園は今のままで残してほしい。貴重な樹木、花等守ってほしい。 ・京都らしさを大事に残してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・府立大学の体育館のアリーナ化の反対。理由はイベントがあるごとに騒がしくなり学業に集中できない。不特定多数の人が入り込み、学生の安全が脅かされるからである。 ・世界で一番と言われるほどの府立植物園の商業化反対。特に比叡山の借景が美しいバラ園、外界とを分ける塀や垣根、植物を通して世界一周が楽しめる温室、なからぎの森はそのままに。(傷んだ部分の補修はしてほしい)府民の貴重な憩いの場、老若男女問わずくつろげる場、そして何より貴重な植物の保存育成を長期にわたって続けている環境を奪わないでほしい。 	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・府大は学生の勉強の場所、アリーナはいらない。 ・植物園は市民のいこいの場であるので、にぎわいを求めないでほしい。 ・植物園のバックヤードを充実してほしい。 	
<p>府立植物園整備計画において、体育館機能を有したアリーナは不要。温室で育てている植物達を育ててほしい。植物園という名称を府立植物博物館としてさらに大きく育ててほしいと希望する。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>・府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能承継も踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設(シアターコンプレックス)など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備推進 従来、植物園のにぎわいに向けた構想や府立大学内にアリーナを設けるといった計画があったが、この計画にまったくそのことが出てきていないことに不安を感じる。このエリアは閑静な住宅街が近く、コンサートやプロスポーツの試合が毎週末あるようでは近隣と大学の関係が悪化するのではないかと危惧する。府立大学の老朽化した校舎を早期に建て替えるとともに、1万人の催事兼用アリーナではなく、学生2千人の規模に応じたシンプルな体育館への建て替えとしてほしいし、府大の規模や予算にあった、質実剛健な施設とし、主要ユーザである現役学生や教職員、大学法人の意見をよく聞いて整備に反映してほしい。 府立植物園は植物の博物館として国内外の評価を十分に得ているのだから無理に賑わいを求めるのではなく、現状を活かした形で整備してはどうか。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>
<p>・府立大学に1万人のアリーナはいらない。学生のための体育館を建ててほしい。 ・今のままの静かな植物園でよい。これ以上のイベントはいらない。広く静かな芝生広場を守ってほしい。 ・植物園の貴重な樹木、花を守ってほしい。(商業施設などの為に垣根を切らないで。)</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>学生2,000人の府立大学の体育館のたて直しなのに1万人規模のアリーナなどいらない。学生の意見にしっかり寄り添って欲しい。優先順位が違うし、学校と商業施設を一緒にしないでほしい。 世界的にも有数な生きた植物博物館の府立植物園は自然のままがよい。商業施設などいらない。 大型商業施設、開発など府民の財産の土地やたて物を大きな民間に売り払うような事業ばかりしないで、もっと京都の伝統を生かした地元産業や、中小企業の応援をしてほしい。地方にお金がおちない。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

北山整備計画に絶対反対。

- ・府立大学の体育館を1万人入れるアリーナ計画は中止してほしい。学ぶ大学をプロバスケット、コンサート、MICEに使い、金儲けの場にしないでほしい。
- ・府立植物園のまわりの生け垣をなくして、自由に出入り出来る入口を設けることに反対。温室の中にカフェを作る計画があると聞いた。それも必要ないと思う。イベントができるステージの設置も反対。植物園本来の目的が守れず、今まで職員の方々が守って下さったことが無になると思う。
- ・住民に説明会を再度開いてほしい。計画の詳しい内容を説明してほしい。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>京都市北山エリアの再開発計画そのものに反対。特に、府立大学内に商用アリーナを建設すること、府立植物園の機能の変更や植栽等の変更、強く反対。府立大学は教育・研究機関であり、予算は商用アリーナに使うのではなく、教育・研究に必要な施設の補修や設置、教育・研究活動への支援や強化のために使うべき。府立植物園は現在のかたちと機能がとてもすばらしく、愛している。府民だけでなく、国際的にも評価されている植物園であり、再開発計画と連動した機能や植栽等の変更を検討していること自体に、怒り心頭である。</p> <p>また、これらの京都府の計画について、住民への説明、意見交換、合意形成がほとんど行われていない府行政の姿勢も恥を知れと言いたい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府立大学に商業アリーナは必要ない。既存施設の改築、耐震補強を優先すべきだ。</p> <p>府立植物園に現在以上の賑わいは必要ない。賑やかな地域は京都市内に既にある。この場所は生きた植物とその他の生きものを守る静かな場所で、来園者の憩いの場所だ。京都府が誇る宝であり、現在の方向性そのまま発展させていけば良い。商業化は完全な誤りだ。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>北山エリアに1万人収容できるアリーナ不要。静かな環境を壊さないでほしい。植物園をイベント会場にしないでほしい。府・市民の財産を住民に無断で勝手なこと(企業のために)しないでほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>・府立大学体育館のアリーナ化反対。 アリーナ化により、不特定多数が大学内をうろろうすることになり、大学内の治安、環境が悪化する。防犯の面でも不安。 また、騒がしいイベントにより、静かな環境が破壊され、学業が妨げられる。 ・府立植物園は今あるままに。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>商業目的のアリーナは、府立大学構内には作らないでほしい 府立植物園の博物館的価値を失わせるような、「公園化」はやめてほしい。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立大学に一万人のアリーナはいらない。 植物園を今の形で残してほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>・アリーナの建設絶対反対。 ・植物園100周年、各施設との垣根のない計画絶対反対。 ・総合資料館跡地、シアター等、ホテル、飲食店絶対反対。 ・木を絶対残してほしい。 ・跡地は、レモン林や柚の林にしたら良い。そして京都名物として、レモン狩りやお酢を売ったら良い。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>京都府立大学の新設する体育館にアリーナ機能は不要。他に費用を使うべきところがいくらでもある。</p>	
<p>改定前の京都府総合計画、資料84ページ、10番、誰もが親しみ夢が広がるスポーツには 「4 府立施設の充実をはじめ、広域的利用が見込まれる市町村スポーツ施設の機能高度化への支援とともに、企業・大学のスポーツ施設が一般利用できる取組を進め、府民がスポーツに親しめる環境を充実させます。」と書いてある。 もともと「企業・大学のスポーツ施設が一般利用できる取組を進め」となっていたのがなぜ改定案の基本計画資料61ページでは「アリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます。」に変更になったのか。一般利用できる取組を進める計画だったのがなぜ身近にスポーツを感じられるという方向性変わったのか。アリーナのように高額な建設費がかかる施設では、かえって使用料金が高額になり一般利用者には使いづらくなるのではないか。単純にスポーツ観戦者を増やすことが目的であれば一般利用ではなく企業の商業利用を推進しているだけである。行政として全くふさわしくない計画だ。 「アリーナ機能を備えた体育館」という言葉自体が欺瞞に満ちていて誠実さに欠けている。ここの記述については取り消し改定前の表現に戻すべきだ。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p>
<p>府立大学内の巨大アリーナ建設に反対だ。わずか10年前に府立体育館、現在の島津アリーナを国際大会に耐えうように改修もしたはず。なぜまた、そこから5km程度の距離の場所に巨大アリーナが必要なのかわからない。賑わいが必要というなら、京都府としてはもっと他に改善すべき場所、土地があるはずだ。</p>	
<p>分野別基本施策⑩-7「アリーナ機能を備えた体育館」については、建設予定地すら示されておらず、パブコメの体をなしていない。「書いてあったじゃないですか、どこに作るか知らんけど笑」というのは、手続き上の重大な瑕疵であるのみならず、信義に反し、府民・有権者・納税者をあまりにも馬鹿にしていると思う。具体的な必要性や予定地、その選定の理由、採算性と府民負担の見通しなどが全く示されておらず、総合計画に記載するに足る熟度を有さないので削除すべき。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立大学の体育館は先ず学生の授業・クラブ活動のために使うならば、プロスポーツ、音楽イベント、興行、国際会議、一般への貸出、地域運動会などで利用する余地はない。商業利用、府民のスポーツ振興などに使うアリーナは大学とは別のところに作ることにしてほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>植物園と連動した巨大アリーナ(府立大の巨大な観客席を持つ体育館)建設は必ず京都の負の遺産になるので、学生に必要なサイズで小回りの利くサイズのもので十分だ。商業的にも成立しがたい、莫大な建設費のかかるものは現在予定されている北山地区には不要。計画を中止して、別の場所での建設を再度検討してほしい。自然をないがしろにする京都は観光客からも見捨てられる。</p>	
<p>北山エリア、府立大学の下鴨キャンパス内に、1万人規模と言われる巨大アリーナは不要。2千名ほどの府立大学生が全員入るようなイベントも考えられない中、入学式・卒業式もかつては体育館で、耐震基準を満たさないのが京都コンサートホールに変わったが、1000人のホールを埋め尽くすこともない。この規模の大学の施設としてふさわしいのか。京都府が1万人規模にこだわるといふのであれば、それは大学教育とは関係のないところでの外部からの要望や何かしらの狙いがあるとしたら考えようがない。これだけの規模の施設をつくるにはいったいいくら建設費、運営費がかかるのか。それは大学の負担にはしないという保証は府がしてくれるのか。6年以上赤字を出し続け30億円以上の累積赤字を抱える大学法人が、巨大な体育館、アリーナの運営費用を負担することは不可能かと思う。建設だけでなく、それ以降も含めて、持続可能な計画を明確に総合計画の中で示してほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>①アリーナ機能を備えた、体育館を府立大学の構内に造らなければいけないのか？</p> <p>②すでに京都府立体育館もあり、必要な手を加えたければそれで良いのではないか？</p> <p>③シアターコンプレックスの計画もアリーナ計画も予算等具体的な出処も金額も提示されていない。何を根拠にこの計画がなされているのかも不明。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>
<p>植物園を壊さないでほしい。近くに宝ヶ池運動公園という施設があるのに北山エリアに大きな体育館を建てる意味が分からない。烏丸や北大路にはたくさん商業施設があるのに北山に建てる意味が分からない。開発後に府民が受ける利益(公益)を説明してほしい。大学の建物及び植物園の建物は非常に古い。開発費を新しい建物に建て替えるだけでは何が悪いのか。府民が納得するなら良いのではないか。植物園の長期雇用職員不足と大学の地震に危ない建物の改装が最優先である。技術の伝達が途切れないことと生徒と教員の安全は体育館より優先ではないか。また、来場者数で公益性は計れない。植物園にある植物には価値がある。博物館にある絵画の価値などは多くの人に理解されているが、植物も同じだ。絵画の価値は義務教育で習うが、植物の価値は義務教育で習うことではないので、知らないのは妥当だ。私は植物の研究をしている京大の修士課程の学生である。植物園がたくさんの植物を管理してくれているおかげで、私の研究は助かっている。これも公益性の一つではないか。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>植物園整備計画において体育館機能を直したアリーナは不要だと思う。この財政難の中、現在使用されている島津アリーナ他、体育館が沢山ある中でまた、新たに自然を崩壊してまで体育館を作ることは不要と思う。植物園も府立植物園としてさらに大切に維持してほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>府立大学の敷地にアリーナはいらない。大学の教育の場としての体育館としてのみ、きちんと充実した体育館を建設してほしい。教育の場をイベント会場にしないでほしい。交流のためには現在の府立体育館を使ってほしい。</p> <p>府立植物園は植物園として、もっともっと世界に誇れるような植物園になるようきちんと守り充実させてほしい。垣根がなくなると大変、盗植や交雑などが起こり、貴重な植物の維持ができず植物園ではなくなる。植物園を充実させることが、将来すばらしい観光資源にもなる。</p> <p>文化施設、スポーツ施設を集中させるのではなく、どこに住んでもそれが享受できるように各地域にあるのが子どもたちの未来を創り、世界に羽ばたく人材を創る。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>私は、府立大学の卒業生である。2000人の学生数に、1万人規模の商業アリーナはいらない。それだけでなく狭い敷地なのに、毎週のようにたくさんの方が集まると、学生が安心して落ち着いて学ぶ環境は保てないと思う。大学なのだから、学ぶことが一番である。大学の有効活用としての商業利用はありえない。アリーナを作っても、借金が生まれる計画である。全然サステナブルでもないし、学生に不便を強いてまで、作る価値はない。有効活用をするのなら、地域住民や府民へのオープン利用を検討されてはいかがか。大規模なアリーナを作るより、学生数に見合った耐震性を備えた体育館、校舎の建て替えを要望する。植物園は、あの場所で、生きた植物の博物館としての植物園を残してほしい。京都の植物園が、引き続き文明のバトンタッチの場所として、京都の誇れる大事な文化的な役割を果たし続ける形で発展していくことを望む。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>アリーナは商業施設であり、教育施設である府立大学の学内に、しかも、大学の体育館と併用するのは不適切で、常識はずれで断じて許されない。現在の府立体育館を再整備することを検討すべき。</p> <p>総合資料館跡地の地域は、都市計画法上でホテルの建設は認められていない。街をこわしてしまう暴挙である。計画を見直してほしい。</p> <p>これらの計画には膨大な予算が必要であり、30年間にわたって府民に多額の借金を背負わせるものと聞く。財政難と言われている今、やるべきことなのか。ただちに中止してほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・アリーナは商業施設であり、教育施設である府立大学の学内に、しかも大学の、体育館につくるのは不適切で府が考える計画とは思えない。現在の府立体育館は整備してほしい。 ・外国の歴史ある都市には、国公立の立派な植物園がある。貴重な植物園の樹木、草花を今のまま大切にしてほしい。 ・総合資料館跡地は都市計画法上でホテルの建設は認められていない。京都をこわさないでほしい。また、30年間にわたる多額の借金は府民はお断りである。 	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>旧ハンナリーズアリーナの観客席数がB1基準を満たさないので、B1ライセンス維持のため、府立大学体育館をアリーナとして建て替える。しかしこのアリーナ単体では赤字経営が予想されるため、隣接する府立植物園を解体し商業施設化して損失を補填する。これが北山エリア整備計画の本質である。都市部の貴重な静謐の場である植物園や、学生の教育環境、そして近隣の住環境を破壊してまで便宜を図るようでは、多くの府民はハンナリーズを応援できないし、またハンナリーズの今後の発展にとっても、府民の反発は足かせとなってしまいうだろう。ゆえに、現在の北山エリア整備計画を、撤回することを求める。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>北山開発アリーナは北山地区には要らない。府立植物園はそのまま貴重な自然の宝庫のままで改築しないでほしい。大学の既存建物の耐震補強や既存施設を大切に修復して使ってほしい。地下鉄の東山線か、竹田辺りの赤字路線にハンナリーズ拠点体育館は作ってはどうか。あと地下鉄には、改札口近くにトイレ新築が必要だとも思う。あまりに遠い所も多く、公園もトイレが無いところが増えて不便である。小さな改善や新築で市民、府民に使いやすい公共施設にしてほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>学舎については、学部・学科再編に対応した整備を進めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリア整備について。京都府立大学の体育館は、ただ改修するだけでなく、ハンナリーズが利用するアリーナとして建て替えられる計画があると聞いた。税金の無駄遣いなのでやめてほしい。また、それに伴って、府立植物園の生態系も破壊される可能性があると感じた。なおさら、反対だ。府立大学の体育館は学生だけが利用する体育館として建て替えてほしい。植物園への影響がまったくないように建て替えてほしい。</p>	<p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>府立大学の体育館の建て直しが必要なのに学生数2000人の府立大学に1万人規模の商業アリーナはいらない。日本でも有数の植物研究育成で知られている「府立植物園」を「生きた植物の博物館」として、今のままで、残してほしい。</p> <p>30年にわたって多額の借金を府民に押しつける無駄な支出はしないでほしい。</p>	
<p>府立大学に1万人規模のアリーナは要らない。財政的にも府民に多大な犠牲を強いるものである。植物園が、アリーナに来る人々のために削られる可能性もある。また、これ以上のホテルも必要ない。北山エリアを賑わいの場にする事に反対。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら、検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの整備に期待している。 現在の植物園は桜などの季節は多くの方が訪れるようだが、若者は行ったことがない人も多い。 もう少しで100周年を迎えるとのことなので、将来を見据え、子育て世代に魅力的な施設を造ったり、イベントをしたりしてほしい。 文化庁移転もあるので、資料館跡地は京都の文化がここで創出されるような文化施設を造ってほしい。 大学の体育館はせっかく建て替えるのであれば、大規模なスポーツ大会やコンサートもできるようになるとよい。</p>	
<p>北山地域が明るく活性化するのが楽しみである。府民のみんなが楽しめる場所となるよう計画をしっかりと押し進めてほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p>
<p>植物園をはじめ北山エリアの整備は、特に子供たちや子育て世代の意見を聞いて、未来につながる整備をしてほしい。</p>	
<p>植物園や加茂川など緑豊かな環境のもとで、休日はよく子どもとサイクリングなどを通じて楽しんでいる。今度の北山エリアの整備では子どもたちが一層ワクワクするようなものを期待している。</p>	
<p>北山にアリーナは要らない。唯一無二の植物園に手を入れないでほしい。コンサートホールの補修をしてほしい。大学生が有意義に過ごせる環境を与えてほしい。</p>	
<p>北山エリアの開発について、植物園の乱開発はしないでほしい。府大キャンパス内に1万人アリーナはいらない。もっとつっこんで議論してほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p>
<p>府立植物園・府立大学・旧総合資料館跡地を含むこの地域が商業アリーナ、宿泊施設に変わることはとても見過ごすことができない。 若い世代に学問を深めるための静かな環境、貴重な植物を維持してくれている植物園(公園としてではなく)を遺していきたいと強く願っている。</p>	<p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<ul style="list-style-type: none"> ・植物園は、できるだけ現状のままに残してほしい。 ・府立大学は古い建物施設の改善は必要だが、1万人規模のアリーナは不要。京都府内にはいくつも他にある。 ・京都ブランドをいくつも傷つけることになると思う。 	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>北山の活性化には、古くなった植物園や府大などのリニューアルは必要。</p>	
<p>北山エリアは、次の時代を担う子どもたちのために変化し続けることと、守り続けることをしっかり見据えて整備してほしい。</p>	
<p>北山エリアについて、情報の公開と一般住民との話し合いが少なすぎる。京都府知事の姿勢に誠実さが全く感じられない。もっとまじめにやってほしい。</p>	
<p>貴重な植物園の樹木や草花を守ってほしい。 北山エリアの整備基本計画は抜本的に見なおしてほしい。 府立大学内にアリーナをつくるのは絶対にやめてほしい。</p>	
<p>比叡山を借景とした高層ビルなどが無い風景が、京都の町の誇りだ。借景を壊す1万人規模のアリーナはいらない。そして借景として、北山エリアのまとまった貴重な樹木を守ってほしい。憩いの場所でもある植物園を公園ではなく、生きた植物の博物館として残し、拡充に努めるべき。 もともとホテルは建てられない地域だが、もうこれ以上宿泊施設は不要。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>日常の喧騒から離れて植物園界隈で心を豊かにする日々。遠くへ旅行をすることもなく、十分に京都の自然を楽しめる場。樹木、花々、そこに集まってくる蝶や虫たちと会える、植物園はそんな大切な場所として存在している。植物園では大芝生で小さな子や園児が走り回っている。思い切り走っても危険がなく、家族は近くで見守っている。四季折々の花々を眺める人たち、あちこちでスケッチをしている人も、若者が車座になって話している姿、ベンチで歓談している人たちがいる。</p> <p>自然を求めて出かけられる植物園があることが健康の源となっている。府立資料館や府立大学体育館のアリーナ構想などの再整備計画には、京都府として本気で府民の宝としてこの地域を考えているとは思えない。京都が京都らしくあること、北山再整備計画の白紙撤回を求める。</p>	<p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。</p> <p>併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行うものとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>
<p>北山エリアの再開発、とりわけ植物園本来の役割に反するような開発(にぎわい創出)およびアリーナの建設に反対する。住民不在の開発はらない。</p>	
<p>京都市景観計画を見て、さすが京都市！と友人にも自慢してたのに、景観計画にある風致地区を無視する形での北山エリア整備計画に驚きと、それらの計画の主導者に対し不信感と嫌悪感しかない。北山エリア整備計画に断固反対。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府立植物園において商業施設の計画が進んでいるがそれで貴重な植物に悪い影響が出るのは避けられない。地面が踏み固められ、照明によって植物の生態にも良くないことが専門家から報告されている。このような計画を強引に押し進める方針に強く反対する。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園を変えることは絶対反対。植物園は貴重な木や花などの宝庫である。誰でも通れる公園にしないでゆっくり楽しめる場所として残してほしい。一万人規模のアリーナや宿泊施設を建てるのも反対。</p>	
<p>地元住民のパブリックコメントの提出について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アリーナの整備検討 2. 府立植物園100周年構想と整備 3. 旧総合資料館跡地の活用整備 <p><基本的考え方></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人を多く集めることによる、にぎわいと経済効果をねらった従来型で集客型地域振興計画は、私たち府民の文化的で地域の美しい自然環境を守り育てる価値観と共有できない。また、地域住民の生活の質の低下につながる将来的損失は大きいと思う。 <p><その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 地域振興計画などの推進は利害関係者との交渉だけでなく、これからの施策の推進には地域住民(府民)と度重ねた”対話”により、住民の利益を最優先としてほしい。 	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能承継も踏まえ～(略)」とあるが、老朽施設については必要な改修を行うとともに、人口減社会を見据えてソフトや将来を担う人材育成にこそより力を入れるべき。</p>	
<p>植物園を縮小しないでほしい。 アリーナはいらない。 コンサートホールで充分満足している。劇場はロームシアターまで行く。</p>	
<p>府立植物園を商業化しないでほしい。 1万人のアリーナを作ったり、出入り口を増やし、あちこちから出入りできるようにしたりするのはやめてほしい。貴重な、多数の植物を生かし育てる、みんなに愛される植物園を壊さないでほしい。</p>	
<p>北山エリアの景観汚損や植物園のある環境の破壊は止めてほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>今回の「京都府総合計画」改定案では、2019年10月の「京都府総合計画」における「エリア構想」の一つ「北山『文化と憩い』の交流構想」や2020年12月の「北山エリア整備基本計画」などとの関連がわかりにくい内容になっている。このこと自体、北山エリア開発に対する多くの市民・府民の批判をかわすための恣意的な措置であると考えざるを得ない。しかし、全体としてバラけてはいるが「基本計画」の15ページに「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能承継も踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設(シアターコンプレックス)など、旧総合資料館跡地、植物園などの整備推進、23ページに北山エリア、京都文化博物館、府立郷土資料館等を結んだ新たな文化・交流拠点づくりとネットワーク化、61ページに学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます」の記載があり、さらに「地域振興計画」の36ページに北山エリアの整備、大学連携等による他地域との人流促進なる記述がある。</p>	
<p>・パブリックコメントは形式だけではないのか。府は、「総合計画」(中間案)は、もうすでに府内ではこっそり決定済みではないのか。やめてほしい。 ・地域に100年以上住んでいる住民としては、1万人以上押し寄せる商業施設やホテル等はずくらないでほしい。緑豊かな下鴨は京都市の誇りだ。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>今や先進国と言われる国々は地球温暖化や生物多様性に向き合って、自然を守り、緑を増やす政策へと舵をきろうとしている。 それとは対照的に日本は緑を壊して開発を続けていて、なんだか後進国のような印象だ。 京都から、日本は古き良きものを残しつつ、持続可能な社会に向けて取り組む姿勢を見るべきではないか。世界に誇れる植物園や景観を大切にしたい。植物園は植物園としての機能を発展させつつ、府大の体育館はアリーナではなく、学生専用の体育館として耐震工事してほしい。</p>	
<p>北山整備に関して、北山も岩倉も含めて本屋がなく文化の地に全くふさわしくない。世界的にも貴重な種を多く擁する植物園は、商業施設を建てることなく今のまま緑豊かな静かなエリアとして残し、隣接の旧資料館に大きい書店と個人書店を入れ、内装をジャングルの的にして植物の本を特徴的に扱い、緑のワンダーランドみたいな知的エリアにしてほしい。植物に関するワークショップも書店と共同して開くことでますます知のイメージを高めることができる。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの件について府のホームページだけでなく、SNSで逐一発信すべき。北山エリアの開発に関して、多様性を作ると説明会の冊子には書いてあるが、現在の多様性を壊して作る新しい多様性とはなんなのか。ハコモノの開発でなく、今は教育、福祉、土木とバランスよく地道に投資していかなければいけない時代だと思う。</p>	
<p>北山エリア開発は撤回・凍結してほしい。府立大学体育館は教学と学生の部活動にふさわしい規模に立て直してほしい。アリーナ建設は不要。府立植物園は植物の博物館として今のまま充実してほしい。商業化やに賑わい施設は不要。この地域は静かな環境の保障されるべき住宅地域である。条例を変えてまで開発をしないでほしい。府立文化芸術会館は今の場所での充実を望む。</p>	
<p>京都らしさを生かす政策を期待する。 北山エリアの開発は見直してほしい。生きた植物の博物館としての府立植物園を守る計画としてほしい。また、府立大学に1万人収容の商業アリーナを建てることはやめてほしい。学生や近隣住民にとって迷惑。 産業政策としては、観光関連産業だけに頼るのではなく、京都の伝統を生かした高度な製造業や、大学や医療を生かす文化情報・サービス産業に力を入れてほしい。京都の各都市内に高層建築を建てることを認めると、景観が台無しになり、観光産業もダメになる。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>「北山エリア整備基本計画」に関して、これまでの経過を見ていると、議論はもとより情報開示が甚だ不足しているように感じる。意を尽くさず、民主的プロセスを経ずの強行をすれば、現代世代だけでなく、将来にも大きな禍根をもたらすことは間違いない。京都府の見識と良識が問われている重要な局面である、と思う。 抜本的な見直しを含めた方向転換は今からでも可能ではないか。</p>	
<p>現改定案に反対。地域の人を使いやすい、地域に根差した植物園と大学こそが本当に必要とされている文化だと思う。その価値を高め、あるいはアピールして人が集まることを目指すべきで、人を集めるための施設先行のものを文化と呼ぶべきではないと思う。今のままにするべきだと思う。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリア整備について、北山と名前がついているが、実際には北大路駅前にも大きく影響を及ぼすと想像される。北大路駅周辺は、この数年の間で学校や学習塾など教育関連施設も増え、学術教育的なエリアになっており、ホテルやアリーナやイベント会場の建設による賑わいの創出は、安心して安全な教育環境の崩壊にもつながる。教育関連施設向けの説明会も開催されておらず、大変不安を覚える。北山エリア整備は、一旦、白紙に戻してほしい。</p>	
<p>府民だより10月号にお知らせが載っていなかったのも、パブリックコメントが実施されていることを知人から聞いて驚いた。北山エリア整備は、たびたびチラシが入るが、白黒はっきりしない内容で、なにを実施するのかしないのか、中身が全くわからない。パブコメも秘密裏に行われているようで、不信感しかない。このパブコメ用の中間案も、北山エリア整備や植物園や体育館の話がバラバラに書かれていて、どの箇所にチェックを入れたらいいのか全く分からなかった。計画の初期段階からやり直してほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>「北山エリア」の名称と「アリーナ機能をもったスポーツ施設」とが別々の箇所に現れており、実際は府立大学構内にアリーナを作る計画が進行しているそうだが、アリーナの立地条件として本当にそこがふさわしいのかどうか、府立大学も植物園も、アリーナもが「共倒れ」になりはしないか、心配。メリットもデメリットも堂々と情報開示し、地域、府民の合意を形成するという姿勢を示さないと、地方自治が育たないと思う。公と民との協力はコロナ後の世界でとても大事である。しかし、「民」は一部民間資本の「民」ではなく、民衆の民であり、民草の民である。そういう本来の地方自治の精神を高く掲げた将来構想、基本計画を切に望む。</p>	

⑪文化力による未来づくり

文化スポーツ広域連携プロジェクト「北山エリア、京都文化博物館、府立郷土資料館等を結んだ新たな

文化・交流拠点づくりとネットワーク化」について、

1. まず視点を広げてみる必要があると考える。現在この計画で想定されている範囲を広げてはどうか。
 2. 五山の送り火の妙・法を管理している松ヶ崎地区、そして、下鴨・上賀茂神社、鴨川、これらには歴史がある。これらそれぞれが持つ歴史をご存知か。伝え発展させていく必要がある。
 3. 府立大、工芸繊維大、大谷大、京産大、精華大(京都大学まで広げてもいい)などまで視野に入れると、学術文化拠点となる。学生がこの町で育ち、この町も育つことになる。学生の知恵を生かす方法を考えるのはどうか。
 4. 植物園は貴重な植物資源としてより広げ、自然保護に取り組む必要がある。
 5. それに加え、神社、さらに大学と地域のつながりをボランティアコミュニティで新たな地域文化を作り上げていくことも重要ではないか。建築物などは不要。むしろ、今の植物園もこの地域の1つとしてより魅力的なものにするために、地域住民、学生の知恵、歴史を活かすべきではないかと考える。
- 最後に、北山エリアと小さく区切らず、左京区の北の地域が持っている魅力をそれぞれ活かす視点を持つ必要がある。京都市の北にあるこの地域の歴史、魅力は今でもほそほそながら受け継がれている。それを途絶えさせてはいけない。
- 京都に観光に来る人は、決して、京都の神社や寺だけを魅力としてやってくるのではない。決して華やかではないが受け継がれてきた歴史、文化をぜひ大事に育てより多くの人に知ってもらい、そのような発信の仕方をすべきではないかと考える。そのためには、受け継いでいく人々、コミュニティを育てていくことも重要である。今ある自然と人を魅力とするエリアを作っていくべきだと考える。子孫に残すのは建物ではないはず。アリーナなどはここにふさわしいか。この土地を知らない人が計画を立てても根付かないし、外から来る人も、京都の北山にそのようなものを求めていない。開発ではない発展の仕方を考えるべき。このエリアにおいてはこの自然をどう残すかが子孫への遺産である。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>植物園を今のままで継続してほしい。今の植物園は安心して小さい子どもたちがお花を見たり遊んだりできる。アリーナができればと人の行き来が増え治安面でも心配。ましてや、公園にしてしまうと尚不安が強くなる。ホテルの建設はもう沢山。植物園は貴重な植物を守る砦。垣根がなくなるとお花や木が守られるか心配。本当に荒れてしまう。静かな植物園であり続けて欲しい。植物園は私たちが癒やしてくれる。</p>	
<p>京都府植物園の現状の姿を守ってほしい。 研究施設の縮小に反対。 アリーナは不要。</p>	
<p>植物園は手を付けなくて、そのままを維持する。 それこそが世界に誇れる唯一の植物園になり、ひいては京都の価値を上げる。北山に賑わいは要らない。高級住宅街に落ち着いたここだけのラグジュアリーを演出すべき。憧れの地であることと賑わいの雑多な場所は違う。</p>	
<p>北山エリアの地域は風致地区であり、土地用途規制でも元々宿泊施設や競技場は建てられない地区であるのに、この地域にホテルやアリーナを作ろうとしている開発は許されるものではない。周辺の住民も業者も土地利用の規制を守って環境を守っているのに、京都府自体が規制を破る計画を立てるとはありえないことである。北山エリア整備基本計画は白紙に戻してほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府立大学も、府立植物園も、イベントスペースとして使用するのをおかしい。 既存の環境を保全しなければいけない。</p>	
<p>府立大学構内での商業アリーナ建設と、それにとまなう府立植物園の商業目的の公園化に反対。</p>	
<p>植物園や北山開発に反対。 植物園をこれまで通りに残してほしい。 公園化すると貴重な植物も、これまでの研究成果も、今後の種の保存にも悪影響である。府立大のアリーナ計画も、大学という学びと研究の場にはそぐわない。</p>	
<p>中間案なるもの、「誰が何をしようとしているのか」全く理解不能。北山エリアの再開発は不要。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの文化と憩いの交流構想について、総合計画概要版のP21に記載されているように、文化と憩いの交流であれば望ましいこと。この地域は鴨川沿いに上賀茂神社、植物園、下鴨神社があり憩いを求める都市住民にとってかけがえないの地域である。国際交流も大切だが、若い選手たちが飲食しながら鴨川沿いを歩き、鴨川沿いの土産物店を物色する光景にはしてほしいと思う。同様に植物園内の野外会場での若者の賑やかなコンサートはこの地域で培われてきた雰囲気著しく損なうと思う。下鴨神社、上賀茂神社の中間地域であるこのエリアにホテルを建てて、商業的観光地とすることは反対。(ホテルが建つ場合でも国際会館付近に見受けられる落ち着きを保ってほしい)</p>	
<p>⑦京都府南部イノベーションベルト 広域連携プロジェクト「北山エリアの整備、大学・連携等による他地域との人流促進」中、「人流促進」に関し、「北山エリアの整備」と「人流促進」の関連性について、具体策(案)の概要を説明してほしい。 背景・理由:SDGsの観点から持続する可能性がどうかを妥当性を求めてお尋ねしている。(他の「ゾーン」こそ人流促進が必要と思慮する)</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>植物園は、全国でもまれな多様な植物を自然のままに残すことを前提に整備してほしいと思う。 整備というなら、近辺の施設の老朽化を防止するか、前にあった資料館を近隣住民や府民の趣味や貸教室として、改装するべきだと思う。現在府内(市内)には気軽に集まれる場所が少なく、しかも利用料は高いと思う。持続可能な京都、住民にとって住みやすい町にする上でも、忘れてはならないと思う。</p>	
<p>北山エリア整備について、日本中の都市観光構想と同じような発想で新しいイメージがしない。京都には1000年の昔から引き継がれた伝統があり、静かで癒やされる自然を取り入れた町のはず。箱物は維持に苦勞するのは見えており、アリーナは不要。自慢できる植物園を守りたい。北山エリアは賑やかでないのが取り柄。見方を変えてほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

21世紀の都市計画は「箱もの」ではなく、行政にしか出来ない大きな整理(換地)や目に見えない減築、そして世代を超えて愛されてきた山並みと鴨川の風景をそのまま豊かさとして次世代へ継承する、といった本当の意味での「価値の創造」をお願いする。特に北山エリアについて、現代建築ではなく解体保存された木造建築を利用して、自然とともにある京都の文化の継承・学習の場とすれば良いと思う。京都の都市構造や文化、そのものが世界に冠たるアートである。

今回の改定案(中間案)では、前回案の基本計画にあった”北山「文化と憩い」の交流”の項が消え、漠然とした言及にとどまっている。令和2年12月発表の「北山エリア整備基本計画」は白紙に戻されると、はっきり言明されるのなら大いに歓迎する。

府立植物園はこのエリアの整備を考える際の最重点要素として、その佇まい、背景にある比叡山、北山等の山々、西の半木の道枝垂れ桜のトンネル、加茂川の流れをそっくり100年後に引き継ぎ、より多くの人々の財産となり得るものだと思われる。目先の利益に押されて、園内に人流の為の通路や、正門の奥にひろびろと広がっている空間を遮る建物等を建てては台なしである。枝垂れ桜の並木も先人の努力、毎年の手入れあってこそあのようにすばらしいのである。

改定案と現行計画の関係が不明である。

現行計画(エリア構想)にある北山「文化と憩い」の交流構想については、宿泊施設、アリーナ整備などが明記されており、前知事時代からの北山文化環境ゾーンの整備方針や現行の京都市の都市計画からは逸脱するもので、はっきりとした見直しが必要と考える。この交流構想は、地域住民や学生・教職員、利用者に本来行われるべき説明や意見聴取が行われておらず、行政手続き的にも住民参加・参画が求められる近年の流れからも言っても瑕疵があると考える。

イベントありき、商用利用ありきの構想に反対する。自然環境の整備や保全是重要だが、その価値を高めるのは短絡的な商業的利益の追求のみではない。府立植物園のように、現状、稀有な自然環境の保全に努めている施設を、無駄に破壊する計画を中止してほしい。

イベント誘致や文化庁移転に総合計画等、再計画を求め、その際に、もっと市民や府民の声を、専門家の学術的意見を聞いてほしい。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>京都府総合計画では、「共生による環境先進地・京都の実現」で生物多様性の保全と継承、自然環境の保全と創出をうたっているが、府立植物園と府立大学、北山エリアの開発で一帯の樹木が伐採されたり植物園の絶滅危惧種や多品種の植物が絶やされたり、自然環境が壊されることは、この目標とは相反するものである。北山エリア整備基本計画は白紙に戻してもらいたい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p>
<p>府立植物園・府立大学及び北山エリア再開発計画を、白紙にしてほしい。特に植物園は、賑わいではなく「癒し」または「安らぎ」の施設である。そんな貴重な場所を、正反対の騒がしくうるさい場所に変えられてしまうのは怒りしかない。遠来者がどれだけ訪れるか分からない、いつなくなってしまうか分からないBリーグチームの本拠地よりも大切なのは、100年近く守られてきた植物園である。</p>	<p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>北山エリア整備計画について、整備する地域は北山界隈であっても、実行している事は全府民、京都市民全体にも関わる内容にも関わらず、周辺地区のみに「お知らせ」配布はおかしい。ただちに全府に開かれた説明会を開いてほしい。「植物園は垣根がすべて取り払われて、どこからでも入れる公園になる」と誰も言っていない質問をして、なりませんよと答えさせる(チラシ1号)はやめてほしい。すべてでなくとも取り払うことは計画図面で明らかである。植物園の垣根は区界のためにあるのではなく、外来植物や動物の侵入を防いでいる。特に外来種の宝庫ともいえる賀茂川と府立大アリーナへの通路などもってのほか。にぎわいをもたらすために園内にいくつかのショップやカフェをつくる事はすでに言われている。チラシ1号では複合的な機能を持ったなどとぼかしているが、にぎわいは園外の北山通りのレストラン、カフェなどにまかせて地域を潤わせてほしい。府立大学は学生の研究と教育の場である。三大学を合わせても1万人規模のアリーナはいらない。このアリーナを民間に開放して、プロの大会などで数千～1万人の観客などが植物園を通り抜け学内を歩き回られては研究・教育の落ち着いた雰囲気をこわし、障害となる。またそのために植物園への影響も大きい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>わざわざ100年の歴史を持つ府立植物園を潰して、集客施設やアリーナを静観な北山に作るのは愚の骨頂。地下鉄京都駅以降の南部の赤字枠や東西線の赤字駅に集客ゾーンをそのまま移設すれば良い。バイパス道路や整備も兼ねて既存の駅施設を整備しなくてはならないのではないか。インバウンドより、国内観光客を大切にすべき。</p>	
<p>計画に含まれている北山エリアは、大学、コンサートホールを含む静かな文化的な環境であり、にぎわいは少ない。人口も減少していく日本で人を集めることばかり考えるのは、もうやめないか。静かだけれど、心が疲れたとき、ほっとできる空間、大切な子供たちが、のびのび走り回れる広場、キラキラしていないけど、趣味のいい、空間を計画のコンセプトに加えてほしい。政府から全地域に”にぎわいを！”などといって助成金をばらまくのはもうやめてほしい。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の貴重な樹木、草花は「生きた博物館」と言われており、一部垣根がとり払われると、植物にとって環境変化が起き、ダメージにつながる。今のままの保存と、今迄の活用を拡大してほしい。 ・なぜ今、1万人アリーナなのか。どうして北山なのかわからない。アリーナは維持費も高くつくといわれていて、そんなムダ使いはやめてほしい。 ・宿泊施設は市内にもう沢山ある。イベント中心の街づくりでなく、そこに暮らす市民の利便を図ってほしい。 	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>貴重な植物園の樹木・草花を守ってほしい。 借金をして商業アリーナは不要。 静かな勉強環境を守ってほしい。</p>	

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの開発案に強く反対。 まず、知事選の時には、全く争点としなかった、むしろ隠していたこの計画をい の一番に着手することに抗議する。なぜそんなに重要な政策なら、知事選の 争点にしなかったのか。政治不信になるようなことはやめてもらいたい。 誰のための計画なのか。府民には何のメリットもない計画を無理やり進めるこ とに怒りしかない。アリーナは、府立大学の学生のためにはならない、植物園 の公園化は府民・研究者・観光客のためにならない、おまけに維持費の赤字 補填に府民の税金が使われようとしている、府民のメリットは何か。そんな無 駄なところに税金を使うなら、コロナ禍で生活が大変になっている府民に使う べきだ。アリーナは、府立大学の学長が必要ないと言っている・植物園の元園 長たちは、植物園の公園化に反対している・全国から15万近い反対署名が集 まっている。これらの声をもっとしっかり聞くべきだ。北山エリアの再開発は、絶 対許されない。断固反対。</p>	
<p>北山エリア整備計画の白紙撤回を求める。歴史があり、日本で1番多くの植物 種を保有する植物園の環境を大きく変えるアリーナ建設や商業施設誘致は大 反対。それに税金が使われるのも納得いかない。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじ め、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア 全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にし たいと考えております。</p>
<p>この地域に大規模アリーナや宿泊施設は必要ない。不要な支出はしないでほ しい。今ある植物園をそのまま残してほしい。一度つくってしまったら、必ず維 持費がかかる。税金を充てるなどもってのほか。計画を取りやめてほしい。</p>	<p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられ る事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応 じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>北山エリア総合計画について白紙撤回を求める。 企業の側に立った計画ではなく、市民府民の生活に目を向けた政策をすす めてほしい。日々の生活がますます苦しくなる一方である。大型開発より市民の 命と生活を守る府政を望む。</p>	
<p>開発に使うお金はどこから出すのか。 府民や市民に説明のない開発は許せない。 北山エリア整備計画の白紙撤回を願う。</p>	

⑪文化力による未来づくり

府立植物園について、とにかく計画の内容が不透明で、このまま計画を推進されることには反対。まずは計画内容の現状を白紙に戻してほしい。現状では、一部の近隣自治会だけにお知らせが届いたらしいが、白紙撤回の後の再計画に際しては、最初から全府民に計画内容を周知してほしい。また、仮に商業化が計画の一つとしてあがるのなら、幾らの予算でホテルやレストランが建設され、何本の木が伐採されるのか明示してほしい。府立植物園は100年間、京都府民の税金を主な財源として運営されてきた施設である。府民への周知なしに計画を推進することは許されない。

気候変動対策に樹木をたくわえた緑地が必要。巨大な建物を建てて、エネルギーを更に消費するのは、気候変動を促進することになる。また、開発に必要な巨額の資金や施設を維持、管理するために赤字が予想されていることも、次世代の人達への負の遺産になる。
旧総合資料館跡地は、今の植物園のように、緑豊かな場所にするのが良い。不要な開発、建物に資金を使うより、医療費軽減、給食費の軽減、災害対策など、府民の生活を少しでも良くするために、私達の税金を使ってほしい。

北山の植物園および周辺地域の開発計画には反対。
少子化社会で 新たな体育館や娯楽施設が必要(地域の活性化につながる)とは思えないし、地域の環境破壊・悪化を招くだけのように思える。
その為の予算はむしろ市内の交通問題の解消や 図書館の蔵書の充実、その他福祉サービスの改善等に充ててほしい。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。
整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>賀茂川が流れる自然、豊かな地域であり、植物園も徒歩圏内にあるので高齢者にとっても子供達にとっても最高の環境と思う。 この北山エリアに商業施設等が計画されていると聞き、とんでもない事と心配している。撤回してほしい。</p>	
<p>京都府の様々な計画の進め方について、住民に十分に知らせず、意見もきちんと聞こうとしないやり方に反対である。 とりわけ今、問題になっている北山エリア、植物園の計画には多くの署名や意見が寄せられているにも関わらず、強行しようとするのは行政のやることではない。府の財産はどこかの企業のもうけのためにあるのではなく、府民のためのものである。学生数が2000人の大学に1万人も入る商業アリーナはいらない。植物園はにぎわいを楽しむところではない。子どもも高齢者ものんびりくつろげ植物に親しむところである。勝手にしないでほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>アリーナや植物園や賑わい交流機能について、府民だよりに全部書いていたのか。府民だよりによって知ることのなかったのは当方の過失といえるが、毎日多難多忙の生活を送る市民向けには、賛否の分かれそうな問題性のある事柄については、それとしてしっかり問いかけていただきたいと思う。市民(住民)が多難多忙で余裕のないのをいいことに、スイスイと事を運び、失敗したら責任をとらない世の風潮に、府まで同じことをしないでほしい。</p>	
<p>植物園周辺の開発について。特に府民からあるいは大学からの要請もない上に、予算不足だと散々言っている中で、なぜ今そんな開発に貴重な予算を注ぐ必要があるのか、まったく理解ができない。民主主義をないがしろにする府のやり方は一府民として受け入れられない。お金をかける優先順位が全く逆だ。まずは当然生存権にかかわる医療、教育、福祉から。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>北山エリアの整備にあたっては、景観を壊さないようにしてほしい。植物園敷地内から比叡山、北山連山、鴨川に向かっての景観は人工建造物がどこにも見えず、自然の空間が広がっていることは一度壊すと取り返しのできない絶景である。例えば、バラ園・沈床花壇越しに見る比叡山、大芝生地から見る比叡山、正門から奥に向かって広がる北山の山並み、鴨川の西岸からなからぎの森の鬱蒼とした緑とその奥に見える比叡山など、どれも府民が慣れ親しんできた緑あふれる景色である。これらを壊すような巨大アリーナや商業施設、ホテル、植物園の大屋根、芝生地のステージなどの箱ものを作らないでほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>府の財政は逼迫しているのに、30年間の府の借金で650億円とも言われる箱ものを建て、建設後の運営も民間の儲けのままに提供し、儲けがなくなればさらに府の負担になるような事業を計画する北山エリアの開発はすぐに中止してほしい。また、計画の詳細についても経費についても未だに府民全体に説明をせず、一部の者にだけ間違っただけ情報を流してまわっている府の姿勢は誠実性に欠ける。北山エリア整備基本計画は白紙に戻してほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>京都府立大学アリーナ構想、植物園区域での商業化に反対。メリットの試算が概算過ぎてあまりに杜撰な印象。一部の府民しか恩恵を受けない施設への将来的な税金についてもあまりにも見通しが経っていない。この程度の計画で府立植物園の商業化を良しとする知事や園長の判断が酷い。施設の利権に関係する人だけを多く取り込んだ有識者組織にも閉鎖的な府政が市民の声を聞かずに見えない所で進めようとしていると感じる。府知事選で知事は本件を意図的に論点から外したのでは？後になって優先的に取り組むとの発言にも愕然とした。賛成派と反対派を同程度取り込んだ有識者会議でのしっかりと議論を求める。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>今の静かなゆったりとした植物園が大好き。貴重な樹木は切ってしまったら二度と戻らない。残してほしい。「シアターコンプレックスとともにコンベンション宿泊飲食やイベントの開催・・・」と考えておられるようですが、府民はそれを望んでいるのか？この計画に関連して府立文芸会館の廃止なども言われているが、大勢の人の集まるイベントの場所、観光客ばかりに頼って建てるホテル・・・私たちが望むのはそういう派手なものではない。一人一人が日々楽しんで研鑽したものを発表したり、交流したりする場所の方が必要。ほんとうの「文化」とはそういうものではないか？文化庁がくればよいというものではないと思う。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>北山エリア整備事業手法等検討業務報告書(2022年1月31日)によればメインアリーナ シアターコンプレックス 観覧温室 いずれも赤字が見込まれている。このエリアは国際MICE促進との目的が記載されている。 ところで観光庁ホームページ「MICEの誘致 開催の推進」ではMICEの意義や推進理由として「観光立国」、「国と都市の経済戦略・競争力の向上」が掲げられている。 国際交流は有意義なことだが借金が増え続ける計画案はMICEの意義にも反するように思われる。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>植物園は公園ではない。今のままで残してほしい。 アリーナの必要性が全くわからない。 旧総合資料館跡地には宿泊施設は必要ない。 全体的に無駄な支出のような気がする。見直してほしい。</p>	
<p>楽しみは月何度か入園する植物園。夏は木陰を求め、秋は日の光に映える植物に癒やされ、ベンチでうっとり時間を過ごす。こんな天国が京都にある。四条・三条と同じように北山を変えようという構想は年寄りの居場所を無くすようなもの。若い人にも癒やしは必要。植物園周辺を大きく変えないでほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>街中の伝統ある森を壊さないでほしい。商業施設は不要。あの場所にあれだけの不可侵の生きた植物の博物館があることが、京都の個性の不可侵の一部分だと思う。府大がどんどん侵食されていってるのももう母校がなくなったレベルな虚しさを感じるが、植物園が商業化することを望んでる人はほんとに少ないと思う。押し切るなら住民投票でもしてほしい。受け入れられない。</p>	<p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

<p>お役人のことばはいつも「想定外」。特に金銭的には。亀岡のサッカー競技場の不足分10億円、寄附に頼ったが、集まったのは2割弱。残りは府民に負担を求めている。</p> <p>今般の大プロシキは1年先でも読めない時代、5年後、10年後、どういう時代になっているか読めないだろう。</p> <p>とりわけ北山エリアについて、開発はいらない。プランの実現性も乏しい。お金の帳尻が合わないことが予想される。もし実行するなら責任者は知事の他にだれかを明確にしておいてほしい。</p> <p>今は生活が戻ったら、学業、職業に未来を感じられる政策が第一である。</p>	
<p>⑬交流機会を創出する観光において、「2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)期間中に開催されるMICEの誘致強化」は府内に散在する既存の施設の改修や連携強化で対応すべきであって、人口減社会においては万博のような一過性のイベントのために新たなハコモノをつくる等、ハードに過剰な投資を行うことは将来世代の負担となり禍根を残すので反対。特に北山エリアの府有地に過剰な賑わいを誘致することは文教地区としての地域の特性を壊すおそれがあるので反対。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>巨大アリーナ計画について見直し希望。</p> <p>植物園としての機能を犠牲にし、比叡山の眺めを汚してまでイベントスペースをつくらなくてよい。</p> <p>収益の見込みもあやしいうえ、「京都らしさ」とは何か行政・議会がもう一度考えてほしい。</p> <p>山紫水明の都であることを決して忘れてはならないと思う。</p>	

⑪文化力による未来づくり

1 将来構想について

北山エリアの開発計画については反対であり、撤回を求める。

①この章では「一人ひとりの夢や希望」参画型を原則とする」と記述されているが、北山エリアの開発計画は、地域住民や府市民の意見を聴取して出てきたものではなく、東京のコンサルに委託して出てきたもので、手続的にも何らの正当性・民主性を認めることはできない。

②「グローバル化」が強調されているが、単に京都市や国が進めているインバウンド政策に矮小化されている。また、北山エリア開発において「総合資料館跡」に現行の都市計画では違法となるホテルを作るなど、単なる公的資産の切り売り行政を進める口実に使われているとしか思われない。

③「案」は、「豊かさの価値を再創造」と述べているが、真の豊かさは、「箱物」（とりわけ大型建設・大型アリーナ建設・シアターコンプレックスなど）に府民の税金を使用したりすることや公的資産の切り売りによって実現されるわけではない。むしろ現存する「植物園」の植物の博物館としての価値、その「植物園」それらを取りまく、落ち着いた北山の自然や町並みこそがこの地域の「豊かさ」の象徴ではないか。

④「案」は「グローバル化の進展」の項では、国のインバウンド政策で京都を訪れる外国人観光客の引き続きの増加を予想しており、そのことを根拠に、北山エリア開発で、資料館跡のホテル建設の口実にするには許されない。脱コロナ・コロナ共存・これからまた新たな感染症が生じる可能性が高いと指摘されている時代の下では、京都をインバウンド政策でコロナ以前より観光客を増やすことが真の京都の発展とは思われない。観光政策のみに頼るような政策は、コロナ禍で破綻したことを肝に銘じるべき。観光に過度に頼る政策は、持続可能な産業政策とはいえない。＜続く＞

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

また、ホテルは、京都には既に過剰に乱立しており、これ以上増やす必要はない。京都府民(市民)の利益を考えても、京都府民(市民)が、京都市の異常な地価高騰の中で、京都市中心部に住めなくなっており、京都市の街中で生活する市民の権利を奪っている。

3<基本政策>について

◎北山「文化と憩い」の交流構想について

①インターネットが発達した今日、国内外から人が集う大規模な交流する場を作ることがそもそも必要なのか、需要があるのか。また、それが「国際MICE」でなければならない理由はないと考える。「芸術の発信や賑わい・交流機能を有する施設の整備に取り組む」と記されているが、「施設の整備」が現状で不十分だとは思われない。宝ヶ池の国際会議場なども近接する。しかも、ITの時代になり、大きな建築物が更に必要とは思われない。

②ここにシアターコンプレックスをつくる必要性はない。植物園という世界でも貴重な植物の博物館ともいべき施設の機能を害することは、「貴重な文化や学問的価値」を害する。

③「文化と芸術を発信する」ことに、何ゆえに、1万人規模のアリーナの整備検討が含まれるのか疑問である。この基本計画には、「共用体育館機能を有した」としか書かれていないが、それはあくまで含むということであって、実際は、プロスポーツの利用を想定しているが、多大な費用をかけて、そのようなものをつくる必要はない。アリーナとしての商業的利用は、学生の利用を妨げるものであることから、反対である。

④とりわけ「府立植物園100周年未来構想」は、断固反対である。「ゾーン内に立地する各施設との垣根のない連携」などと書かれているが、示された計画では、地理的に垣根をとりはらうようなものとなっている。これをとっぱらって実現させるといふことになれば、植物園をつぶすに等しい行為である。また、植物園は、今のように静かな空間で、植物自体をめぐることで十分であり、複合的な正門エントランスの整備など不要である。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるように検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>「北山エリア」の整備計画は非常に不透明でわかりにくく感じ、国や業者との間で何がどこまで決定しているのか、決定していないのかを府民につまびらかに明確に説明すべき。</p> <p>そのうえで、北山周辺は、住民が静かな暮らしを営む地区であり、学生が静かに勉学に勤しむ地区であり、あるいは心穏やかに文化にふれる場所。観光を主体とした賑わいが、なぜこの場所に必要なのか。</p> <p>とりわけ、府立植物園の垣根を下げ、生物多様性を損なうような開発をなぜ行おうとするのか。植物園は博物館であり、また樹々と人々が向き合う憩いの場である。イベントなどで商業性を持ち込むことは一切不要。それよりも、博物館としての機能の充実や、より植生が守られるような予算の拡大をしてもらうことのほうがずっと、京都の「文化」力の向上につながると思う。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>北山エリアの整備計画について、まずそもそも、十分な審議が行われていない、そしてこの市民に対する意見募集の周知もなさ過ぎる、期間も短すぎる、これでは予め何も反対意見が無いようにわざとされていると思われる仕方ないやり方、到底市民が信頼に値するものではない。</p> <p>もし本当に行政が北山エリアの発展を願ってやろうとするなら、歴史ある植物園の敷地を無理に利用して商業スペースを作り整備するのではなく、現在ある姿が更に魅力的になるよう、人とお金を植物園自体にかけることが、人も集まり周辺にある既存の商業地の活性に繋がると考える。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>「北山エリア整備基本計画」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、円安、物価高、年金減…の時に無駄な支出はやめてほしい。府民のくらしに税金を使ってほしい。 ・貴重な植物園の植物たちを府は守る責任があるはず。植物を守り育てること。 ・小さな府立大学(2000人の学生)になぜ1万人規模のアリーナが学内に必要なのか信じがたい。全く必要ない。大学に見合った体育館の新しい建て替えを求め。 	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

- ・新しい文化創造の具体的内容について、明示してほしい。
- ・外部環境(市場環境)、内部状況(強み、弱み)を、どのように分析されているのか、教えてほしい。
- ・併せて、財務について、過去3or5期の財務諸表(損益計算書、貸借対照表)を明示願ひ、そこからわかる財務上の課題について、教えてほしい。
- ・コンセプトを変更されるようだが、その変更事由を、外部環境・内部状況・財務・その他経営課題から、教えてほしい。併せて、長期経営計画の中、今回の投資は、どのような位置づけをされているのか、教えてほしい。
- ・投資に係る金額と、その算出根拠(商圏内の潜在需要額と採算面の二つの方向から)を、教えてほしい。
- ・商圏内の潜在需要額からの投資金額 一般的に、最初の投資金額の大枠の設定にあたり、潜在需要額(商圏内で、ハフモデルから吸引できる世帯数に、1世帯あたり消費金額(家計調査年報)を掛け)、投資資本回転率(1.7から2.0)で割って算出した金額を投資金額とするが、このような方法を取っているのか、取っていない場合、その理由。異なる場合は、どのような算出方法を取っているのか、教えてほしい。
- ・採算面からの投資金額 一般的に、採算面について、回収期間、投資利益率、現在価値から算出するが、このような方法を取っているのか、取っていない場合、その理由は。異なる場合は、どのような算出方法を取っているのか、教えてほしい
- ・今回の投資に係る構築物の法定耐用年数終了までの財務諸表(損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー表(資金の調達と運用)の収支モデル)を明示願う。
- ・投資を行う場合、複数の代替案を検討すると思うが、代替案も教えてほしい。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。
整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

1 将来構想について

①もっとも利害関係を有する府市民の声をていねいに聞かずに、施策が展開されようとしていることを強く懸念する。市民・府民の声をわずか、20日間程度の極めて短期間のパブリックコメント募集でしか聞かないということも問題です。意見はもっと府民の多くが意見を出せる状況にすべき。

②「グローバル化」を強調しているが、単に京都市や国が進めているインバウンド政策に矮小化されているように思われる。また、後に指摘する北山エリア開発において「総合資料館跡」にホテルを作るなど、単なる公的資産の切り売り行政を進める口実に使われているとしか思えない。

③ また「グローバル化」を強調することにより、北山エリアの「MICE」建設を推進するなど、「箱物」行政を進める根拠にされているとしか思えない。

④「豊かさの価値を再創造」について、真の豊かさは、「箱物」(とりわけ大型建設・大型アリーナ建設・シアターコンプレックスなど)に府民の税金を使用したりすることや公的資産の切り売りによって実現されるわけではないと考える。むしろ現存する「植物園」の植物の博物館としての価値、その「植物園」それらを取りまく、落ち着いた北山の自然や町並こそが「豊かさ」の象徴ではないか。また、京都市は、大学・研究の都市として価値ある都市。学問や研究は、落ち着いた町、閑静な町という環境であるがゆえに、ノーベル賞受賞者など、多くの優れた研究者を育ててきたと思う。

⑤「グローバル化の進展」は、国のインバウンド政策で京都を訪れる外国人観光客の引き続きの増加を予想しており、そのことを根拠に、北山エリア再開発で、資料館跡のホテル建設の口実にするには許されないと思う。脱コロナ・コロナ共存・これからまた新たな感染症が生じる可能性が高いと指摘されている時代では、京都をインバウンド政策でコロナ以前より観光客を増やすことが真の京都の発展とは思えない。観光政策のみに頼るような政策は、コロナ禍で破綻したことを肝に銘じるべきではないか。観光に過度に頼る政策は、持続可能な産業政策とは言えない。また、ホテルは、京都には乱立しており、これ以上増やす必要はないと思う。京都府民(市民)の利益を考えても、京都府民(市民)が、京都市の異常な地価高騰の中で、京都市中心部に住めなくなっており、京都市の街中で生活する市民の権利を奪っている。〈続〉

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上を図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

⑪文化力による未来づくり

3<基本政策>について

◎北山「文化と憩い」の交流構想について

① インターネットが発達した今日、国内外から人が集う大規模な交流する場を作ることがそもそも必要なのか、需要があるか。また、それが「国際MICE」でなければならない理由はないと考える。「芸術の発信や賑わい・交流機能を有する施設の整備に取り組む」と記されているが、「施設の整備」が現状不十分とは思えない。宝ヶ池の国際会議場など。しかも、ITの時代になり、大きな建築物がさらに必要とは思われない。

② 京都は、芸術の発信は北山含めて京都市内だけでも十分に発信しており、ここにシアターコンプレックスをつくる必要性はないのではないか。

③ 「文化と芸術を発信する」ことに、何ゆえに、1万人規模のアリーナの整備検討が含まれるのか疑問である。この基本計画には、「共用体育館機能を有した」としか書かれていないが、それはあくまで含むということであって、実際は、プロスポーツの利用を想定しているが、多大な費用をかけて、そのようなものをつくる必要はないと思う。

④ とりわけ「府立植物園100周年未来構想」は、絶対反対。「ゾーン内に立地する各施設との垣根のない連携」などと書かれているが、示された計画では、地理的に垣根をとりはらうようなものとなっているように思われる。これを取っ払って実現するということになれば、植物園をつぶすに等しい行為だと思う。また、植物園は、今のように静かな空間で、植物自体を愛でることで十分であり、複合的な正門エントランスの整備など不要だと思う。

パブリックコメントを募集しておきながら、複雑難解な資料で分かりづらいし、募集期間の案内もなく、良くないことをこっそりやろうとしている姿勢しか感じない。

北山エリア整備計画を白紙に戻してほしい。アリーナなんて不要。大学生のための体育館にすべき。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>歴史ある京都であるなら長い年月で培われた自然植物園の価値を理解して保全するのが文化都市としてあるべき姿と思う。 何故歴史ある施設を台無しにしてアリーナの建設をするのか全く理解ができない。 他県民として、他の都市では到底築くことの叶わない歴史ある施設を大切にしないのは大変に残念なことである。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p>
<p>北山エリアの整備について、まず住民に対する丁寧な説明会を開くことを要望する。 ・府立大学の体育館は、府立大学生2000人のために早急に修繕、建てかえをすること。修繕費用を節約して1万人のアリーナにするという案は撤回してほしい。常時1万人のイベントを開催しなければ赤字になるような施設は私達の税金のムダである。学生・教職員の声によく耳を傾けてほしい。 ・植物園は公園ではないので、イベント施設は必要ない。アリーナの観客のために解放するのはもってのほか。植物の博物館としての機能を充実・発展させてほしい。 ・元資料館跡地には、シアターコンプレックス(複合劇場)や宿泊施設を建設するのではなく、府・市民が気軽に利用できる福祉施設の建設を希望する。民間に丸投げしないでほしい。事業が失敗して負債を生み、住民にツケが回ってこないようにしてほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。 整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。 府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行うとするものです。 整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、検討してまいります。 府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。 旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。 併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。</p>

⑪文化力による未来づくり

「京都府総合計画」改定案(中間案)を読み、161ページにもわたる文章のため読むだけでも大変。しかも、横文字が含まれ、具体的でなく抽象的に書かれているため、自分の生活環境が具体的にどのように変わるのか、想像しにくい。61ページには「学生スポーツや国際大会にも活用できるアリーナ機能を備えた体育館を整備し、府民が身近にスポーツを感じられる環境づくりを進めます。」と書かれているが、「アリーナ機能を備えた体育館」とはどのくらいの規模なのか、何処に建設するのか、書かれていないため、意見表明がしにくい。今までの経過から推測すると「府立大学の体育館の跡地一万人のアリーナを建設する」と考えられる。このように明確に書いて府民の判断を仰ぐのか当然ではないか。同じように、「府立文化芸術会館等、老朽化が進む既存文化施設の機能継承も踏まえ、舞台芸術・視覚芸術拠点施設(シアターコンプレックス)など、旧総合資料館跡地、植物園等の整備に取り組みます。」と具体性に欠けていて、これも判断に苦しむ。これらは北山エリア整備基本計画について指し示していると思うが、明確に京都府総合計画の中に北山エリア整備基本計画を位置付けているとは書かれていない。北山エリア整備基本計画という言葉すらない。北山エリアは、第二種中高層住居専用地域であり、法的にはアリーナや劇場そしてホテルは建設できない事になっている。その「整備基本計画」とは「約2000人の学生しかいない府立大学に1万人のアリーナの建設を想定し、植物園は出入り自由にする」等、住民に重大な悪影響を及ぼす計画である。「計画」見直しの署名が14万に達している。これらのことから、明確に「北山エリア基本整備計画は、撤回します。」と追加掲載することが当然ではないか。それが京都府民に責任をもつ京都府の資務ではないか。追加掲載を求め。<続く>

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和2年に閉館した京都子ども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に伺いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

それら以外に、問題なのは数値目標の101番「住んでいる地域に、にぎわいや活気がある人の割合」と書かれているが、京都府が「にぎわいや活気」がよいという価値観を府民に押しつけるのは、間違いである。また、府立スポーツ施設の利用者数(観客数を含む)も実態を正確に調査しない点で問題であることは言うまでもない。総合計画の27ページに京都府南部イノベーションベルト広域プロジェクトのなかに北山エリア整備が入っているが、北山エリアをイノベーションとしての役割を果たさせるのは場としてはふさわしくない。北山エリアは企業が交流して新たな産業や価値を見いだす場ではなく、第二種中高層住居専用地域である。イノベーションを全面的に否定しているのではない。あくまでも北山エリアにはふさわしくないと断言しているのである。この北山エリアをイノベーション連携プロジェクトから外してくれるよう申し入れる。8ページに「文化庁の移転や2025年の日本国際博覧会は、京都からの文化創造・国内外の発信の絶好の機会となります。」と書かれているが、両者とも負担増が避けがたいと言われていて、絶好の機会といえるのか。さらに、世界に誇る府立文芸会館や子供文化会館を廃館にするのか、理解に苦しむ。府立文芸会館の存続を要望する。このように改定案についての問題点や疑問点があるため、改定案についての説明会の開催を早急に求める。また、ほとんどの人が中間案に対するパブリックコメントが実施されていることすら、知らないというのが現状である。府民新聞等を活用して、府民に周知してほしい。締め切りの延期措置は求める。

府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行うとするものです。

整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討してまいります。

旧総合資料館跡地等については、令和3年に閉館した京都こども文化会館や老朽化した府立文化芸術会館の優れた機能を継承し、創作活動から発表までの多様な文化芸術活動に対応できる舞台芸術・視覚芸術の拠点施設を整備したいと考えており、周辺施設とは役割分担しながら相乗効果を発揮できるよう検討してまいります。

併せて整備する付帯施設については、北山エリア全体の魅力向上につながる施設として求められる機能の検討をしてまいります。

北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。

整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。

⑪文化力による未来づくり

<p>情報をしっかりと開示しないまま計画を進めるのはプロセスに大きな問題があり、コンプライアンスにも関わる大きな問題だと考える。計画の見直しを求める。とくに広域連携プロジェクトのうち、北山エリアの開発について計画の見直しを求める。大学の体育館を建て替え、商業利用を前提としたアリーナを開発するという計画に関して十分な情報が開示されていないと思う。そのような姿勢のもとで、市民から意見を集めるのはそのプロセスに大きな問題が在るのは明らか。「多目的利用」のもとに、市民の財産を切り売りするようなことはやめてもらいたい。あくまでも学生の利用を最優先にすべき。</p> <p>また、この計画にともなって植物園の施設を改変する計画があるようだが、反対。植物は簡単に移植できないし、ただでさえ手狭な研究環境を圧迫することにもなりかねない。地球環境の保護や生物多様性を維持しより豊かにするという世界の動きに反する計画だと思わないか。巨大アリーナと関連して景観にも悪影響がある。歴史ある京都にあって、世界有数の栽培技術、知識を有する日本を代表する植物園をつぎの100年をめざしてしっかりと整備し、京都市民にとってより豊かな生活環境を残せるように計画を見直してほしい。</p>	<p>北山エリアの整備においては、個々の施設の整備内容について専門家をはじめ、幅広い御意見を丁寧に向いながら検討を進めているところであり、エリア全体の整備の方向性の調和を図ることで、北山エリアをより魅力的な空間にしたいと考えております。</p> <p>整備にあたっては、周辺環境へ十分配慮しながら、府民負担を極力抑えられる事業手法も含め検討していきたいと考えており、今後、検討の進捗状況に応じて、検討状況の周知など、情報発信にも努めてまいります。</p> <p>府立大学における共同体育館の整備については、老朽化や耐震性の問題の解決と併せて、学生利用を大前提としながら、多機能・多目的な利用を行おうとするものです。</p> <p>整備にあたっては、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしているところであり、大学としての教育・研究環境や周辺環境へ十分配慮しながら検討してまいります。</p> <p>府立植物園の整備については、長い歴史の中で蓄積された栽培技術の向上と技術継承、希少植物の保全、バックヤードの拡充・高度化などの機能向上を目指すとともに、植物に関する学際的な研究拠点として機能強化することで、研究成果を踏まえた教育プログラムを提供することが重要であると考えており、さらに自然豊かな府民の憩いの場としての魅力向上が図られるよう、専門家をはじめ、幅広く御意見をお聴きしながら検討を進めてまいります。</p>
<p>「7府立大学の学科再編により、人文・社会・自然科学の連携強化を図る和食文化科学科等における和食」について、府立大学の和食文化科学科は今度の再編で文系から理系になる方針であると把握している。なぜこのような変更が行われるのか、育成される「和食文化人材」とはどのような人材なのか、和食文化人材はどのような進路を想定して作られるものなのかが分からない。</p>	<p>京都府立大学和食文化科学科は、開設当初から文理融合を掲げています。「文化」とは、文系・理系の枠を越えた人間の活動全般を意味する、という解釈で教育・研究を行ってきました。したがって、「文系から理系になる」のではなく、これまでの実績を発展的に継承するのが今回の再編の意味です。</p> <p>新しく所属する農学食科学部(仮称)は、食の生産・流通・加工・消費・廃棄などを含めて、食にかかわる人間の文化的営みを総合的にとらえようという目的で設置されるものです。これによって、既存の理系分野との連携は強化されますが、それは文理融合をさらに一歩進めるということにほかなりません。</p> <p>こうした方向によって、学生は、自然科学と人間社会を視野に入れた広い基盤の上で専門知をみがぐこととなりますので、進路も広がり、食関連、伝統産業、観光、健康、農業や地域振興など多様な分野で活躍することが期待されており、府としても府立大学の再編に対し、支援をしていきたいと考えております。</p>
<p>(7) 多彩な文化の交流の創出・・・の中で、府立文化芸術会館等が老朽化しているので、シアターコンプレックスを作ると言っているが、府立文化芸術会館は優れた会館であり、改修で十分に使用できる施設である。府立文化芸術会館によって培われてきた文化・芸術の幅広い豊かな活動を継続していくためにも廃止するのではなく、改修して継続して使っていくほしい。</p>	<p>文化芸術会館については、建築後50年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、北山エリアにおいて、同会館の機能継承を念頭に舞台芸術・視覚芸術拠点施設の整備に向けて検討を進めています。</p> <p>文化芸術会館の取り扱いについては、こうした施設の整備状況などを踏まえて検討してまいります。</p>

⑫産業の創出・成長・発展と継承

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>産業面の課題として、中小企業の多い京都では「事業継承の問題」が喫緊の課題だと思ふ。金融機関から聞く話では、事業者の中には後継者の話は借り入れ不可につながるネガティブな話題と思われることがあり、金融機関にとっても課題解決の糸口が掴みにくいそうである。</p>	<p>中小企業は地域経済や雇用の重要な担い手であり、その事業承継を推進するため、全国に先駆けて取り組んできた後継者不在企業への後継者マッチングに関する対策を強化してまいります。</p>
<p>京都は「ベンチャーの街」と言われてきたが、最近はなかなか目立ったスタートアップ企業が輩出されていない。この課題は、企業の優れた技術をビジネスに繋げる能力・人材が不足していることであり、そこを補うことで課題が克服できるのではないかと思う。</p>	<p>経営・ビジネスに長けた人材の集積を促進するため、国内外から人材を呼び込む滞在型プログラム等を進めてまいります。</p>
<p>京都では飲食店やお土産屋さん等で現金しか使えないお店が多い気がする。コロナ終息後のインバウンド需要の回復に備え、電子マネーやカードが使える環境整備に取り組むことが重要ではないか。</p>	<p>人口減少の時代を迎え、事業者の生産性向上は喫緊の課題であり、キャッシュレス決済の導入は、業務の効率化や客単価の向上など中小企業・小規模事業者の経営課題の解決に向けて効果が期待できます。京都府では、分野別基本施策⑫に記載のとおり、中小企業・小規模事業者のDX推進を支援してまいります。</p>
<p>「⑫産業の創出・成長・発展と継承」において、京都のモノづくり企業の発展の経緯を全体的に上手に表現している。</p>	<p>御賛同いただきありがとうございます。</p>
<p>「⑫産業の創出・成長・発展と継承」の具体的施策10において、情報学部をもつ福知山公立大学の役割や関わりを追記した方が良いと思う。</p>	<p>福知山公立大学の役割については、8つの広域連携プロジェクト「⑤京都府北部地域連携都市圏広域連携プロジェクト」において記載しているとおり、北近畿を支える人材育成を担う教育機関の一つとして、産学官連携コンソーシアムとの連携を強化してまいります。</p>

⑫産業の創出・成長・発展と継承

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>スタートアップ・エコシステム拠点都市に大阪、兵庫とともに選定されている京都においては、「ライフサイエンスに係る府基本ビジョン策定(仮称)」のようなものを今後示す必要があるのではないか。医学、福祉学、薬学、理学、工学、農学などの大学だけでなく、関係企業も数多く存在する京都では、今後の道標として必要であるとする。</p>	<p>京都府保健医療計画に基づき設置された「きょうと健康長寿推進府民会議」等を中心に、医療・保健分野、教育分野、農林・商工分野、医療保険者・企業等の関係機関とオール京都体制で健康づくりを推進しています。 健康福祉部と商工労働観光部で共管する、「きょうと健康長寿・未病改善センター」事業では、京都大学内に設置した産学連携拠点を活用し、ライフサイエンス分野のオープンイノベーションの取組を積極的に支援してまいります。</p>
<p>分野別基本施策「⑫産業の創出・成長・発展と継承」に着目しており、これは「一人ひとりの夢や希望が実現できる社会」に密接に関係し、安心や温もりを考える上で、産業が成長・発展することが基本になっているからである。そのために、既存産業を保護するだけでなく、スタートアップや海外との連携などを通じて、オープンイノベーションを展開し、既存企業と新興企業との共創でそれぞれの成長をめざすという考えは将来を見通した取組だと思ふ。また、それらの取組についても、「産業創造リーディングゾーン」を構築し、重点的に支援を行っていくのは、対外的にも分かりやすく、成果を示しやすいと思ふ。もちろん、これらに含まれない地域や産業分野について目配りをする必要だが、京都府産業の中で一番集積しているのはやはり京都市内なので、これを排除せず、他の地域とどのように市内の拠点が連携していくかということもしっかりと示してほしいと思ふ。</p>	<p>総合計画の推進に当たっては、府内人口の半数を占める京都市との連携が極めて重要です。このため、分野別基本施策⑫の京都市域関係方策として、本計画の内、京都市とも連携して進める方策を取りまとめしております。</p>

⑬交流機会を創出する観光

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑬交流機会を創出する観光」について、海外では、コンビニ、量り売り商店、路面店ですら、既にキャッシュレスに対応している。大阪・関西万博を控える中、京都でも全国トップレベルのキャッシュレス化を推し進める必要があると考える。</p>	<p>人口減少の時代を迎え、事業者の生産性向上は喫緊の課題であり、キャッシュレス決済の導入は、業務の効率化や客単価の向上など中小企業・小規模事業者の経営課題の解決に向けて効果が期待できます。 京都府では、分野別基本施策⑫に記載のとおり、中小企業・小規模事業者のDX推進を支援してまいります。</p>
<p>⑬-14に関して、京都市水族館や丹後魚っ知館は、「など」に包括されてしまい、個別表記されないのか。</p>	<p>例示した観光スポット以外にも様々な観光スポットがある中で、全てを記載することは困難なことから、御指摘の施設については、「など」に含めています。</p>
<p>関西国際空港・伊丹空港、京都駅、京都舞鶴港、その他関西地域の交通の拠点という記載があるが、丹後半島の空の玄関口となるコウノトリ但馬空港も例示に入れてほしい。</p>	<p>例示されているものの他に、神戸空港や大阪港などの拠点もある中で、分野別基本施策⑬-23には代表的な拠点を掲載しております。</p>
<p>⑬-5に書かれている「大学や企業と連携した国際MICE施設などの基盤整備」について、大学をMICEの場として利用するのは不適切だと考える。学内の施設をある程度一般市民に開放することは意味があると思うが、学術以外の企業活動に使用させることは本来学生のためである場所にとってふさわしくないため、「国際MICE施設などの基盤整備」の場から大学は除外すべきだと考える。</p>	<p>MICEは、企業・産業活動や研究・学術活動等と関連していることが多く、単に人が集まるということに留まらず、世界から企業や学会の主要メンバーが集うため、それらの関係者とのネットワークを構築し、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことが可能です。 国際MICE施設などの基盤整備については、新たにMICE専用の施設整備を求めるのではなく、今後、大学や企業に対し、学術・研究施設の整備の際に、MICE受入を念頭に置いた基盤整備を促すことで、ミーティングやコンベンションの誘致促進を図るものです。</p>

⑬交流機会を創出する観光

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑬交流機会を創出する観光」について、文化的・環境的な固有の価値を守り、周辺環境と調和しなければ単なる「観光公害」となるため、具体方策4の「地域の歴史伝統文化から着想したデジタルアートの展示等」を削除し、以下のとおり改めてはどうか。どこでもできるプロジェクションマッピングなどを第一の例とするのは、各文化的施設の有する「固有の価値」を尊敬・尊重する姿勢の対極にあるものであり、皮相な「観光集客イベント」ではなく、ほんまものの魅力と価値を伝えるモデルを京都から発信してほしい。</p> <p>「(前略)丹後・山城郷土資料館、京都文化博物館、京都府立植物園、美術館などについて、その文化的・環境的な固有の価値を守るとともに、周辺環境との調和を図りうる限度において、観光拠点施設として位置付けます。府内各地における文化資源の魅力や観光事業者と連携した、京都文化の学びにつながる文化観光の新しい楽しみ方を発信するとともに、ほんまものの「アートツーリズム」の普及を進めます。」</p>	<p>地域の歴史伝統文化など地域の魅力を様々な方法で広く発信することは、観光誘客の促進や地域活性化につながるものと考えておりますが、その実施については、地元や文化財や施設などを守っておられる方々の御意見を踏まえて、実施していきたいと考えております。</p>
<p>「⑬観光」について、国内では人口が減少し、世界的にもビジネスのオンライン化や感染状況次第で国際的な人流がどんどん拡大するという意味での「グローバル化」はもう見込めないで、コロナで損失を受けた既存施設の活用・支援にさらに重点を置くべき。従って、以下のとおり改めてはどうか。</p> <p>具体方策5「大学や企業と連携した国際MICE施設などの基盤整備や既存施設の活用促進による」</p> <p>→「京都国際会館、けいはんなプラザをはじめとする既存施設の活用を一層図るとともに」</p>	<p>MICEは、企業・産業活動や研究・学術活動等と関連していることが多く、単に人が集まるということに留まらず、世界から企業や学会の主要メンバーが集うため、それらの関係者とのネットワークを構築し、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことが可能です。</p> <p>国際MICE施設などの基盤整備については、新たにMICE専用の施設整備を求めるのではなく、大学や企業に対し、学術・研究施設の整備の際には、MICE受入を念頭に置いた整備を促すことで、誘致促進を図るものです。今後とも、既存施設の活用と併せ、MICE誘致に努めてまいります。</p>
<p>分野別基本施策⑬において、「光や映像を用いた賑わい創出イベントの府域開催や、ナイトカルチャーの創出等、府域への広域周遊や滞在型観光を促進」</p> <p>「丹後・山城郷土資料館、京都文化博物館、京都府立植物園、美術館などを観光拠点施設として位置付け」「デジタルアートの展示等を実施します」とあるが、植物園において安易に夜間照明を行うと植物の生育に悪影響があるので良くない。植物園もこれまで様々なライトアップの試みをしてきたようだが、現況の普通に桜や紅葉を照らす素朴なライトアップが一番良かった。プロジェクトマッピングはおおむね力不足でダイナミックな木々に対して人工的な印象、子どもが泣き出すような、どことなく禍々しさも感じられて平和な植物園にはふさわしくないで安易にやるべきでない。</p>	<p>地域の歴史伝統文化など地域の魅力を様々な方法で広く発信することは、観光誘客の促進や地域活性化につながるものと考えておりますが、その実施については、地元や文化財や施設などを守っておられる方々の御意見を踏まえて、実施していきたいと考えております。</p>

⑬交流機会を創出する観光

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「光や映像を用いた賑わい創出イベント」「ナイトカルチャーの創出」からの植物園も含めたデジタルアートの展示という記述があるが、水族館のように屋内でやるならまだしも、こういうことのために植物を痛めるのはやめてほしい。</p>	
<p>⑬の4年間の対応方向・具体方策の中の「地域と様々な分野をかけあわせた新しい価値を創出します。」の4番目の記述「国宝等文化財建造物の特別公開と府域の観光コンテンツを組み合わせた観光商品の造成や、丹後・山城郷土資料館、京都文化博物館、京都府立植物園、美術館などを観光拠点施設として位置付け、府内各地における文化資源の魅力や観光事業者と連携した、京都文化の学びにつながる文化観光の新しい楽しみ方を発信するとともに、「アートツーリズム」の普及を進め、地域の歴史伝統文化から着想したデジタルアートの展示等を実施します。」について、「京都文化の学びにつながる文化観光の新しい楽しみ方を発信」と書かれているが、まずその文化施設がどのような施設であるかを考慮しない楽しみ方を発信するのは論外だと思う。府立植物園は植物を生態展示する博物館であり、植物は光に強い影響を受ける。街灯などによる植物への影響が指摘されており「光害」という言葉があるにも関わらず、その場所でデジタルアートの展示を実施することを明記するというのには、府は文化施設に対する理解がないということを発信しているのと同じことである。ここに府立植物園を含めることは極めて不適当だと言わざるを得ない。</p>	<p>地域の歴史伝統文化など地域の魅力を様々な方法で広く発信することは、観光誘客の促進や地域活性化につながるものと考えておりますが、その実施については、地元や文化財や施設などを守っておられる方々の御意見を踏まえて、実施していきたいと考えております。</p>
<p>分野別基本施策⑩に記載の「生物多様性を保全・継承する」のであれば、府立植物園でデジタルアートをやるのは方向性を完全に間違えている。 分野別基本施策⑬「京都府立植物園、美術館などを観光拠点施設として位置付け…デジタルアートの展示等を実施します。」と書いているが、デジタルアートは生態のリズムを乱し環境に悪影響を与える。自然環境について学ぶための施設で、植物やそこに生きる様々な生物を痛めつける展示をやることは趣旨に反している。それでは正しい学びにつながらない。今植物園でやっているライトアップは光の量も多く期間も長く、それだけダメージが大きくなる。しかも肝心の昼間の光景はひどいもので景色も台無しである。府立植物園で他の施設のようにデジタルアートの展示を行うことは絶対にやめてほしい。</p>	
<p>デジタルアートは不必要。</p>	
<p>府立植物園は稀少な植物の宝庫である。京都府総合計画に、賑わい創出、ナイトカルチャー創出、デジタルアートなどと記載されているが、夜間の照明は植物に悪影響を与えると考えられるので、府立植物園は対象外にしてほしい。</p>	

⑭雇用の安定・確保と人材育成

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>税務調査のように抜き打ちで各事業所の調査(各種法律で認められた権利が守られているか、パワハラ、セクハラなどの犯罪や各種差別を防止する教育が行われているか、従業員の無記名アンケート等)を行ってほしい。</p>	<p>労働関係法令を始めとする法令を遵守することは極めて重要なことであり、京都府においては、府内中小企業等への労働法令遵守の周知・啓発を行いますとともに、京都府労働相談所において相談内容にきめ細やかに対応しています。</p> <p>また、法令違反が疑われる場合には、指導監督権限を有する国の窓口につながっているところです。引き続き、労働局を始めとする関係機関と連携し、法令遵守に向けた取組を実施してまいります。</p>
<p>府内での就職が少ない。マッチングも必要だろうが、就職先を府内にもっと拡充する、府内に残って就職するならば返済が余儀なくされる奨学金分の支援をするというくらいの、攻勢的な人材確保策を示すくらいの覚悟が必要ではないか。</p>	<p>京都府においては、中小企業の人材確保と従業員の定着、奨学金を返済する働く若者の負担軽減を図るため、「就労・奨学金返済一体型支援事業」に取り組んでおり、従業員の奨学金返済支援を行う中小企業等の支援をしています。引き続き、中小企業等や働く方などのご意見を伺いながら、使いやすい制度になるよう努めていきます。</p> <p>また、分野別基本施策①-10に記載のとおり、将来子育て世代となる若年層の府内定着・転入及び府内の事業所における人材確保を促進するため、奨学金返済支援制度を充実するなど、若者の経済的な「ゆとり」づくりを支援していくこととしております。</p>

⑮農林水産業の成長産業化

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑮農林水産業の成長発展」具体的施策20に関連すると思うが、「2025年の大阪関西万博をターゲットとする」というような記載があっても良いのではないか。</p>	<p>大阪・関西万博開催等の好機を生かすことは重要であると考えています。分野別基本施策⑪において、文化庁の京都移転や大阪・関西万博の機会を捉えた取組の一つとして、京料理等の国内外への発信を掲げており、取組を進めてまいります。</p>
<p>分野別基本施策にある農林水産業の成長産業化が重要だと思う。丹後地域などの魅力発信の際に、京都で1番観光客の多い京都市との差別化も重要であり、そこで丹後地域にしかない魅力のひとつである海の魅力を最大限生かすためにも、まずは京都の海の魅力的な資源を守ることに力を入れるべき。そして養殖業にしっかり取り組み、漁業に携わる人の給与の安定と漁獲量の安定を実現させ、その上で、京都の海産物と観光をしっかり連携させるべき。</p>	<p>京都の豊かな海の資源を守るため、近年の漁獲量の変動を踏まえ、これまでから資源管理に取り組んでいます。また、水産業が更に成長するには、養殖業の拡大が重要と考えております。引き続き、資源管理と養殖業の推進に取り組み、漁獲量の安定と魅力的な京都の海の実現を進めてまいります。</p>
<p>府農林水産物のブランド化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何十年とブランド化を続けられているが、うまくいっているから続けられているのか、それとも、うまくいかないのずっと続けているのか。再構築はしないのか。その理由は？また、事業の到達目標はあるのか。 ・この間の生産量、出荷数量、市場占有率、生産者の営業利益の推移は、どのようになっているのか？事業の効果は？ ・成功点・反省点、振り返りが知りたい。 ・他府県(産)の経営をどのように考えているのか？ ・そもそものブランドのコンセプトを具体的に教えてほしい。それは消費者から支持を得られるコンセプトなのか(マーケット調査？) ・事業を進める中、ブランドコンセプトの変更はあったのか。 ・事業を進める中、消費者における心理的位置はどう変化してきたのか。(マーケット調査？) ・事業の取組に、変更・進歩はあったのか。 ・事業を進めるなか、生産者に利益の出る取組となったのか。 	<p>平成元年に全国に先駆け歴史と伝統、食文化等を背景に京都ブランドとして売り込みを図り、近畿圏及び首都圏の百貨店や高級スーパー等で京野菜売場が続々と設置され、有利に販売が行われた結果、府内産野菜の生産額は平成元年の214億円から令和2年の250億円に増加しております。しかしながら、御意見のとおり、京都府のブランド手法をまねた他府県ブランドが平成16年頃から台頭してきたことから、京野菜売場が他府県産を含めた「伝統野菜コーナー」に置き換えられていったことにより、有利販売が難しくなってきました。</p> <p>また、消費者のライフスタイルの変化による中食ニーズの高まりや、コロナ禍を経て消費者の健康志向への高まり等も生まれてきています。こういった食生活や価値観の多様化に伴う消費動向の変化に対応するため、今後は、京の食文化を体現する最高品質の「京都プレミアム中食」など、京都のブランド力ある食材を生かした中食需要等に対応した商品づくりを進めてまいります。</p>

⑩しなやかで災害に強い地域

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>災害時における地域間連携の仕組みづくりは、兵庫県、福井県とも連携して取り組んでほしい。</p>	<p>分野別基本施策⑩-39にも記載しているとおり、京都府では、関西広域連合における広域防災や近畿ブロック知事会など災害時の相互応援協定により、兵庫県、福井県をはじめ、隣接府県との地域間連携の取組を進めてまいります。</p>
<p>「実避難者は約4,200人に止まっており」という記載があるが、避難所に行くことだけが避難ではないと思う。事前に親戚等の家や避難旅行として影響のない地域の宿泊施設に行ったり、垂直避難等による避難も一定あったと思うので、そういった避難行動をした方の人数も把握できるような仕組みが必要だと思う。</p>	<p>京都府では、災害危険地域において、「いつ」「どこに」「どのように」避難するかを予め定めておく「避難行動タイムライン」の作成を進めています。タイムラインには、夜間や豪雨等で避難所へ行くことが難しい場合に、建物の2階以上への「垂直避難」を含む避難所以外の次善の避難場所を定めることとしており、状況に応じた適切な避難につながるよう取り組んでまいります。</p>
<p>「⑩しなやかで災害に強い地域」について、平時におけるハード・ソフト両面からの総合的な対策、災害時のきめ細やかな災害対応や復旧・復興に資する対策等、網羅的かつ有益な施策となっており、基本的な方向性について賛同する。</p> <p>その上で、「府・市町村の危機管理体制を充実し、災害発生時の対応力及び災害から立ち直れる力を強化します。」に関連するものとして、以下を基本施策に盛り込んでほしい。</p> <p>①地震保険の周知・加入促進 被災後の復旧・復興や被災者の生活再建費用確保等の観点からも、国と民間保険会社で共同運営している地震保険の役割発揮は必要不可欠であり、平時から制度の周知・加入促進を図ってほしい。</p>	<p>総合計画に個別の施策全てを記載することはできませんが、京都府では、「戦略的地震防災対策指針」及び「同推進プラン」を策定し、計画的に地震防災対策を進めており、公共施設・住宅等の耐震化や損害保険の加入促進等に取り組んでいます。また、「府民だより」において毎年特集を組み地震対策の情報発信を行うとともに、災害発生時には、市町村や協定締結団体等と連携し、被災者の生活再建を支援してまいります。</p>
<p>②災害に対する総合的な学びの機会の提供 一人ひとりの災害への対応力を強化し、府民の自助促進の観点から、民間事業者とも連携しながら、より体系的・網羅的に防災について学べる機会をできるだけ多くの府民に提供してほしい。</p>	<p>京都府では、毎年開催地を変えて総合防災訓練を実施するなど、子ども達を含め広く府民に対して防災意識の向上に向けた取組を行っています。更に包括連携協定等により、民間の支援も活用しながら、出前語らいや研修会等の実施を計画的に取り組んでまいります。</p>

⑰犯罪や事故のない暮らし

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>令和2年の京都府における人身事故件数(4,118件)のうち、約62%が交差点および交差点付近で発生しており、全国平均(56.1%)と比較して交差点および交差点付近での事故率が高い。「年間の交通事故死者数を40人以下」という目標数値に向けて93頁「3」「5」の方策を推進するにあたり、交差点周辺の事故に焦点を当てることも有効と考える。</p>	<p>交通事故発生の時間帯、場所、路線等、その発生要因の総合的な分析に基づき、交通死亡事故抑止対策を推進しているところ、交差点においても、引き続き、発生要因を分析した上で、信号無視等の交通取締りや現場の状況に応じた交通規制、道路管理者と連携した道路環境の整備などの対策を行ってまいります。</p>
<p>75頁「27」には自転車利用を促進する旨の記載があるが、自転車による事故対策も検討すべき重要な課題である。94頁「17」に記載のとおり、事故を未然に防ぐための交通安全活動も重要だが、事故を起こした後の被害者救済・加害者の経済的救済も重要である。</p> <p>府では、条例により自転車損害保険等の加入が義務付けられていることから、『関係事業者の協力を得つつ、自転車損害保険等への加入義務化に関する情報発信を行い、加入促進を図る。』といった旨を本計画に追記すべきと考える。</p>	<p>総合計画に個別の施策全てを記載することはできませんが、「京都府自転車安全利用計画」において、行政、事業者、団体、事業所等が一体となって自転車の安全利用に関する取組を進めており、平成29年の自転車損害保険等加入義務化に合わせて、本計画に加入促進を盛り込み、保険事業者と連携した自転車損害保険等への加入促進啓発や、自転車小売業者による保険の加入確認や加入案内等の取組を推進しています。</p> <p>令和3年には、計画において、保険加入率100%を目指す新たな目標を掲げ取組を強化しているところであり、引き続き、関係機関・団体と連携しながら取組を進めてまいります。</p>

⑩脱炭素社会へのチャレンジ

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑩脱炭素社会へのチャレンジ」について、20番以降の生物多様性の取組は素晴らしいが、府自身が当事者として生物多様性保全への主体的に取り組む内容が不足しているように思われるため、以下を追加してはどうか。 「また、各府立公園や府立植物園をはじめとする府立の施設においても自然環境の保全に留意し、多様な主体の連携による生物多様性保全と継承を積極的に推進します。」</p>	<p>府立植物園や府立大学をはじめ、企業や、研究機関、保全団体等の多様な主体と協力して、オール京都で生物多様性センター(仮称)の設置を進めることとしており、当該センターを中心とした生物多様性保全の取組を推進することとしております。</p>
<p>「自然環境、生物多様性の保全と継承、創出」の豊かな自然環境の活用については、多くの部分に言及されているが、その自然環境やそこに生息する生物の多様性を保全し、次世代につないでいくことについては、全体に目を通しても具体的な方法や対策の記述が、ほとんど記されていないのは問題であり、改善を求めたい。わずかに認められる記述として、基本計画に「多様な主体の連携による生物多様性の保全と継承の方法、自然環境の保全と創出(主要な方策)」と題して、京都府生物多様性センターと生物多様性保全基金の創設が記されているが、それに添えて書かれている「到達目標」には、このセンターや基金についての具体的な記述がない。この多様性センターと多様性保護基金については繰り返し言及があり、重要な施策と位置付けていると思われるので、少なくとも、「到達目標」に京都府生物多様性センターの創設と生物多様性保全基金を何年度までに、どの程度の規模で実現するのかの記述を加え、両者の創設をぜひ実現させてほしい。</p>	<p>生物多様性センター(仮称)については、その機能整備として、生物多様性情報基盤の構築を開始したところです。今後、調整を進め、保全活動のコーディネートや人材育成機能の拡充を図るとともに、生物多様性保全基金の創設により、生物多様性センター(仮称)の早期設置を目指してまいりたいと考えています。</p>
<p>自然環境の創出について、題にあるだけで何も言及がない。見出しに「自然の環境の保全と創出」と記してある以上は、「自然環境の創出」についての具体的な記述も必ず必要であり、これを欠いているのは、理解しづらいため、「自然環境の創出」についての記述も加えてほしい。</p>	<p>過疎化等により人手が入らなくなったために損なわれた里地里山の生態系を取り戻す取組や、都市部での生物多様性の再生への取組の支援については、現在、設置に向けて調整を進めております生物多様性センター(仮称)において取組を進めることとしております。</p>

⑩脱炭素社会へのチャレンジ

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>「⑩脱炭素社会へのチャレンジ」に課題として生物多様性情報基盤の拡充・機能強化への取組が求められると記されており、情報基盤としては、生物の分布、個体数などの「生息状況の把握」が当然含まれるが、それへの具体的な方策としては、わずかに21として「環境DNA解析等を活用して、生物の生息状況を把握」と書かれているだけである。環境DNA解析を使うだけでは、具体的な生物の分布位置や、個体数の把握は難しく、例えば鳥類では、センサス調査などの現地調査の実施が必要になってくる。「環境DNA解析等」の「等」の部分に他の様々な調査方法が含まれているのかもしれないが、せめてもう少し、具体的に実施の内容を記して、生息状況の把握をどう具体的に進めるのかを示してほしい。</p>	<p>いただきました御意見を踏まえ、分野別基本施策⑩-21を「従来からの目視調査等に加え、環境DNA(水中、土壌中等の環境中に放出された生物由来のDNA)解析や画像認識などの新たな技術も活用して生物の生息状況を把握し、効果的な希少生物の保全対策を進めます」に修正します。</p>
<p>再生可能エネルギーについては、脱炭素社会を目指すということで多くの部分に言及があり、基本計画には、事業者に対するインセンティブ付与による再エネ導入の加速化についての言及もあるが、風力発電、メガソーラーなどの事業者による、大規模な自然破壊が各地で大きな問題となっていることから、事業者への動機付けの方策については、慎重に検討してほしい。</p>	<p>脱炭素社会の実現に向けた、再エネの更なる導入拡大に当たっては、環境との調和や地域住民との信頼関係の構築が不可欠であると考えています。そのため、分野別基本施策⑩の4年間の対応方向や具体方策13に記載のとおり、環境調和と住民理解を前提とした地域共生型の再エネ導入の促進に取り組んでいきます。</p>
<p>再エネ導入の加速化が重要な方針であったとしても、それを実現するために自然環境が破壊されることは問題である。事業者の事業計画地、その環境アセスメントなどには、最大限の注意を払うと同時に、大規模な環境破壊、事業地の転売、盛り土への産廃混入など、ずさんな施業や運営を確実に止めるように対策を行うことを「基本計画」として明記しておく必要があると考える。</p>	<p>また、引き続き事業者へは関係法令の遵守等を求めてまいります。</p>

⑱成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>大切な水脈を損なうことになるので、京都府の地下に北陸新幹線を通さないでほしい。</p>	
<p>北陸新幹線延伸は白紙にしてほしい。大量発生が予想される残土処分の方法は不明であり、京都の地下水にも大きな影響を与える計画となっており、沿線の環境破壊は甚大で取り返しのつかないものになることが明らかである。</p>	
<p>北陸新幹線延伸計画を白紙撤回してほしい。地下工事に起因する陥没事故の可能性、地下水を資源とした産業への悪影響、残土処分、山間部への環境負荷、あまりにデメリットの大きい計画だと思う。</p>	
<p>北陸新幹線の地下線路建設の白紙撤回を求める。京都の地下水盆に多大なる影響が予測される。 現在、その地下水を使い生業としている各業種関係各所へ説明不足であり、京都の地場産業を深刻な局面に陥れることになる予測を黙認している。問題点が多くあり、それに対する対応策がなされていない。現状の青写真はあまりにお粗末で細部に渡る計画の精査が必要と感じる。 ・営業における事業継続に関わる影響調査をなされてない。 ・地下掘削に伴う水質変化を地域毎の事前予測調査からの被害予測等が事業者にはわかるようにされていない。 ・掘削土砂の処分方法が明確に提示されない中、環境破壊や環境汚染二次被害が想定される。 投資金額で京都府民への生活や経済を底上げして未来ある都市『京都』として市民流出が止まらない現状を打破すべきではないか?居住者を増やし魅力ある京都をつくるほうが観光資源にも活用されると思われる。廃案できないとしても、影響がないよう大幅な修正を求める。仮計画を市民、事業者にしっかりと分け隔てなく提示してほしい。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構において環境影響評価の手続きが進められているところであり、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、慎重な調査と丁寧な地元説明を行うとともに、環境の保全について適切な対応を行うよう求めているところです。</p>

⑱成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>北陸新幹線の小浜京都ルートでの延伸に反対である。京都の市街地の地下を掘り新しく駅を作る計画は、京都の地下水が心配である。</p> <p>京都と大阪の間にはすでに東海道新幹線があるのに、もう一本新幹線を作る意味がわからない。北陸方面なら現在すでにサンダーバードがつながっていても便利である。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構において環境影響評価の手続きが進められているところであり、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、慎重な調査と丁寧な地元説明を行うとともに、環境の保全について適切な対応を行うよう求めているところです。</p>
<p>北陸新幹線の地下建設計画の撤回を求める。理由は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地下水への新幹線地下化工事の影響について、十分な調査が行われているかどうか疑問。 2) 1)の調査がある程度行われているとしても、その十分な広報と市民や研究者による調査に対する検討が十分に行われていない。 3) 新幹線地下化によってどれほど京都市民が利益を得られるのか計画自体の意義が明確ではない。 4) 新幹線地下化工事によって、多くの土砂排出、地下水の発出が予想され、その場合の各地域における対策について、具体的な検討が必要であり、その結果が広報されるべきである。 5) 4)の工事により排出される土砂、地下水処理によっては、環境の二次的汚染が考えられるが、その対策の検討が不十分である。 6) 工事が進められれば、当該地域は、ある期間、工事車両によって交通の流れの変化等の影響が考えられるが、それらがどれほどの規模・期間か当該地域に十分に説明されていない。 	
<p>北陸新幹線の整備は反対。地下水への影響や大量の残土の発生、トラック等による交通事故・渋滞などが懸念。新幹線は大量の電気を消費し、エネルギーの節約と相反する。交通網の整備というなら、地元住民が日常的に使うローカル線やバス路線、日常道路の修繕などに財政を投入すべき。</p>	
<p>北陸新幹線の問題は大変危惧している。貴重な生態系や水源の破壊に繋がるのではないかと。</p>	

⑱成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>北陸新幹線延伸についての計画見直しをお願いしたい。沿線の環境破壊、地下水脈への悪影響が見込まれる現計画については撤回し、延伸必要の是非から考え直していただきたい。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構において環境影響評価の手続きが進められているところであり、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、慎重な調査と丁寧な地元説明を行うとともに、環境の保全について適切な対応を行うよう求めているところです。</p>
<p>北陸新幹線について、環境への悪影響を鑑みて、美山ルートでの延伸は取りやめてほしい。</p>	
<p>気候温暖化(気候危機)を指摘することは重要であり、この対策を論じることは重要であるが、これを指摘するなら、無駄な大型建設の促進や、北陸新幹線の地下通過など、自然をより一層破壊する政策について国に反対を述べるべきである。</p>	
<p>北陸新幹線について、全てがちゃんと府民に問題提起されていない。もっと意見交換できる場を提供してほしい。北陸新幹線の延伸は、地震や水害の被害が増える昨今、地下にそんなに大きな穴をほって、本当に大丈夫なのだろうか、という疑念と不安がある。</p>	
<p>府民として最も地方自治に期待することは、生活の安全安心であり、安定である。開発や新システムの導入も結構だが、公と民の合意形成が何よりも重要。トップダウンと形式的な議会承認で着手するというやり方は地方自治の精神に反するものであり、特に、地域開発、まちづくりの分野では慎重にやってほしい。例えば、「北陸新幹線(敦賀―大阪)の推進」は、「環境への影響を十分見極めて」のような一文を入れるべきではないか。</p>	
<p>北陸新幹線の延伸に反対。 工事によって地質が変化し地下水の水質に影響が大きすぎる。 京都に古くから根付く銭湯文化や、酒造文化がおわってしまう。</p>	

⑩成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>北陸新幹線のような、30年にわたる多額の借金を府民に押しつける無駄な支出はしないでほしい。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構において環境影響評価の手続きが進められているところであり、建設費については、その結果を踏まえ、詳細な計画が検討されたうえで示されますが、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、コスト縮減と受益に応じた負担を求めているところです。</p>
<p>不必要な施設の建造や北陸新幹線の延長工事等は取り止めてもっと有効な事に回すべきである。福祉や物価、円安対策やコロナ防止の為に使ってほしい。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構において環境影響評価の手続きが進められているところであり、建設費については、その結果を踏まえ、詳細な計画が検討されたうえで示されますが、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、コスト縮減と受益に応じた負担を求めているところです。 また、今回の計画でお示した方向性や取組だけでなく、今後新たに発生する課題にも機動的に対応してまいります。</p>
<p>北陸新幹線延伸計画について、京都の地下水の問題、工事の残土の問題など、環境面、そして費用面でも問題が多すぎる。そもそもこれ以上新幹線など必要ない。中止を求める。</p>	<p>北陸新幹線敦賀・新大阪間については、現在、事業主体である鉄道・運輸機構にて環境影響評価の手続きが進められているところであり、京都府としては、国や鉄道・運輸機構に対し、慎重な調査と丁寧な地元説明を行うとともに、環境の保全について適切な対応を行うよう求めており、併せて、コスト縮減と受益に応じた負担を求めているところです。</p>
<p>環境負荷が膨大、かつ、利便性の上でのメリットが少ない北陸新幹線延伸計画に反対。計画の白紙撤回を求める。</p>	
<p>公共交通空白地の解消に向けて「担い手確保など地域事情に応じた人材マッチングを支援し、地域の生活を支える路線バスネットワークを維持する」とあるが、地域公共交通の担い手、特に路線バスのドライバー確保については、マッチング以上に賃金の底上げや2種免許取得支援こそ肝要ではないか。また、路線バスネットワークの維持においても「地域公共交通計画」に向けた協議会を設置するなどして住民のニーズを把握し、それを前提とした現実的に利用を見込める路線バスで維持していくことが大事であり、こうした考えがあるのならば計画に明記しておくべきではないか。</p>	<p>ドライバー確保について、2種免許取得支援は民間事業者で取り組まれております。また、賃上げについては、仕事がより魅力的なものとして認知されることが必要と考えており、人材のマッチングを支援するよう関係団体とも連携し取り組んでいるところです。 地域公共交通計画については住民のニーズを把握し、真に必要な移動手段を地域で議論し、確保していくことが重要と考えており、市町村等と連携しながら持続可能な公共交通の確立に向けて取り組んでまいります。</p>

⑱成長・交流・情報・暮らしの基盤づくり

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
<p>誘導ラインで自転車を走りやすくして、自転車で移動しやすい町にするのはいいことだと思うが、移動先で駐輪場がなく困ることが多い。無料の駐輪場を増やすことは、自転車での移動を促すとともに、放置自転車の減少に繋がると思う。</p>	<p>駐輪場は、各集客施設の利用実態に応じて施設毎に設置されることが基本です。一方、鉄道駅や繁華街等においては市町村のまちづくりの一環として、計画的に駐輪場の整備が進められてきたところであり、京都府としては、市町村が主体となった駐輪場整備を引き続き支援しつつ、自転車の走行環境の向上に資する取組を進めてまいります。</p>
<p>誘導ラインの設置や舗装の補修など、自転車走行環境整備の推進とあるが、路線バスのバス停部分もしっかり表示し、路線バスに安全に乗降できるようにしてほしい。結果として、公共交通の利用促進につながると思う。</p>	<p>御意見のとおり、地域の生活を支える路線バスの利用促進のためにも、安全なバス停留所の確保は重要であり、これまでから、バス事業者、交通管理者等と連携して、各バス停の状況に応じた対策を実施しているところです。引き続き、自転車走行位置、バスの停車場所等の路面表示を道路状況に応じて設置し、道路の安全性を高めてまいります。</p>
<p>「高齢者の躍動」として「歩きたくなる健康まちづくりプロジェクト」が掲げられているが、京都工芸繊維大学付近の高野川沿いにはベンチが少なく、歩くことを敬遠してしまう。周辺住民の散歩、憩いの場所として整備してもらえれば、高齢者や子育ての人にも嬉しいものになる。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化を踏まえ、歩きたくなるまちづくりの重要性はさらに増していると考えており、分野別基本施策⑱-28において、歩きたくなる健康まちづくりプロジェクトに取り組む旨を掲げています。</p> <p>また、高野川については、京都工芸繊維大学近くから鴨川合流点までの間に、左右岸合計22基のベンチを設置していますが、特に同大学の付近は増水時に川の流れの支障となることや、遊歩道が狭く、歩行者の通行を妨げる恐れがあるといった課題があります。いただいた御意見は、今後の施策検討の際の参考とさせていただきます。</p>

⑳もうひとつの京都の推進と地域連携

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
「京都市発の観光周遊バス」という記載があるが、京都市にとらわれず、空港などの交通の拠点から運行する方が、旅行者には助かると思う。	「もうひとつの京都」が旅行者等に共感、愛着、満足度をもたらす「滞在型観光地」として、世界有数の観光ブランドとなることを目指しており、空港などの交通拠点も含め、京阪神からの交通アクセスの改善により、もうひとつの京都エリアへの送客を拡大してまいります。
京都市と協働で進めてほしい。	総合計画の推進に当たっては、府内人口の半数を占める京都市との連携が極めて重要です。このため、基本計画に「⑳もうひとつの京都の推進と地域連携(京都市域関係方策)」として、本計画の内京都市とも連携して進める方策を取りまとめております。

数値目標

パブリックコメント(要旨)	意見に対する府の考え方
目標設定の考え方の表にも、単位を記載した方が分かりやすいと思う。	基本計画の数値目標の表については、指標名称の次に目標数値の単位を記載しています。